

平成 29 年度
中国・四国ブロック
緊急消防援助隊合同訓練

実施結果報告書



平成 29 年度 中国・四国ブロック
緊急消防援助隊合同訓練実行委員会

目次

はじめに

第1 訓練概要

1 訓練目的	1
2 訓練コンセプト	1
3 想定	1
4 訓練日時	1
5 参加人員等	2
6 重点推進事項について	2

第2 訓練実施結果

1 災害対策本部等設置運営訓練	
(1) 県災害対策本部、及び消防応援活動調整本部設置運営訓練	3～5、8
(2) 消防災害対策本部・指揮本部、及び指揮支援本部設置運営訓練	6、7、9～12
2 部隊参集訓練	13～17
(1) 指揮支援部隊	
(2) 統合機動部隊・県大隊	
(3) 県内消防応援隊	
3 後方支援活動訓練	18～20
(1) 後方支援活動訓練	
(2) 活動ミーティング	
(3) 激励巡視	
4 災害即応訓練	21、22
(1) 土砂災害救出訓練	
(2) 多重衝突事故対応訓練	
(3) 燃料補給訓練	
5 夜間訓練	23
6 1日目；訓練項目別概要票	24～51
7 部隊運用訓練	52
8 2日目；訓練項目別概要票	53～92

第3 航空部隊訓練実施結果

第4 解隊式及び訓練終了式

第5 訓練検討会

第6 事後検証会

第7 訓練企画運営

- 1 企画運営体制
- 2 会議の開催状況

資料

- (1) 参加部隊一覧
- (2) 各県の応援等実施計画による「統合機動部隊・県大隊一覧」

おわりに

はじめに

緊急消防援助隊は、平成7年（1995年）兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）の教訓を踏まえ、大規模災害等において被災した都道府県内の消防力では対応が困難な場合に、国家的観点から人命救助活動等を効果的かつ迅速に実施し得るよう、全国の消防機関相互による援助体制を構築するため、平成7年6月に創設されました。

平成15年6月の消防組織法改正により、緊急消防援助隊が法制化（平成16年4月施行）され、総務大臣が策定する「緊急消防援助隊の編成及び施設の整備等に係る基本的な事項に関する計画」に基づき、平成29年4月1日現在727本部の5,658隊（重複登録除く）が登録されています。

緊急消防援助隊地域ブロック合同訓練は、平成8年度から全国を6ブロックに区分して大規模災害活動時における緊急消防援助隊の技術及び連携活動能力の向上を目的に毎年実施されており、島根県での開催は平成21年度以来となります。

島根県においては、島根県及び島根県内9消防本部で構成する中国・四国ブロック緊急消防援助隊合同訓練実行委員会を平成28年4月に設置して訓練の準備を進め、訓練は、平成29年10月20日（金）から10月21日（土）にかけて、安来市穂日島町中海ふれあい公園を主会場として実施しました。

本訓練においては、島根県内における大規模地震の発生を想定し、「緊急消防援助隊の運用に関する要綱」及び「緊急消防援助隊の応援等の要請等に関する要綱」に基づく緊急消防援助隊の出動要請、部隊の参集及び配置等、実践に即した訓練計画を策定し、防災関係機関及び緊急消防援助隊相互の連携強化を図るとともに、島根県緊急消防援助隊受援計画の検証を目的として実施しました。

結びに、訓練に御参加いただいた広島市、岡山市、神戸市の各消防局及び中国・四国地区各県をはじめとする関係機関、協力機関の皆様の御協力により、訓練では多くの成果を上げることができました。改めて深く感謝の意を表します。

この報告書が、緊急消防援助隊の活動の充実、強化の一助となれば幸いです。

平成30年2月

平成29年度中国・四国ブロック緊急消防援助隊
合同訓練実行委員会 委員長
島根県防災部 部長 岸川 慎一

第1 訓練概要

1 目的

島根県内における豪雨及び大規模地震の発生を想定し、「緊急消防援助隊の応援等の要請等に関する要綱」、「緊急消防援助隊の運用に関する要綱」、(平成29年3月28日消防広第93号)及び「緊急消防援助隊の編成及び施設の整備等に係る基本的な事項に関する計画」(平成26年3月5日消防広第5号。以下、「要請要綱」「運用要綱」「基本計画」という。)に基づく緊急消防援助隊の応援要請、部隊の参集及び配置等、実践に即した訓練計画を策定し、防災関係機関及び緊急消防援助隊相互の連携強化を図るとともに、島根県緊急消防援助隊受援計画の検証を目的とする。

2 コンセプト

(1) 設定

島根県が過去に経験した規模相応の豪雨による水災害の発生と、震度6強の直下型地震の発生が重なった、複合型の災害想定とした。

(2) 部隊移動

1日目の緊急消防援助隊等による即時災害対応によって被害が鎮静化した松江市では、応援部隊の活動終息を見込む一方、隣接被災地の安来市では更に被害拡大が継続して応援部隊増隊の必要が生じ、緊急消防援助隊の部隊移動の必要な措置を講じ、2日目の部隊運用訓練に移行するものとした。

(3) 他機関連携

西日本唯一の輸送機部隊を保有している航空自衛隊美保基地による部隊参集訓練に係る支援をはじめ、陸上自衛隊、海上保安庁、島根県警察本部等の関係機関との連携による効果的な災害応急対策について検証した。

また、DMATとの連携による災害時医療体制について検証した。

3 想定

島根県東部地区では、数日來の先行雨量があるところに、平成29年10月18日(水)から19日(木)にかけ、さらに降雨が継続した。特に、安来市においては、日最大雨量300mmの豪雨となった。20日(金)未明に天候は回復したが、同日午前9時 島根県安来市を震源とするM7.1の直下型地震が発生し、安来市及び松江市ともに震度6強を観測した。

この豪雨と地震により、安来市及び松江市において、堤防決壊、建物等水没、土石流の発生並びに高速道路橋梁倒壊、建物倒壊等が発生している。

また、これらの被害による、死者、負傷者が多数発生しており、更に被害が拡大する見込みであり、島根県内の消防力のみでは対応が困難であることから、緊急消防援助隊の応援を要請する。

4 訓練日時

平成29年10月20日(金)9時00分から10月21日(土)13時00分まで

5 参加人員等（実動訓練）

（1）消防機関

ア 県内消防機関	9本部	20隊	77名
イ 緊急消防援助隊	66本部	122隊	484名
ウ 安来市消防団	6分団	8隊	41名

（2）関係機関

ア 陸上自衛隊出雲駐屯地		4隊	7名
イ 航空自衛隊美保基地		2隊	9名（C-1・1機）
ウ 第八管区海上保安本部美保航空基地		2隊	10名（ヘリ・1機）
エ 第八管区海上保安本部境海上保安部		2隊	38名（巡視船・1隻）
オ 島根県警察本部		3隊	20名
カ DMA T指定医療機関		3隊	13名
キ 島根県生コンクリート工業組合		2隊	2名
ク 島根県石油協同組合		1隊	2名
ケ 災害救助犬出動団体協議会		4隊	12名

（3）要救助者役

海上保安庁職員	1名
島根県消防学校初任科学生	36名
安来市消防団	16名
消防職員	11名

6 重点推進事項について

緊急消防援助隊地域ブロック合同訓練実施上の重点推進事項等に基づき、複数の県大隊が同じ被災地で活動する際に、現地合同調整所において緊急消防援助隊や関係機関の間の連携調整、及び指揮支援本部との情報連絡により円滑な災害対応を進めるため、指揮支援隊長が県大隊長に指名する「統括県大隊」という新たな項目について、また、複数の政令市から指名されることとして見直しが図られた、消防庁より委嘱される検討員により合同訓練の評価を受けることについて、実施計画に盛り込むこととして企画を進めた。

第2 訓練実施結果

1 「災害対策本部等設置運営訓練」

【実施概要】

ア 災害情報収集・伝達

島根県及び被災市は、速やかに災害対策本部等を設置するとともに災害情報収集を実施し、各災害対策本部等は連携して被害情報の共有を図った。

イ 必要な部隊の応援要請

被災市長は、県消防広域相互応援協定（案）に基づき、県内各消防本部の応援要請について代表消防機関代行へ依頼するとともに、島根県知事に対して大規模な消防の応援等が必要である旨の連絡を実施した。

連絡を受けた島根県は、消防庁長官に対し緊急消防援助隊の応援要請を実施した。

ウ 本部等設置運営

- 緊急消防援助隊の出動に伴い、島根県庁に消防応援活動調整本部を設置し、また指揮支援隊により松江市消防本部及び安来市消防本部にそれぞれ指揮支援本部を設置し、緊急消防援助隊各部隊の活動調整を実施した。
- DMA Tの派遣については、島根県災害対策本部（医療政策班）と連携調整を図り、要請手続きを実施した。
- 出雲空港内にヘリベースを設置し、島根県災害対策本部内に航空運用調整班、島根県防災航空管理所内に航空隊指揮本部を設置し、各機関と連携した。

【実施機関】

区分	担当	コントローラー（名）	検討員 評価員（名）
		プレーヤー（名）	
島根県災害対策本部	島根県防災部	20	—
		17	
消防応援活動調整本部	島根県防災部	2	2
		21	
消防災害対策本部・指揮本部	松江市消防本部	2	2
		13	
	安来市消防本部	7	2
		16	

(1) 「県災害対策本部、及び消防応援活動調整本部設置運営訓練」

島根県庁

【実施状況】

- ア 県災害対策本部、消防応援活動調整本部における緊急消防援助隊の要請及び受援のための活動調整、被害情報等の集約及び整理、関係機関との連携について訓練した。

- イ 被災地市役所は、災害発生により直ちに市災害対策本部を設置して災害応急対策に必要な措置を講じるとともに、消防本部のリエゾン及び関係機関との連携を図った。
- ウ 県災害対策本部に、航空運用調整班を配置して防災ヘリコプター等の運用調整を実施した。
- エ 県災害対策本部に、医療政策班を配置してEMISの運用調整を実施した。
- オ 災害情報収集・伝達、及び応援要請に関して、図上訓練にリンクして消防庁及び被災地消防本部の間で電話及びFAXで実施。
- カ 代表消防機関が被災地消防との想定であり、消防応援活動調整本部の代表消防機関代行の派遣職員と被災地消防の派遣職員により、災害情報の精査、並びに県内消防応援隊、緊急消防援助隊、及び関係防災機関の部隊規模と部隊配置に関して運用調整を実施した。
- キ 動態情報システム及び支援情報共有ツールを使用し、情報収集及び情報共有を実施した。
- ク ヘリテレの映像を消防応援活動調整本部でモニターし、本部員及び関係機関派遣職員等と情報共有を実施した。

【訓練成果】

- ア 災害対策本部・消防応援活動調整本部の運営について
- ・ 発災時における初動活動及び応援要請等を実施し、一連の流れを共有できた。
 - ・ 災害対応における課題等を再確認する機会となった。
- イ 関係機関との連携について
- ・ 関係機関の災害時の体制、指揮命令系統等を知る機会となった。
 - ・ 関係機関との連携の重要性を再認識できた。

【課題・対策】

- ア 災害対策本部・消防応援活動調整本部の運営について
- ・ 災害対策本部、消防応援活動調整本部内での県庁職員の役割が不明確であった。
 - ・ 情報の分析、整理が不十分であった。
⇒情報の緊急度、情報の共有方法を判断する仕組みを検討する。
 - ・ 実施する業務（必要な対応）に対する人員不足を感じた。
 - ・ 県庁職員の災害対応への習熟度の低さを感じた。
⇒年度当初の職員研修（災害対応）を充実し、情報伝達訓練を毎年度実施する。
 - ・ 災害対応が長期化した際のマネジメント
- イ 関係機関との連携について
- ・ 情報共有の仕方について、改善の必要性を感じた。
⇒情報の緊急度、情報の共有方法を判断する仕組みを検討する。
 - ・ 協力要請の指示、方法等を明確にする必要があると感じた。
⇒ビブスの着用など調整本部内の代表者を明確にするとともに、意思決定の流れを確認しておく。

【訓練評価】

ア 情報の収集・報告について

- ・ 災害状況は把握しているが、部隊（車両・人員）の投入状況、活動状況の確認、及び情報共有がなされていない。（広島市消防局検討員）
- ・ 各関係機関、各班の責任者を集めて具体的な検討がされていない。（広島市消防局検討員）

イ 進出拠点等に係る部隊活動の支援について

- ・ 進出拠点の所在、ルートは検討されていたが、具体的な指示がなく伝達されていなかった。（広島市消防局検討員）

ウ 調整本部の運営について

- ・ 県職員の中から指名し、その職員による積極的な発言により存在感を示すことが肝要。（指揮支援部隊長）
- ・ 被害状況・活動内容の把握については、各機関の配席や活動内容等のボードの記入により状況早期把握と連携調整の円滑化を図る。（指揮支援部隊長）

(2) 「消防災害対策本部・指揮本部、及び指揮支援本部設置運営訓練」

松江市消防本部、安来市消防本部

【実施状況】

- ア 災害発生により被災地消防本部はそれぞれ直ちに消防災害対策本部を設置し、管内の被害状況等の情報収集及び初動現場対応を実施した。
- イ 県内消防応援の要請について、県を通じて代表消防機関代行に行った。次いで県内の消防力を考慮して、更に大規模な消防応援について各被災地市長より知事に対して要請を行った。
- ウ 緊急消防援助隊の出動の決定通知を受け、消防災害対策本部を指揮本部に移行して受援体制の整備、関係機関との情報伝達・共有を図った。
- エ 消防応援活動調整本部に被災地消防本部として職員を派遣して連携を図った。
- オ 緊急消防援助隊の指揮に関して、指揮支援隊との連携を実施した。

【訓練成果】

- ア 適宜、指揮本部内の対策会議を行い、情報共有と確認事項の徹底を図ることができた。
- イ 指揮本部に到着した指揮支援隊に対し、大判地図で被災状況・場所・活動状況を示すとともに、指揮支援隊が求める情報に特化した内容を、管内白地図に記載し直して提供し、その後の連携を円滑に図ることができた。

【課題・対策】

- ア 管内の地図、人的・物的被害状況、緊急道路情報など、支援ツールの入力等がなかったことについては、早期に指揮支援部隊及び緊急消防援助隊の進出ルート、活動内容、応援部隊の規模等の把握に繋げることが重要である。
- イ 自衛隊の派遣要請については検討していたが、警察や建設業組合の認識がなかったことについては、災害内容等に照らし、関係機関の特色を考慮した連携について認識を深めておくことが重要である。
- ウ 余震発生時は、職員の安全確認及び庁舎の被害確認はでき、その後の被害情報の把握に努めていたが、緊急消防援助隊に対する配慮が欠けていたことについては、緊急消防援助隊に被害発生がないか、また進入ルート等に被害発生がないか、といった確認と、情報共有を怠らないことが必要である。(安来消防)
余震発生に伴う安全確認において、指揮本部から調整本部を通じ、各県大隊の安否確認の指示がなされた。(松江消防)
- エ DMATの必要可否まで至っていなかったことについては、被害状況、管内及び周辺医療機関の状況分析を行い、調整本部と連絡調整に努めることが必要である。
- オ 県内消防応援隊の部隊配置について、指揮本部の検討が十分でなく、また調整本部との連絡調整も円滑でなかったことについては、指揮本部が管内の被災状況、所属消防隊等の投入状況に照らし、必要な部隊数、隊の特色を迅速・的確に精査する能力を養っておくことが肝要となる。
- カ 発災直後に予想される多数の119番通報について、通信指令課員が事案の作成・登録及

び事案書により指揮本部へスムーズな情報共有ができた。課題としては、出動隊からの無線情報を文字へ起こして指揮本部と情報共有することが困難であり、訓練を重ねる必要がある。(松江消防)

【訓練評価】

ア 応援要請の判断について

- ・ 要請は行ったが、どこに何が必要か把握できていない。(岡山市消防局検討員)

イ 部隊活動の支援について

- ・ 進出拠点への担当職員派遣へ対応と到着した緊急消防援助隊指揮支援隊へ、現状報告はできたが、到着までに準備しておく地区の配付や職員(案内役)の指定等が行われていない。(岡山市消防局検討員)
- ・ 指揮支援部隊・指揮支援隊の県庁又は被災地消防局へ進出途上において、動態、支援ツール、携帯電話等により情報共有し、総務省を含み、決定されながら被災地入りとなった。(鳥取県中部消防局評価員)

ウ 部隊配置・投入について

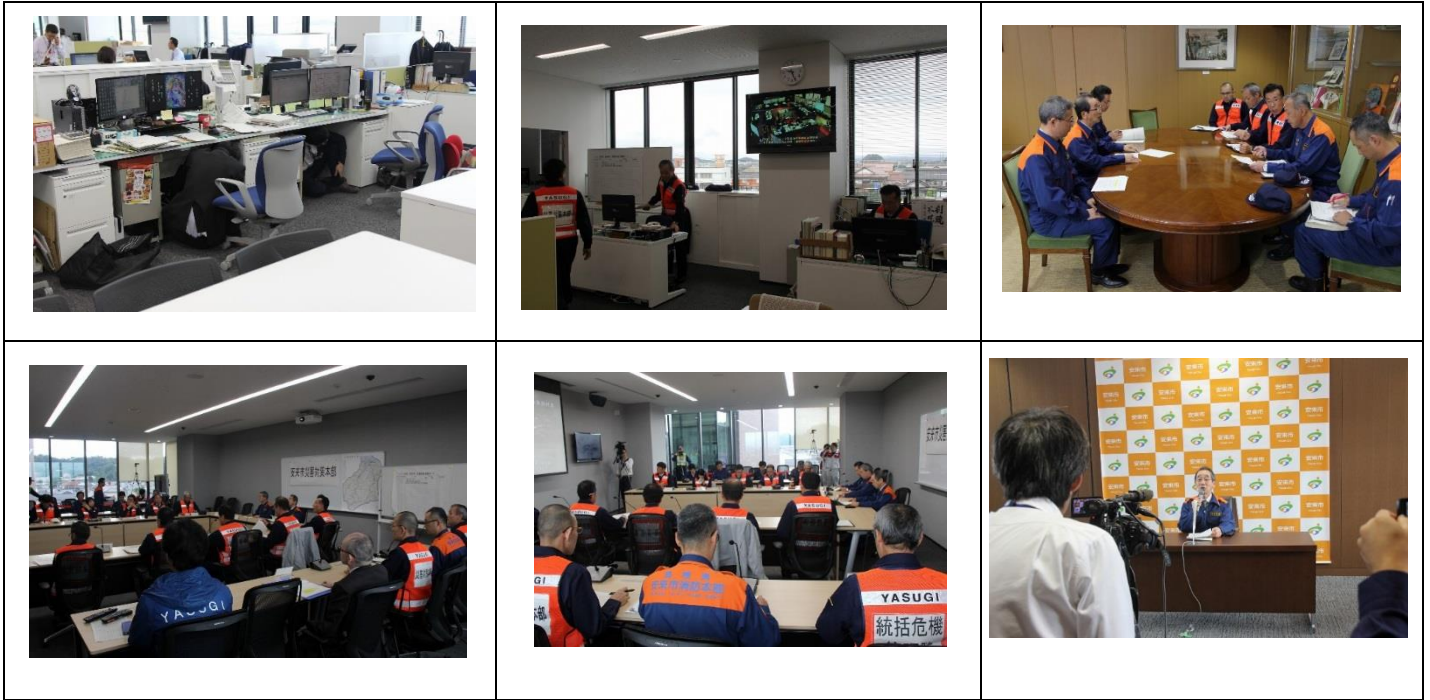
- ・ 県内消防応援隊の部隊数・配置等が最後まで決定できず、本部長から数回にわたり現状把握が求められていた。(鳥取県中部消防局評価員)

【活動記録】 災害対策本部等設置運営訓練

● 県災害対策本部、及び消防応援活動調整本部（島根県庁）

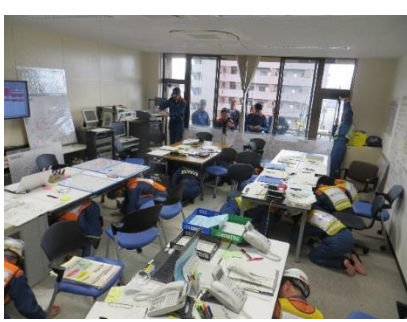


●市災害対策本部（安来市役所）



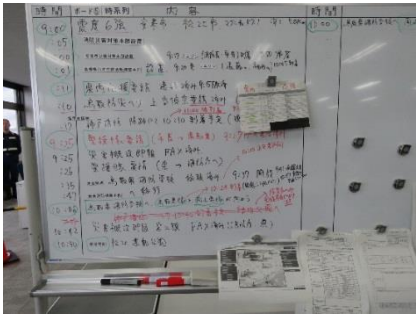
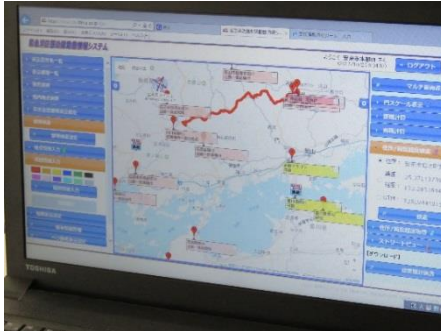
●消防災害対策本部・指揮本部、及び指揮支援本部（松江市消防本部）





●消防災害対策本部・指揮本部、及び指揮支援本部（安来市消防本部）





2 「部隊参集訓練」

(1) 指揮支援部隊

【実施状況】

安来市を震源とするM7.1の直下型地震により、安来市及び松江市ともに震度6強を観測し、「緊急消防援助隊の応援等の要請等に関する要綱」第27条に規定する別表D-1の区分Ⅱに基づき、震央管轄都道府県に対応する指揮支援部隊長の属する広島市消防局指揮支援隊が県庁に迅速出動し、また指揮支援本部の設置について長官の求めに基づき岡山市消防局指揮支援隊と神戸市消防局指揮支援隊が指揮支援部隊長の応援先の指定を受け、それぞれ被災地に出動した。

【進出先】

指揮支援部隊	進出拠点	活動場所
広島市消防局 (指揮支援部隊長)	島根県警察学校(へり)	島根県消防応援活動調整本部 (島根県庁)
岡山市消防局	島根県警察学校(へり)	松江市指揮支援本部 (松江市消防本部)
神戸市消防局	安来市消防本部(陸路)	安来市指揮支援本部 (安来市消防本部)

【課題・対策】

ア 実災害では、天候不良によるへり搬送不可及び道路状況等による遅参が考えられるため指揮支援隊が到着するまでの間、指揮本部での調整が必要である。(神戸市消防局)

【評価】

イ 支援情報共有ツールの掲示情報が分かりやすく、役に立った。各隊が情報掲示を積極的に行うとともに、進出・輸送、道路状況、活動状況等項目別に表示することで、より有効に活用できると考える。(岡山市消防局)

(2) 統合機動部隊・県大隊

【実施状況】

安来市を震源とするM7.1の直下型地震により、安来市及び松江市ともに震度6強を観測し、「緊急消防援助隊の応援等の要請等に関する要綱」第27条に規定する別表D-1の区分Ⅱに基づき、震央管轄都道府県に対応する岡山県・鳥取県・広島県・山口県の統合機動部隊が迅速出動し、その後長官の求めにより岡山県・鳥取県・広島県・山口県・香川県・徳島県・愛媛県・高知県の各県大隊が進出拠点に向け出動した。なお、統合機動部隊及び各県大隊は「緊急消防援助隊の応援等の要請等に関する要綱」第6条第2項の規定に基づく消防庁と調整本部の調整により出動先を指定するものとした。

【進出先】

緊急消防援助隊		進出拠点	備考
統合機動部隊	広島県・山口県	松江自動車道 加茂岩倉 パーキングエリア	被災地消防本部 (松江市消防本部)
	岡山県・鳥取県	鳥取県消防学校	震央管轄消防本部 (安来市消防本部)
県大隊	広島県・山口県・愛媛県	松江自動車道 加茂岩倉 パーキングエリア	
	岡山県・鳥取県・香川県・ 徳島県・高知県	鳥取県消防学校	

【課題・対策】

- ア 県隊内の連携において、統合機動部隊は、県大隊長到着までの間の状況を動態情報システムへの入力を、また、県大隊長（指揮隊・通信支援小隊）は活動状況・被害状況を支援情報共有ツールへの入力が必要を感じた。（鳥取県）
- イ 動態情報システム上に、高速道路において虚偽の通行止め表示がされており、支援情報共有ツールの確認が必要である。（岡山県）
- ウ 実災害においても進出拠点の混雑が予想されることから、複数県大隊の集合は車両台数等を考慮し、場所の選定を行う必要があり、パーキングエリアの広さも考慮し、臨機応変の対応が必要。（山口県）
- エ 確実かつスムーズな車両燃料補給体制の確立のため、進出拠点周辺の災害対応型GSの把握、若しくは燃料補給車両の有効活用が必要。（愛媛県）
- オ 山間部においてiPadの状態が悪く、進出拠点の指定の確認が遅れた。通信状態によっては後方支援本部への問い合わせ、又は緊急消防援助隊アプリによる情報確認が必要。（高知県）
- カ 実災害時も同様の対応が出来るかと考えるが、予め複数の進出ルートを検討（想定）していたことで、進出拠点の変更表示に対応できた。（高知県）

【その他】

各SAの混雑状況を確認せずに県大隊の隊列を保持したままSAに進入してしまったが、SA等を使用前に混雑状況等を把握するため、指揮隊は隊列を外れ、事前調査を経て各小隊等の誘導の必要を感じた。(徳島県)

(3) 島根県内消防応援隊

【実施状況】

松江市及び安来市による県内消防相互応援協定に基づく応援要請について、代表消防機関代行が一括要請を行い、各消防本部消防応援隊は、調整本部と被災地消防本部が協議し決定した場所を目指し出動した。

【進出先】

県内消防応援隊（7本部）	参集場所	備考
出雲消防、雲南消防、大田消防、江津消防、浜田消防、益田消防	松江市消防本部 南消防署	被災地消防本部
隠岐消防	航空自衛隊美保基地～活動拠点場所（宿営場所）	離島からの空輸による参集

【活動記録】 部隊参集訓練

● 統合機動部隊・県大隊（松江自動車道加茂岩倉パーキングエリア）



● 統合機動部隊・県大隊（鳥取県消防学校）



● 県内消防応援隊（松江市消防本部南消防署）



● 県内消防応援隊（隠岐消防 消防車両・人員輸送検証）

隠岐空港～航空自衛隊美保基地



3 「後方支援活動訓練」

【実施概要】

各県大隊の応援計画に基づき、自己完結型の訓練とし、野営等に必要な資機材、食料等の準備、及び県単位での給食訓練の実施により情報共有及び連携強化を図った。

また、翌日の部隊移動後の部隊運用訓練並びに夜間訓練に備えた活動ミーティング、及び総務省消防庁国民保護防災部防災課長の激励巡視を実施した。

【実施項目】

(1) 後方支援活動訓練

ア 日時；平成29年10月20日（金） 訓練会場到着時から翌日6時00分まで

イ 場所；松江総合運動公園（陸上競技場）

ウ 実施内容

- ・ 燃料補給訓練（仮貯蔵及び仮取扱所の設置）を実施し検証した。
- ・ 清潔区域を宿営会場（陸上競技場内）とし、各出入口に除染場所を設置し除染活動を実施した。
- ・ 給水は、基本的に各県大隊で準備した保有水を使用することとした。
- ・ 後方支援活動でのゴミ量の削減と、このことの意識付けを目的として各県大隊の発生ゴミ量の調査を行った。

(2) 活動ミーティング

ア 日時；平成29年10月20日（金） 17時15分から18時15分

イ 場所；後方支援活動訓練会場（松江総合運動公園 陸上競技場内会議室）

ウ 実施状況

- ・ 指揮支援部隊長により、災害状況、参集部隊及び装備状況等（訓練参加緊急消防援助隊、県内消防応援隊、関係機関等）をもとに、部隊運用訓練に対応する部隊配置等に係るミーティングを実施した。
- ・ 訓練支援員から、部隊運用訓練会場等における留意事項等の説明を行った。

(3) 激励巡視

ア 日時；平成29年10月20日（金） 18時15分から19時15分まで

イ 場所；松江総合運動公園 陸上競技場内（後方支援活動訓練会場）

ウ 実施機関

総務省消防庁国民保護・防災部防災課長、島根県知事、島根県防災部長、全国消防長会中国支部長、全国消防長会四国支部長、島根県消防長会会長（松江市消防長）、島根県内消防本部消防長

【活動記録】 後方支援活動訓練

● 後方支援活動訓練



● 活動ミーティング



● 激励巡視



● ゴミ量の調査結果について

本調査の目的は、過去の緊急消防援助隊出動における反省事項でも取り上げられている「後方支援活動でのゴミ量削減」を目的として、今年度から開始したものです。

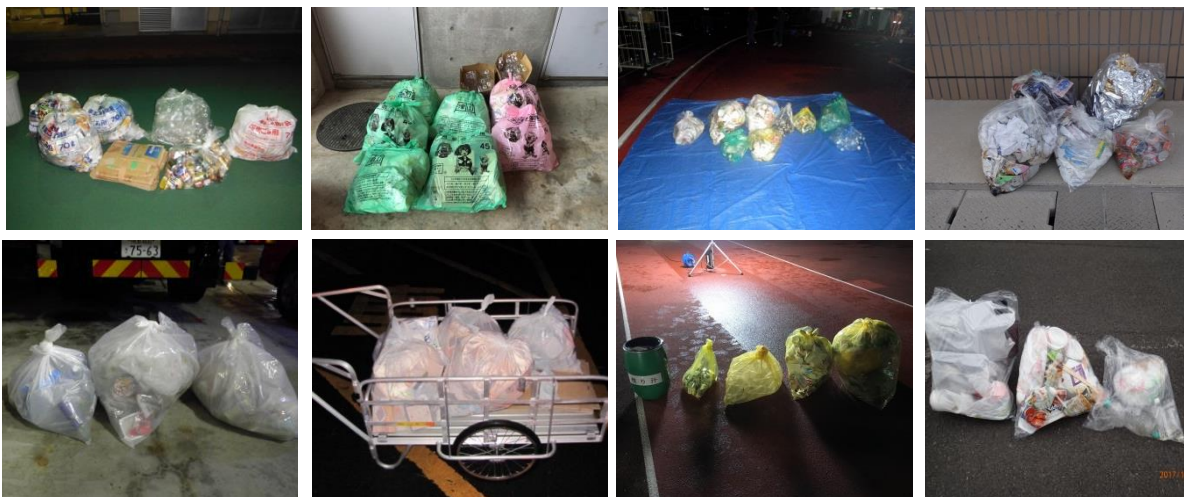
中国・四国ブロック緊急消防援助隊合同訓練において具体的なゴミ量を調査し、目に見える形で実施結果報告書に掲載すること並びに、本調査を継続しグラフ等により毎年の推移を比較することにより、「ゴミ量の削減」に繋がると考えております。

・各県隊のゴミ量集計結果

隊名	広島県大隊	岡山県大隊	山口県大隊	鳥取県大隊	島根県内応援隊
人数	117人	68人	55人	62人	84人
合計	510L	360L	360L	520L	506L
備考	可燃：160L 不燃：210L PET：70L 缶：40L	可燃：225L 不燃：90L PET：45L			

隊名	徳島県大隊	香川県大隊	愛媛県大隊	高知県大隊	神戸市消防局 指揮支援隊
人数	30人	55人	41人	39人	8人
合計	135L	180L	180L	225L	90L
備考					

・各県隊のゴミ収集状況



4 「災害即応訓練」

【実施概要】

被災地に先遣出動した部隊による災害現場初動対応として、土砂災害と多重事故想定ของ ブラインド訓練を実施した。また、島根県が災害時応援協定を締結する島根県石油協同組合の協力を得て、燃料補給に係る仮貯蔵・取り扱いの検証を実施した。

【実施状況】

(1) 土砂災害救出訓練

ア 日時

平成29年10月20日(金) 13時30分から15時00分まで

イ 場所

松江市北消防署東部分署

ウ 実施機関

統合機動部隊、島根県内消防応援隊

(2) 多重衝突事故対応訓練

ア 日時

平成29年10月20日(金) 13時30分から15時00分まで

イ 場所

島根県消防学校

ウ 実施機関

統合機動部隊、島根県内消防応援隊

(3) 燃料補給訓練

ア 場所

松江市北消防署東部分署

イ 実施機関

島根県石油協同組合

【課題・対策・評価】

●燃料補給訓練

ア 確実かつスムーズな車両燃料補給体制の確立。進出拠点周辺の災害対応型 GS の把握、もしくは燃料補給車の有効活用で不足を補うような体制の構築。(愛媛県大隊)

イ 燃料給油場所が設定されていたが非常に合理的であると考え。実際の災害時も燃料補給に関しては重要な課題であり、現地での油調達から車両への給油は単独部隊だけの活動は困難であるため組織化が必要であると考え。(島根県内参加部隊)

【活動記録】燃料補給訓練

●燃料補給訓練



5 「夜間訓練」

【実施概要】

指揮支援本部の指揮により、各隊が連携するブラインド訓練を実施した。

【実施状況】

- (1) 中高層火災対応訓練
- (2) 街区火災対応訓練
- (3) 狭隘空間救助訓練

ア 日時

平成29年10月20日（金） 19時15分から21時00分まで

イ 場所

島根県消防学校

ウ 実施機関

指揮支援部隊、活動ミーティングにおいて指定された訓練参加機関

6 1 日目 ; 訓練項目別概要

訓練項目別概要票

訓練名称	災害対策本部等 設置運営訓練	訓練番号	1 ~ 4
訓練主眼	松江市及び安来市において最大震度6強の揺れを観測したため、各機関は災害対策本部等を設置して被害情報の収集・共有化に努めるとともに、県内消防応援隊、並びに緊急消防援助隊の応援要請を実施し、効果的な災害応急対策を行うために迅速な初動体制の確立を図る。		
訓練日時	10月20日(金) 9:00 ~ 12:00		
訓練場所	島根県庁・安来市役所・松江市消防本部・安来市消防本部		
項目	島根県災害対策本部・島根県消防応援活動調整本部・安来市災害対策本部・松江消防災害対策本部(指揮本部)・安来消防災害対策本部(指揮本部)		
活動概要	<ol style="list-style-type: none"> 1 各機関は、災害発生を覚知後、直ちに災害対策本部等を設置し、災害実態の把握と情報の精査に努め、必要な措置を講じた。 2 被災地消防本部は、県内各消防本部に対し「島根県消防広域相互応援協定」に基づく応援を要請し、管内の災害状況を島根県へ報告 3 松江市消防本部並びに安来市消防本部の消防長は、各市長に対して前記の事項について報告するとともに、大規模な消防の応援等(緊急消防援助隊)を必要とする旨の知事への連絡に関する進言 4 松江市長並びに安来市長は、島根県知事に対して大規模な消防の応援等(緊急消防援助隊)が必要である旨の連絡実施 5 島根県内の各消防本部の消防長は、「島根県消防広域相互応援協定」に基づき応援隊を派遣 6 島根県知事は、島根県内の消防力を考慮して、消防庁長官に対して緊急消防援助隊の応援要請実施 7 消防庁長官は「緊急消防援助隊の応援等の要請等に関する要綱」に基づき、島根県に対応する指揮支援部隊及び統合機動部隊に出動の要請を行うとともに、第1次出動都道府県及び出動準備都道府県に対して出動の出動準備の求めを実施 8 消防庁長官は、災害規模等を考慮し、出動準備県も第1次出動県の対象として、緊急消防援助隊の出動可能隊数を把握するため、各知事に対して出動可能隊数の報告の求めを実施 9 各知事は、県内消防機関における緊急消防援助隊の出動可能隊数をとりまとめ、消防庁長官に報告 10 消防庁長官による各知事への出動の求め 11 各知事は、消防庁長官からの出動の求めを受け、代表消防機関及び県内の各消防機関へ連絡 12 消防庁長官は、島根県、松江市長、及び安来市長に対して応援決定の通知を送付 13 知事は、2市で災害が発生し、緊急消防援助隊の出動が決定したことに伴い、県庁内に消防応援活動調整本部を設置 14 県災害対策本部は、災害対策本部内に航空運用調整班を設置し、緊急消防援助隊航空小隊及び関係機関の航空機の運用に関する指揮・調整・管理を実施 15 県災害対策本部は、災害対策本部内に医療政策班を設置し、地域医療搬送等に関する調整及びDMATによる一連の災害医療に関する調整を実施 16 消防庁長官は、調整本部と調整の上、進出拠点を決定して各応援県へ連絡 17 災害応急対策に関して連携する自衛隊・警察等の関係機関に対し、県災害対策本部への参画を依頼し、連絡調整を実施 		
参加機関	島根県(健康福祉部医療政策課・防災部消防総務課)・松江市・安来市・松江市消防本部 安来市消防本部・島根県内消防本部・島根県防災航空隊・島根県警察本部・航空自衛隊美保航空基地・第八管区海上保安本部美保航空基地		
備考			

訓練項目別概要票

訓練名称	消防応援活動調整本部 設置運営訓練	訓練番号	5
訓練主眼	緊急消防援助隊の出動に伴い、島根県知事は、緊急消防援助隊の迅速かつ的確な活動のため、消防応援活動調整本部を設置し、各関係機関とともに緊急消防援助隊の活動調整を図り、災害対応体制を整備する。		
訓練日時	10月20日(金) 緊急消防援助隊の出動 ～		
訓練場所	島根県庁 6階講堂		
構成員	本部長	島根県知事代理 島根県防災部長	
	副本部長	指揮支援部隊長(広島市消防局)、島根県防災部消防総務課長	
	本部員	島根県防災部消防総務課職員 島根県防災航空隊員 代表消防機関代行職員(浜田市消防本部) 被災地消防本部職員(松江市消防本部、安来市消防本部)	
活動概要	<ol style="list-style-type: none"> 1 緊急消防援助隊の応援出動の基準に照らし、直ちに県災害対策本部に隣接して消防応援活動調整本部を設置し、効果的な災害応急対策の体制の整備 2 各種情報の集約・整理 3 緊急消防援助隊の効果的な部隊配備及び管理(部隊移動を含む) 4 県内消防応援隊及び緊急消防援助隊の消火、救助、救急活動、及び後方支援等の活動調整 5 自衛隊、警察、海上保安庁、DMAT等の関係機関との連絡調整 6 航空運用調整班及び医療政策班との活動調整 <p>※ ロールプレイング方式(コントローラからの電話、状況付与カード等による状況付与)による図上訓練形式</p>		
参加機関	島根県防災部消防総務課・広島市消防局指揮支援隊・島根県防災航空隊・浜田市消防本部・松江市消防本部・安来市消防本部		
訓練担当	島根県防災部消防総務課		
備考			

訓練項目別概要票

訓練名称	松江市緊急消防援助隊指揮支援本部 安来市緊急消防援助隊指揮支援本部	設置運営訓練	訓練 番号	6・7
訓練主眼	緊急消防援助隊の出動を受け、指揮支援隊が被災地消防本部に到着後、指揮支援本部を設置し、部隊配備された各隊の活動管理を実施する。			
訓練日時	10月20日(金) 緊急消防援助隊の出動 ～			
訓練場所	<ul style="list-style-type: none"> ・松江市消防本部 庁舎 ・安来市消防本部 庁舎 			
構成員	本部長	<ul style="list-style-type: none"> ・岡山市消防局指揮支援隊長 ・神戸市消防局指揮支援隊長 		
	本部員	<ul style="list-style-type: none"> ・岡山市消防局指揮支援隊員、松江市消防本部職員 ・神戸市消防局指揮支援隊員、安来市消防本部職員 		
活動概要	<ol style="list-style-type: none"> 1 各種情報の集約・整理 2 各被災地に対する緊急消防援助隊の活動調整・管理 3 関係機関との活動調整 4 調整本部への報告等、情報共有 <p>※ ロールプレイング方式（コントローラからの電話、状況付与カード等による状況付与）による図上訓練形式</p>			
参加機関	岡山市消防局・神戸市消防局			
訓練担当	松江市消防本部・安来市消防本部			
備考				

訓練項目別概要票

訓練名称	島根県防災航空隊ヘリベース 設置運営訓練		訓練番号	8
訓練主眼	緊急消防援助隊の出動要請を受け、指揮支援部隊長等の受入をはじめ、緊急消防援助隊航空小隊及び関係機関の航空機の運用に関する指揮及び活動管理等を実施する。			
訓練日時	10月20日(金) 緊急消防援助隊の出動 ～			
訓練場所	出雲空港（島根県防災航空管理所）			
構成員	指揮者	島根県防災航空隊長		
	本部員	島根県防災航空隊職員		
活動概要	<ol style="list-style-type: none"> 1 消防応援活動調整本部及び航空運用調整班との連絡調整 2 緊急消防援助隊航空小隊及び関係機関の航空機の運用に関する調整及び管理 3 その他、ヘリベースの運営に必要な活動 			
参加機関	中国四国各県防災航空隊・自衛隊・海上保安庁			
訓練担当	島根県防災航空隊			
備考				

訓練項目別概要票

訓練名称	市災害対策本部 設置運営訓練	訓練番号	9
訓練主眼	松江市及び安来市において最大震度6強の揺れを観測したため、各機関は災害対策本部等を設置して被害情報の収集・共有化に努めるとともに、緊急消防援助隊の応援要請を実施し、効果的な災害応急対策を行うために迅速な初動体制の確立を図る。		
訓練日時	10月20日(金) 9:00 ~ 12:00		
訓練場所	松江市役所・安来市役所		
項目	松江市災害対策本部・安来市災害対策本部		
活動概要	<ol style="list-style-type: none"> 1 松江市及び安来市の災害対策本部は、各管轄市消防本部で実施されるシミュレーション訓練にリンクした情報伝達訓練 2 被害情報の共有化 3 各消防本部消防長の進言をもとに、各市長は大規模な消防応援の必要の判断により、知事に対する要請の連絡 4 安来市災害対策本部は、安来消防災害対策本部（指揮本部）、島根県災害対策本部、及び調整本部の間において、災害発生からの災害応急対策の初動対応に係る図上訓練の実施 		
参加機関	松江市・安来市・松江市消防本部・安来市消防本部		
備考			

訓練項目別概要票

訓練名称	部隊参集訓練(迅速出動)														訓練番号	10			
訓練主眼	指揮支援部隊長の属する指揮支援隊、消防庁又は指揮支援部隊長から連絡を受けた指揮支援隊、第1次出動都道府県大隊に属する統合機動部隊及び第1次出動航空小隊は迅速出動するとともに、被災地への進出経路の確認、後続の県大隊の活動に資する情報収集及び提供を行う。																		
訓練日時	10月20日(金) 各隊の実動時間																		
参加部隊	隊別	広島市		岡山市		神戸市		鳥取県		岡山県		広島県		山口県		計			
	部隊名	隊	人	隊	人	隊	人	隊	人	隊	人	隊	人	隊	人	隊	人		
	指揮支援隊	1	5	1	4	1	8										3	17	
	統合機動部指揮隊							1	4	1	4	1	5	1	5			4	18
	消火小隊							2	4	1	5	2	10	2	10			7	29
	救助小隊							1	5	2	10	3	14	2	10			8	39
	救急小隊							1	3	2	6	2	6	2	6			7	21
	通信支援小隊											1	3					1	3
	後方支援小隊							2	4			9	23	2	6			13	33
	特殊災害小隊																	0	0
	特殊装備小隊							1	4	1	3							2	7
計	1	5	1	4	1	8	8	24	7	28	18	61	9	37			45	167	
活動概要	<p>迅速出動の措置要求に係る別表D-1「区分Ⅱ」の適用を受け、要請から早期受け入れに係る連絡調整等の実施</p> <p>1 指揮支援隊 進出経路の確認。被害等の情報収集。調整本部、被災地消防本部への参画(動態情報システム・情報共有ツール・ヘリコプター動態管理システムを活用)</p> <p>2 統合機動部隊指揮隊 各小隊への活動指示。指揮支援隊へ災害情報及び活動状況の報告</p> <p>3 各小隊(消火・救助・救急等) 統合機動部隊指揮隊の指揮のもと、進出拠点への出動</p> <p>4 航空小隊 救助・救急活動 情報収集航空小隊は、ヘリサット、ヘリテレ等を活用した情報収集及び映像配信</p>																		
参加機関	広島市消防局・岡山市消防局・神戸市消防局・中国地区各緊急消防援助隊・鳥取県消防学校																		
備考																			

訓練項目別概要票

訓練名称	部隊参集訓練（県内消防応援隊）	訓練番号	11														
訓練主眼	島根県消防広域相互応援協定に基づく県内消防応援隊の派遣等に係る訓練を実施する。																
訓練日時	10月20日（金） 各隊の実動時間																
参加部隊	隊別 部隊名	島根県												計			
		隊	人														隊
	県内消防応援隊 指揮隊代行	1	4													1	4
	消火小隊	3	15													3	15
	救助小隊	3	15													3	15
	救急小隊	4	14													4	14
	後方支援小隊	3	7													3	7
	特殊装備小隊	1	2													1	2
	計	15	57													15	57
活動概要	<p>県内広域消防相互応援協定による要請・応援に係る訓練の実施</p> <p>1 島根県消防広域相互応援協定</p> <p>被災地より応援出動の要請を受けた後に各消防本部を出発し、指定された集結場所への進出</p>																
参加機関	島根県内各消防本部																
訓練担当	松江市消防本部																
備考																	

1 訓練項目別概要票

訓練名称	自衛隊輸送機による消防車輸送訓練 (県内消防応援隊)										訓練番号	12					
訓練想定	離島からの県内応援消防本部車両を航空機に搭載し、本土まで空輸するための手順を確認する。他機関と連携し輸送を実施する。																
訓練日時	10月20日(金) 9:30~11:00																
参加部隊	隊別	島根県														計	
		隊	人													隊	人
	県内消防応援隊	1	3												1	3	
	計	1	3												1	3	
活動概要	<p>離島からの集結において航空機を活用する手順、他機関との連携等に係る検証の実施</p> <p>航空法令等に則り、航空自衛隊の輸送機を活用した搭載卸下訓練を実施し、併せて、隊員の輸送について実施</p>																
参加機関	航空自衛隊美保基地・隠岐空港・隠岐消防本部																
備考	<p>事前調査によりC-1輸送機ではCD1クラス以上の消防車両の機内固縛が十分に行えないことから、実動について人員搬送のみを行うこととしたもの。</p> <p>なお、隠岐空港において、代替車両の積載車にて搭載卸下を実施するとともに、諸手続き等の検証を行った。</p> <p>この際、隠岐消防隊の実動訓練参加の消防車両については、フェリー輸送により実動訓練に参加した。</p>																

2 訓練評価

【島根県評価員】

- (1) C-1輸送機の車両積載スペースが狭く、CD-Iクラス以上の車両搭載は不可能であり、代替車両により搭載要領の確認、及び隊員の輸送訓練を行った。C-2輸送機による車両及び隊員の輸送訓練の実施が望まれる。
- (2) 隊員のみを輸送した場合、隊員の移手段について、他消防本部等との連携調整について留意する。

3 活動状況



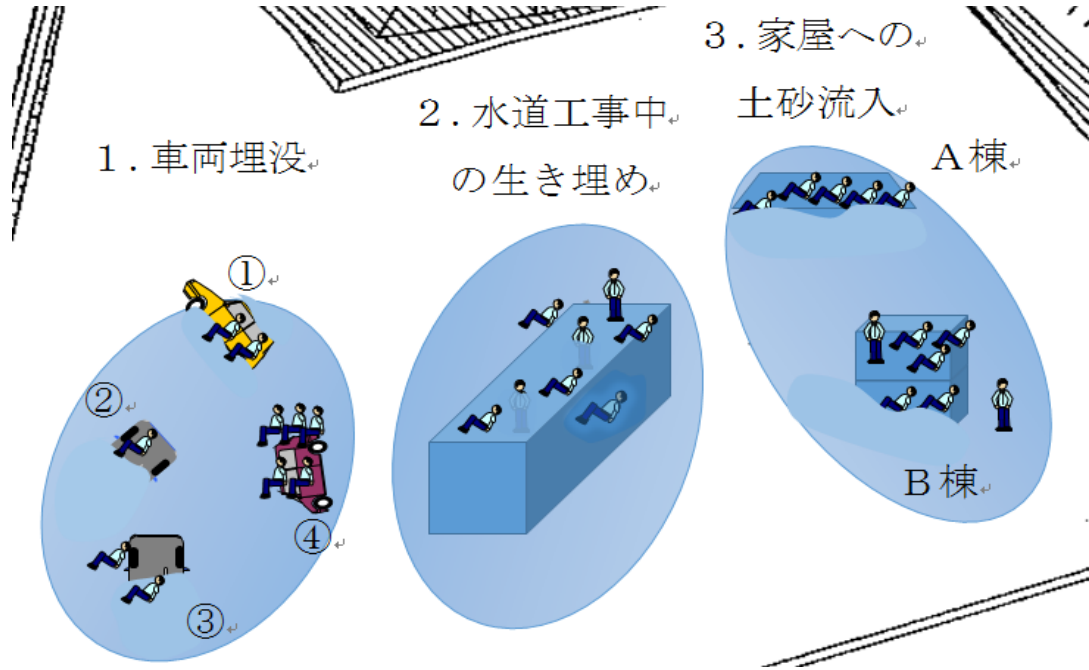
訓練項目別概要票

訓練名称	部隊参集訓練（迅速出動以外の緊援隊）														訓練番号	13					
訓練主眼	迅速出動した指揮支援隊、第1次出動都道府県大隊に属する統合機動部隊及び第1次出動航空小隊を除く、各出動県大隊及び各県航空小隊は、指示を受けた進出拠点へ進出後、指定場所への移動を実施する。																				
訓練日時	10月20日(金) 要請後の実動時間																				
参加部隊	隊別	鳥取県		岡山県		広島県		山口県		香川県		徳島県		愛媛県		高知県		計			
	部隊名	隊	人	隊	人	隊	人	隊	人	隊	人	隊	人	隊	人	隊	人	隊	人		
	県大隊指揮隊	1	3	1	4					1	4	1	5	1	5	1	4			6	25
	消火小隊	2	10	2	10	4	14	1	5	2	10	1	5	2	10	3	15			17	79
	救助小隊	2	10	1	5					3	15	1	5	1	5	1	5			9	45
	救急小隊	2	6	1	3	1	3			4	12	2	6	2	8	1	3			13	41
	通信支援小隊	1	—			1	3									1	3			3	6
	後方支援小隊	4	8	5	11	8	22	4	13	4	14	3	9	4	9	3	9			35	95
	特殊災害小隊																			0	0
	特殊装備小隊					2	5													2	5
計	12	37	10	33	16	47	5	18	14	55	8	30	10	37	10	39			85	296	
活動概要	<p>各県大隊の集結から出動ルート・進出拠点等の決定・連絡等、緊急消防援助隊の参集に係る訓練の実施</p> <p>1 県大隊指揮隊 各小隊の集結から出動ルートの指示及び活動の管理。指揮支援隊へ災害情報等の報告を実施。各小隊を指揮し、進出拠点への進出 (動態情報システム・情報共有ツール・ヘリコプター動態管理システムの活用)</p> <p>2 各小隊 県大隊指揮隊長の指揮のもと、進出拠点への進出</p> <p>* 各県大隊は、消防庁長官からの求めを受けた後に各消防本部から実動時間により出動(ブロック単位又は車両特性に応じた部隊編成等について考慮)</p>																				
参加機関	中国四国各緊急消防援助隊・鳥取県消防学校																				
訓練担当	島根県・島根県防災航空隊・松江市消防本部・安来市消防本部																				
備考																					

1 訓練項目別概要票

訓練名称	土砂災害救出訓練							訓練番号	14
訓練時間	訓練所要時間	待機完了	出動	完了					
	90分	13時25分	13時30分	15時00分					
訓練場所	松江市北消防署 東部分署								
訓練想定	土砂災害が発生し要救助者がとり残されている。								
	<p>訓練趣旨</p> <p>●多様な事故形態が想定される土砂災害の現場において、過去の災害を基に3種類（車両埋没・水道工事中の生き埋め・家屋への土砂流入）の訓練想定を設定した。</p> <p>★土砂災害におけるトリアージ方法、重機の有効的な活用、要救助者へ対しての土圧の適切な管理及び傾斜した建物への適切な安定化処置を考慮した効果的な救助活動の展開を想定した。</p>								
参加部隊	隊別	鳥取県	岡山県	島根県					合計
	部隊名	隊数	隊数	隊数					隊数
	統合機動部隊指揮隊	1	1						2
	救助小隊	1	2	1					4
	津波・大規模風水害対策車(バギー)			1					1
	消火小隊	1	1	1					3
	救急小隊	1	2	1					4
	特殊装備小隊(重機)		1						1
	合計	4	7	4					15
《活動概要》									
<p>1 統括統合機動部隊長 現場指揮本部を設置し、各県統合機動部隊及び県内応援隊の活動調整及び指揮系統を明確化した活動を実施</p> <p>2 救助小隊及び消火小隊 土砂災害現場において特殊装備小隊と共に効果的な活動及び救急活動支援を実施</p> <p>3 救助小隊（バギー） 土砂災害現場において傷病者の搬送が困難な場所から応急救護所までの傷病者搬送を実施</p> <p>4 特殊装備小隊（重機） 土砂災害現場において救助小隊と共に効果的な救助活動を実施</p> <p>5 救急小隊 要救助者のトリアージ、応急手当、応急救護所の設置及び実施</p> <p>6 島根県石油協同組合 被災地へ集結した応援車両へ対して、ローリから給油を実施（給油は模擬とし、仮貯蔵・仮取扱の検証を実施）</p>									
関係機関	島根県石油協同組合								
指揮支援部隊	神戸市消防局指揮支援隊								

2 訓練想定・施設



【要救助者状況】

1	被災車両4台 (①赤2名、②赤1名、③黄1名・赤1名、④黄4名・緑1名)
2	土砂上に緑5名、土砂胸まで黄1名、土砂首まで赤1名、土砂下1.5m黒1名
3	A棟 (緑1名、黄2名、赤2名) B棟 1階 (緑1名、赤3名) 2階 (緑2名、赤1名)

【傷病程度等】

訓練番号	通し番号	負傷者						配置先	トリアージ		容態変化		負傷箇所	歩行	意識 (JCS)	昏倒	呼吸数	SpO2 (%)	脈拍数	血圧
		No	氏名	フリガナ	関係	性別	年齢		START	PAT	有・無	タイミング								
①	1	佐藤 浩二 (ダミー)	サトウコウジ	車両3	女	40	車両1運転席	赤	赤	無		両大腿骨折	不可	100	無	36	100	138	80/55	
①	2	木村 順 (ダミー)	キムラジュン	車両3	男	30	車両1後部席	赤	赤	無		フレイルチェスト	不可	30	無	48	95	145	110/65	
①	3	田中 美保 (ダミー)	タナカミホ	車両1	女	25	車両2運転席	赤	赤	無		多発外傷	不可	300	無	36	92	156	90/60	
①	4	川田 康太 (ダミー)	カワタコウタ	車両2	男	32	車両3運転席	黄	赤	有	救出後	眼帯打撲	不可	3	有	24	97	100	130/80	
①	5	斎藤 高志 (ダミー)	サイトウタカシ	車両2	男	35	車両3助手席	赤	赤	無		頭部打撲	不可	100	無	40	88	120	70/30	
①	6			車両4	男		車両4運転席	黄	赤	有	救出中	左胸部痛	不可	3	有	12	93	60	110/60	
①	7			車両4	男		車両4助手席	黄	黄	無		右足骨折	不可	300	無	6	90	40	測定不能	
①	8			車両4	男		車両4後部席	黄	赤	有	救出中		不可	0	有	24	98	100	130/80	
①	9			車両4	男		車両4後部席	黄	黄	無		右足骨折	不可	3	有	12	93	60	110/60	
①	10			車両4	男		車両4後部席	黄	黄	無		右足骨折	不可	300	無	6	90	40	測定不能	
②	11	豊川 均 (ダミー)	アイカワトシ	作業員1	男	50	土の中 (-1.5m)	黒	黒	有		CPA	不可	300	無	なし	測定不能	なし	測定不能	
②	12	芦田 康史 (ダミー)	アシダヤスシ	作業員2	男	30	土の中 (首だけ出る)	赤	赤	無		左足挫創	不可	30	無	48	95	145	110/65	
②	13	鳥越 謙治 (ダミー)	トリゴエケンジ	作業員3	男	42	土の中 (胸まで出る)	黄	赤	無	救出中		不可	300	無	6	85	60	80/40	
②	14			作業員4	男		土の上	緑	緑				不可	1	有	18	98	100	120/80	
②	15			作業員5	男		土の上	緑	緑				不可	100	無	25	95	96	130/75	
②	16			作業員6	男		土の上	緑	緑				不可							
②	17			作業員7	男		土の上	緑	緑				不可							
②	18			作業員9	男		土の上	緑	黄	有	救出後	眼帯打撲	不可	300	無	40	88	120	70/30	
③	19			A棟住人①	女		A棟 屋根下	緑	緑				不可	100	無	40	88	120	70/30	
③	20			A棟住人②	男		A棟 屋根下	赤	赤	無		骨盤骨折	不可	300	無	12	87	60	100/60	
③	21	矢島 敦美 (ダミー)	ヤジマアツミ	A棟住人③	女	74	A棟 屋根下	赤	赤	無		頭部出血・発火煙	不可	300	無	6	85	60	80/40	
③	22			A棟住人④	男		A棟 屋根下	黄	赤	有	救出後	脳卒中	不可	300	無	なし	測定不能	なし	測定不能	
③	23			A棟住人⑤	女		A棟 屋根下	黄	黄	無		右足打撲	不可	1	有	12	95	70	100/60	
③	24	那須 隆 (ダミー)	ナスダカシ	B棟住人①	男	30	B棟 1階	赤	赤	無		両大腿骨折	不可	30	無	6	90	50	30/40	
③	25	那須 めぐみ (ダミー)	シマダメグミ	B棟住人②	女	29	B棟 1階	赤	黒	有	救出中	骨盤骨折	不可	0	有	18	99	90	140/90	
③	26			B棟住人③	男		B棟 外	緑	緑				不可	0	有	18	99	80	120/80	
③	27			B棟住人④	男		B棟 1階	赤	赤	無		両大腿骨折	不可	0	有	18	99	80	120/80	
③	28			B棟住人⑤	男		B棟 2階	赤	赤	無		両大腿骨折	不可	100	無	36	100	138	80/55	
③	29			B棟住人⑥	男		B棟 2階	赤	赤	無		両大腿骨折	不可	100	無	30	100	130	90/60	
③	30			B棟住人⑦	男		B棟 2階	緑	緑				不可							

3 訓練評価

【参加部隊】

- (1) 土砂災害生埋め者救出訓練において、訓練時間内に要救助者の発見に至らず、訓練終了後も要救助者の位置等が不明であった。訓練終了後に、訓練参加隊への詳細な訓練想定（要救助者情報）のフィードバックがあれば、各隊の反省に活かすことができる。（岡山県統合機動部隊）
- (2) 救急隊の活動は救急隊に全て任されるような指示があったが、救急隊は岡山県隊に2隊しかおらず、傷病者の数からすると、救急隊を統括する人員を設ける余裕がなかった。流動的に島根県隊の救急隊に指揮を執ってもらい指揮隊との調整を依頼した。救急隊の統括責任者を設け、その指揮の下で救急隊が活動する。（2日目の部隊運用訓練では救急隊の統括責任者が明確で、活動がしやすかった。）（岡山県統合機動部隊）
- (3) 即応訓練時、DMATの要請、派遣について実際に部隊が来るのか、みなしなのか分からず、訓練中に混乱した部分があった。ブラインド訓練なので、要領等について必要最低限の打合せはしっかりしておく必要があると思われます。（鳥取県統合機動部隊）
- (4) 即応訓練（土砂災害）時、統合機動部隊が2隊（岡山、鳥取）おり、岡山県隊が指揮を取ることとなったが、指揮所が2箇所設営及び岡山の訓練ブースの前に鳥取指揮所、鳥取訓練ブース前に岡山指揮所が設営され、どちらが統括指揮所か迷う場面があった。（島根県内参加部隊）
- (5) 土砂災害訓練においては救出面だけでなく、国土交通省（TEC-FORCE）と連携し、二次災害対策を含んだ総合的な訓練を行う必要がある。（島根県内参加部隊）

4 活動状況

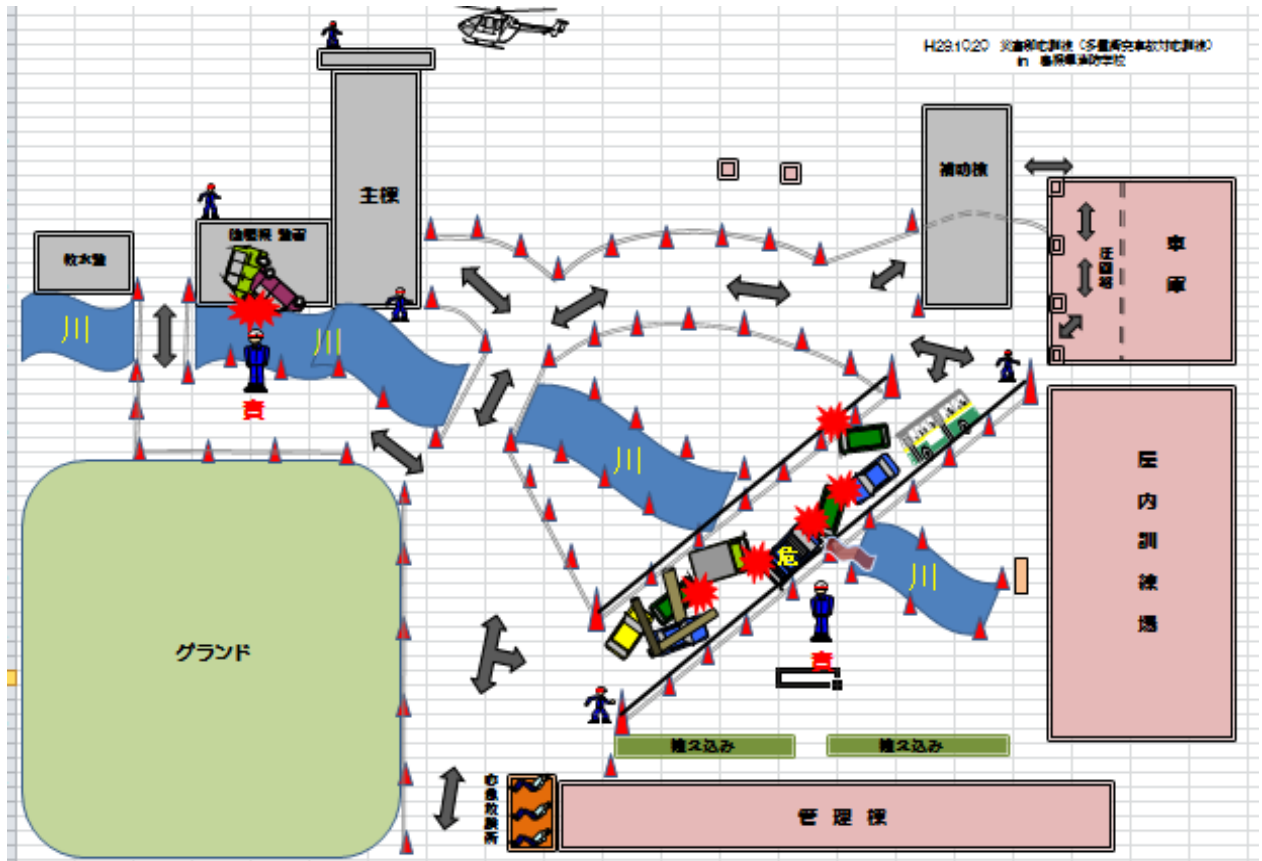




1 訓練項目別概要票

訓練名称	多重事故衝突事故対応訓練							訓練番号	15
訓練時間	訓練所要時間	待機完了	出動	完了					
	90分	13時25分	13時30分	15時00分					
訓練場所	島根県消防学校								
訓練想定	多重衝突事故が発生し要救助者がとり残されている。								
	<p>訓練趣旨</p> <p>●対応が困難な想定される多重衝突事故の現場において、過去の災害を基に2種類（橋梁上での危険物積載車両と丸太運搬車両が絡む多重衝突事故・立体駐車場から河川への転落事故）の訓練想定を設定した。</p> <p>★危険物積載車両への適切な対応、救助工作車が進入不能な橋梁上での救助活動、ヘリコプターとの連携及び水際での活動におけるゾーニング（PFDの適切な着装）を考慮した効果的な救助活動の展開を想定した。</p>								
参加部隊	隊別	広島県	山口県	島根県					合計
	部隊名	隊数	隊数	隊数					隊数
	統合機動部隊指揮隊	1	1						2
	救助小隊	3	2	1					6
	消火小隊	2	2	1					5
	救急小隊	2	2	1					5
	通信支援小隊 (無線中継車)	1							1
	後方支援小隊	8	2						10
	合計	17	9	3					29
《活動概要》									
<ol style="list-style-type: none"> 1 統括統合機動部隊長 現場指揮本部を設置し、各県統合機動部隊及び県内応援隊の活動調整及び指揮系統を明確化した活動を実施 2 消火小隊 危険物積載車両の事故における適切な対応を実施 3 救助小隊 橋梁上及び河川への墜落による活動困難な状況における効果的な救助活動を実施 4 通信支援小隊 災害現場における情報を遠隔地へ効果的に伝達 5 救急小隊 要救助者のトリアージ、応急手当、応急救護所の設置及び実施 									
関係機関									
指揮支援部隊	岡山市消防局指揮支援隊								

2 訓練想定・施設



【要救助者状況】

橋梁	車両9台 要救助者21名 (赤4名、黄4名、緑13名)
立駐	車両2台 要救助者4名 (黄2名、赤2名)

【傷病程度等】

車両番号	通し番号	負傷者						トリアージ			負傷箇所	歩行	意識 (JCS)	生命	呼吸数	SpO2 (%)	脈拍数	血圧
		No	氏名	フリガナ	関係	性別	年齢	START	PAT	有・無								
①	1					男		緑	緑	無		可	0	有				
②	2	緒方 加奈	オガタ カナ	車両②の運転手	女	40	赤	赤	無	胸部打撲痕	不可	300	無	18	90	130	70/30	
③	3	木村 佑	キムラ ユウ	車両③の運転手	男	30	赤	赤	無	胸部打撲痕	不可	200	無	42	90	130	80/40	
④	4			車両④助手席の同僚	男		赤	赤	無	骨盤打撲	不可	100	無	24	97	120	130/90	
⑤	5			車両⑤運転手の同僚	女		黄	黄	有	後頭部違和感	不可	3	有	18	98	60	100/60	
⑥	6			車両⑥の運転手	男		緑	緑	無		可	0	有					
⑦	7			車両⑦運転手の同僚	男		黄	黄	無	胸部打撲痕	不可	2	有	18	96	80	150/80	
⑧	8			車両⑧助手席の同僚	男		赤	赤	無	胸部打撲痕	不可	100	無	10	92	40	70/30	
⑨	9			車両⑨運転手の同僚	男		黄	黄	無	両大腿痛	不可	0	有	18	99	90	110/60	
⑩	10			車両⑩助手席の上司	男		黄	黄	有	腹部圧痛	不可	3	有	24	97	100	120/80	
⑪	11			車両⑪運転席の部下	男		緑	緑	無		可	0	有					
⑫	12			車両⑫の運転手	男		緑	緑	無		可	0	有					
⑬	13			車両⑬の運転手	男		緑	緑	無		可	0	有					
⑭	14	1	立川 美恵	タチカワ ミエ	助手席と夫婦	女	51	赤	赤	無	胸部・骨盤打撲	不可	200	無	18	90	130	70/30
⑮	15	2			運転席と夫婦	男		黄	黄	無	両大腿痛	不可	3	有	18	98	60	100/60
⑯	16	3	浅井 絵理	アサイ エリ	助手席の友人	女	25	赤	赤	無	骨盤打撲	不可	30	無	48	95	100	135/80
⑰	17	4			運転席の友人	女		黄	黄	無	頸部・腰部痛	不可	3	有	18	98	60	100/60

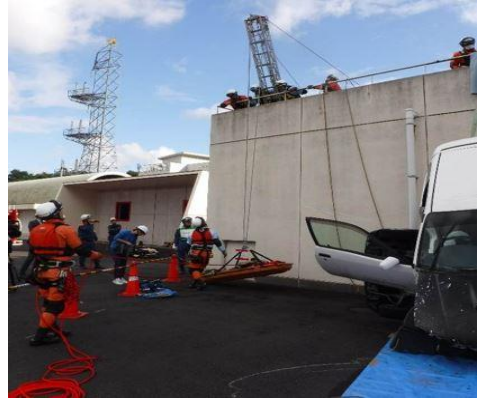
3 訓練評価

【島根県評価員】

- (1) 大型車両が訓練場入口に停車したため後続の車両が進入できなかった。車両誘導員の増員及び活動を考慮した誘導をするため入念な打合せの実施が必要。
- (2) 消防学校敷地内の訓練に於いて、消防車両が行き詰まり救急車両の搬出ルートが塞がれていた。被災地職員役を増員し、車両誘導を行う必要性を感じる。

4 活動状況

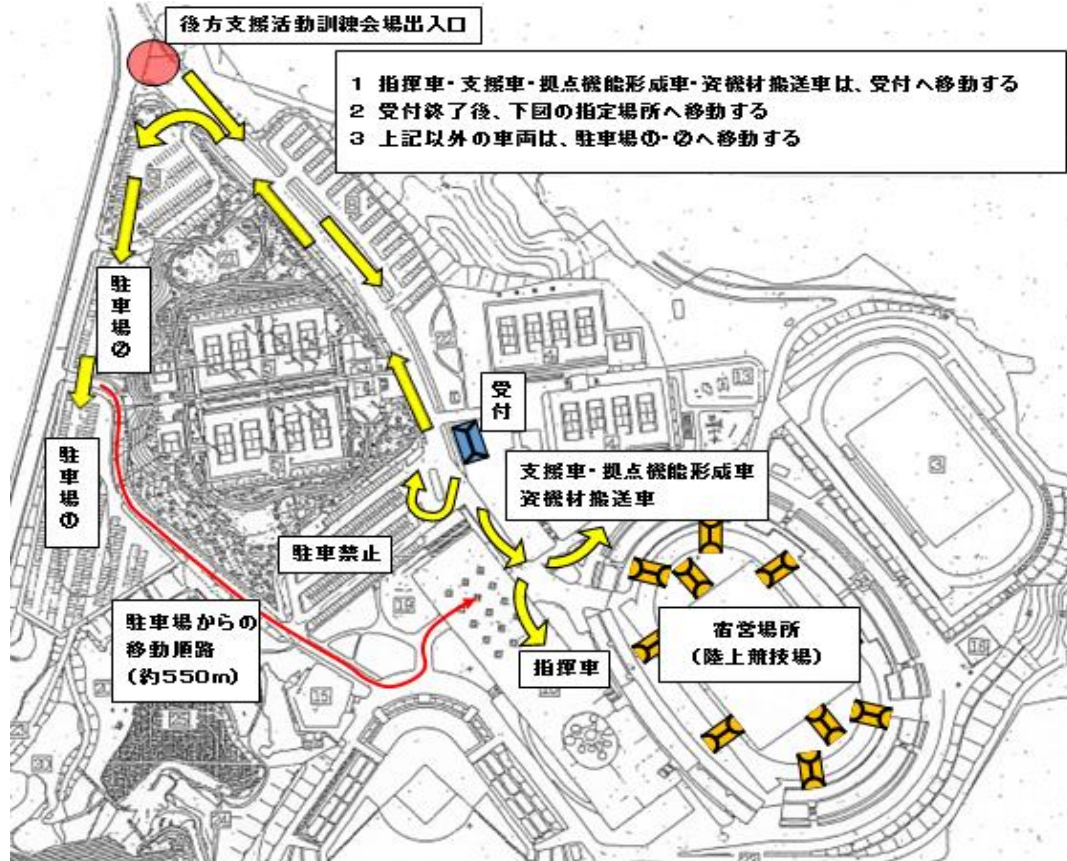




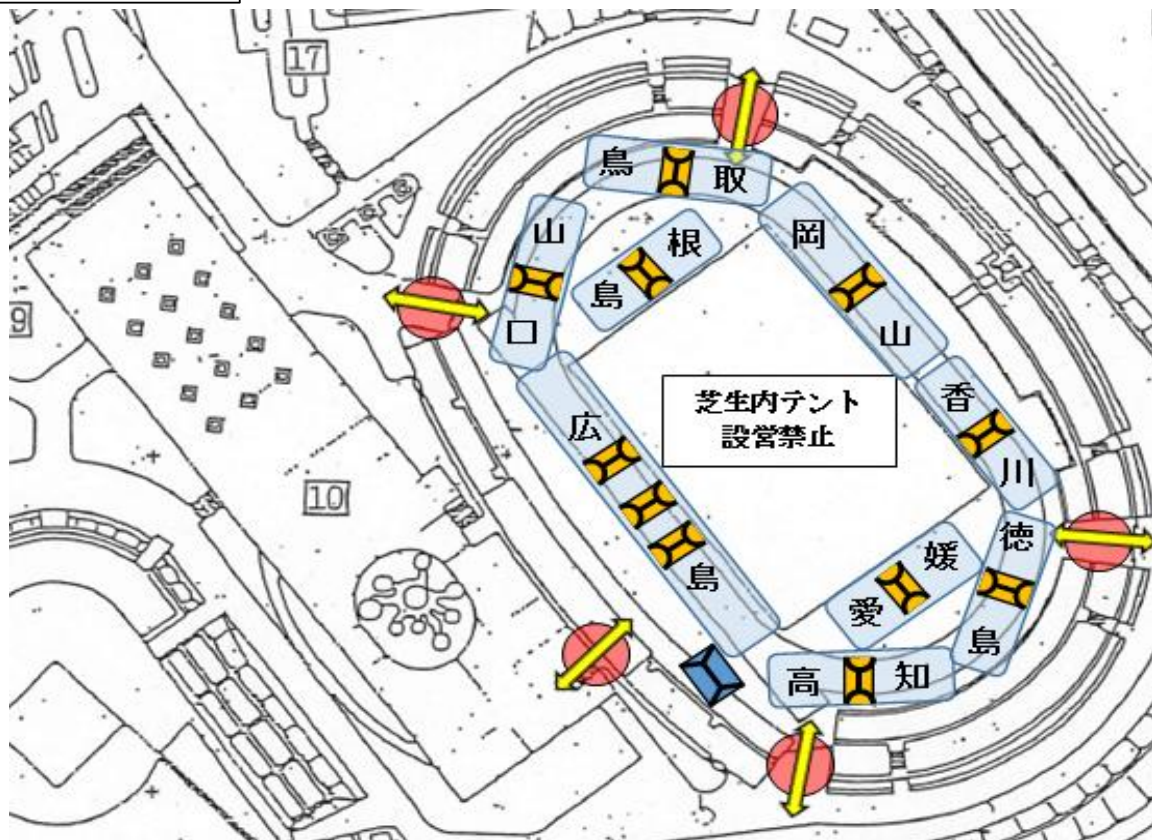
1 訓練項目別概要票

訓練名称	後方支援活動訓練										訓練番号	16
訓練日時	10月20日(金) 16:00 ~ 10月21日(土) 6:00											
訓練場所	後方支援活動訓練会場等											
訓練想定	<p>自己完結型の後方支援活動訓練を実施する。</p> <p>訓練趣旨 ●被災地における長期間にわたる消防活動を想定し、県大隊ごとに自己完結による後方支援活動を実施する。 ★宿営地における清潔区域の確保（デコンタミネーション）及びゴミの削減に着目した後方支援活動の展開を想定した。</p>											
参加部隊	隊別	広島県	岡山県	兵庫県	鳥取県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県	高知県	島根県	合計
	部隊名	隊数	隊数	隊数	隊数	隊数	隊数	隊数	隊数	隊数	隊数	隊数
	指揮支援部隊長	1										1
	指揮支援隊長		1	1								2
	県大隊指揮隊	1	2		2	1	1	1	1	1	1	9
	消火小隊	6	3		3	3	1	2	2	3	3	23
	救助小隊	3	3		3	2	1	3	1	1	4	17
	救急小隊	3	3		3	2	2	4	2	1	4	18
	通信支援小隊	1								1		2
	後方支援小隊	17	4		7	6	3	4	4	3	4	45
	特殊災害小隊											0
	特殊装備小隊	2	1		1						2	6
島根県内消防応援隊指揮隊代行										1	1	
合計	34	17	1	19	14	8	14	10	10	19	146	
<p>《活動概要》</p> <p>1 全隊 後方支援小隊を中心に後方支援活動を実施</p> <p>2 県大隊 燃料補給車を活用した燃料補給訓練を実施 (給油は模擬とし、仮貯蔵・仮取扱の検証を実施)</p>												
備考	<p>指揮支援隊の宿営場所</p> <p>広島市消防局指揮支援隊（指揮支援部隊長）及び岡山市消防局指揮支援隊は島根県消防学校とし、神戸市消防局指揮支援隊は安来市消防本部庁舎とした。</p>											

2 訓練想定・施設



テント配置図



● 印の場所へ除染資機材を設置する。衣服や靴の汚れを取り除き宿営場所へ入ること。

↔ 印の場所は隊員の出入口 (宿営場所出入口)

3 訓練評価

【参加部隊】

- (1) 会場のグラウンド状況については最適（全天候型）であったが、車両の進入及び駐車ができないため、資器材の搬入・搬出が困難であった。後方支援車両のうち、資器材を積載している車両の駐車場所の確保等（広島県大隊）
- (2) 宿営地である松江総合グラウンドの陸上競技場内への進入については、デコンの観点から運動靴への履き替えを促されていたが、徹底されていなかった。また、デコンエリアがかなり簡素的なものだった。デコンについても、後方支援訓練の一環であることを周知徹底を図るとともに、デコンエリアを広く設定すること。（岡山県大隊）
- (3) 清潔区間確保（デコンタミネーション）の徹底がなされていたとは思えなかった。たらい、ブラシ及び水タンク（桶）を準備していたが、周知不足で表示も分からなかった。隊員配置を考慮できればよいと考える。（愛媛県大隊）
- (4) 各県大隊の宿営エリアが事前に指定されていた。激励巡視等の関係上、実施計画で各県大隊の宿営エリアが事前に指定されているが、実災害を想定すれば宿営エリア等については現地で検討すべき事項であると考えられるため早期に到着した県大隊等に宿営エリアの割振りを行わせる。（徳島県大隊）

4 活動状況



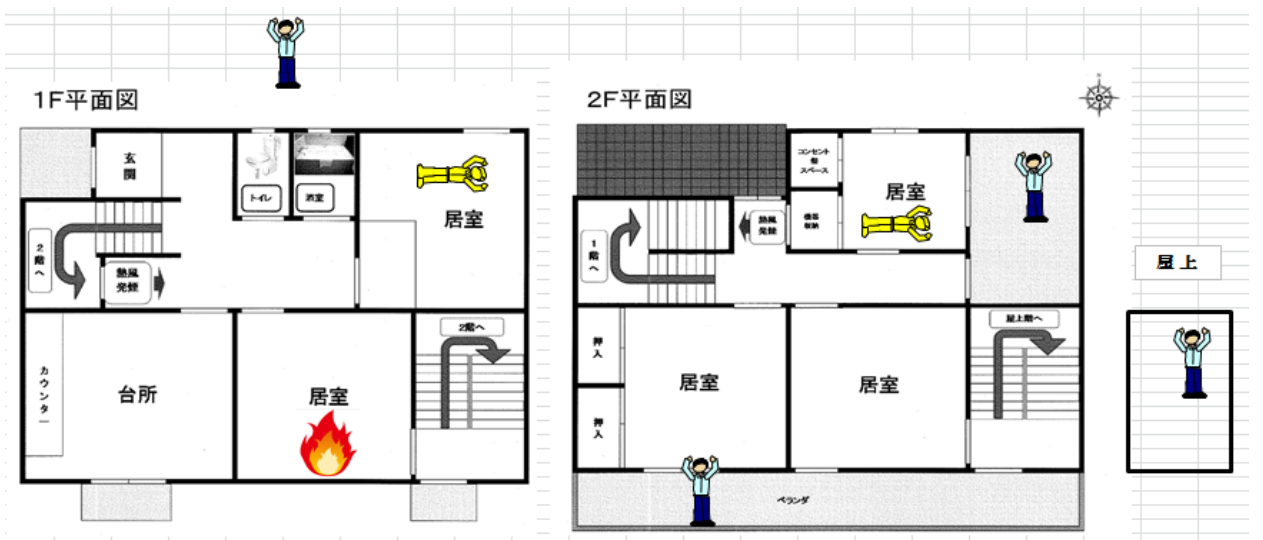
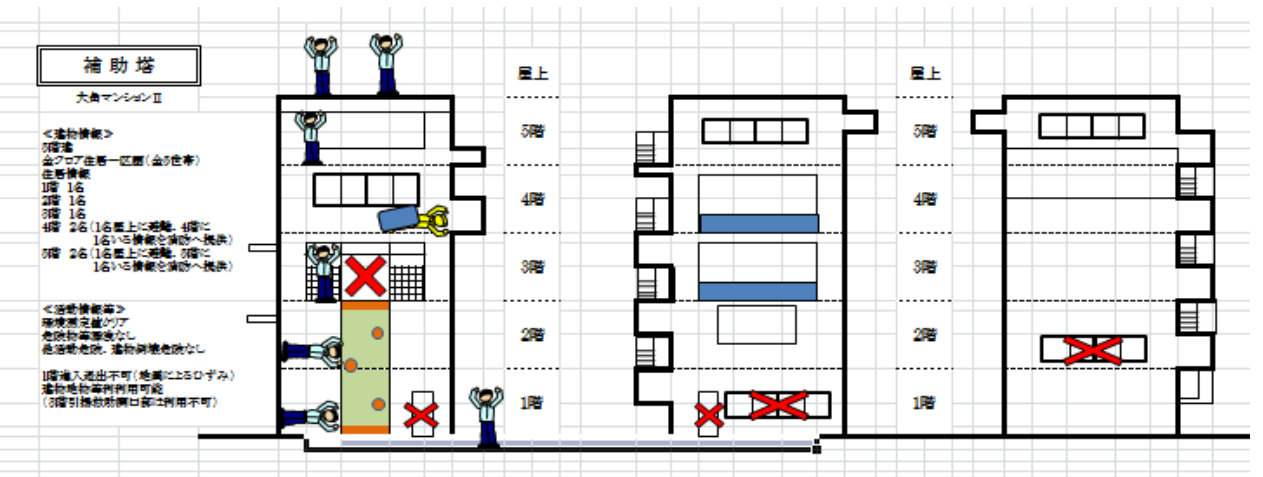
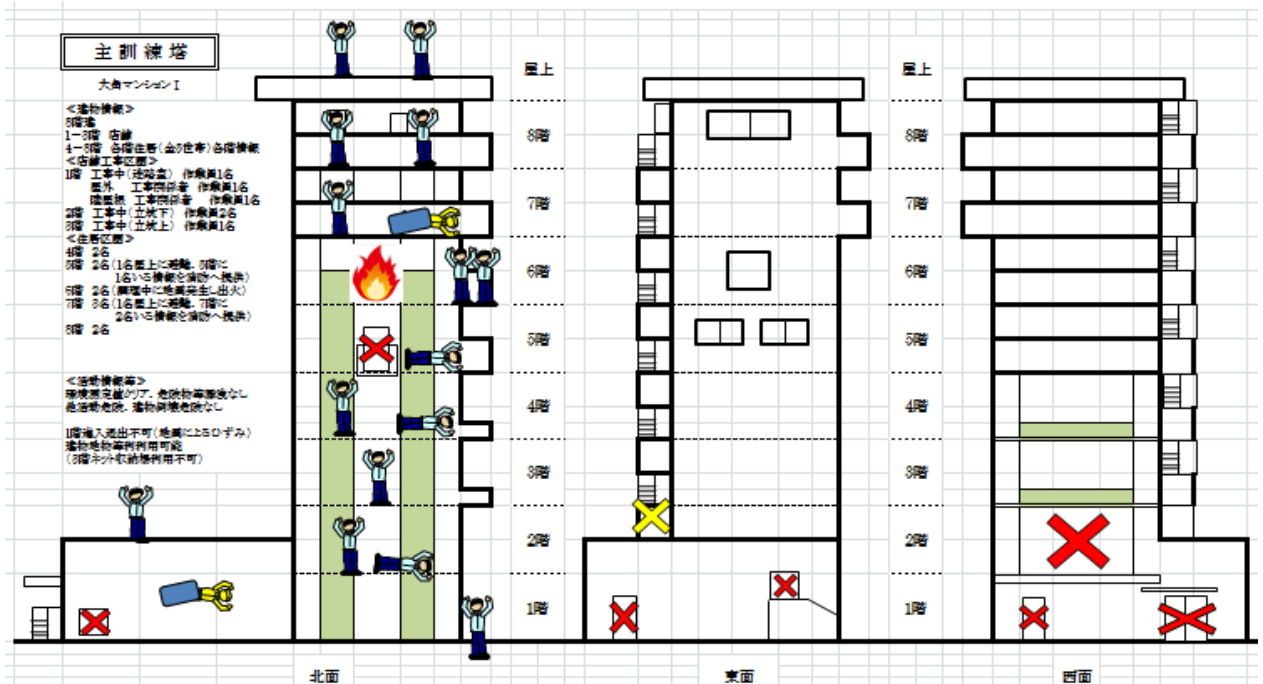
訓練項目別概要票

訓練名称	活動ミーティング	訓練番号	17
訓練主眼	2日目(21日)の部隊移動後の活動内容及び活動方針等について活動ミーティングを実施する。		
訓練日時	10月20日(金) 17:15 ~ 18:15		
訓練場所	後方支援活動訓練会場 (松江総合運動公園 陸上競技場内会議室)		
活動概要	<p>1 指揮支援部隊長 被害状況、部隊規模及び部隊の装備特色等を考慮し、被災地ごとの部隊配置について指示下命</p> <p>2 指揮支援隊長 指揮支援隊が指揮支援部隊長により部隊配置の指示を受けた緊急消防援助隊と連携するうえで、被害状況及び編成された部隊の特色等を考慮し、統括県大隊長を指名し、活動調整を実施</p>		
参加機関	指揮支援部隊長・各指揮支援隊長・各県大隊長 島根県内消防応援隊指揮隊・島根県内消防応援隊指揮隊代行		
訓練担当	松江市消防本部・安来市消防本部		
備考			

1 訓練項目別概要票

訓練名称	夜間訓練						訓練番号	18
訓練時間	訓練所要時間	待機完了	出動	完了				
	105分	19時05分	19時15分	21時00分				
訓練場所	島根県消防学校							
訓練想定	島根県消防学校において中高層火災及び街区火災が発生又、地震により狭隘空間へ要救助者がとり残されている。							
	<p>訓練趣旨</p> <p>●夜間における中高層火災及び街区火災又、地震による狭隘空間への閉じ込めを想定し訓練を設定した。</p> <p>★梯子車の有効な活用、中高層建物における階段使用不能等の活動障害を考慮した活動及び狭隘空間における要救助者の予後考慮した効果的な救助活動の展開を想定した。</p>							
参加部隊	隊別	徳島県	香川県	愛媛県	高知県	島根県		合計
	部隊名	隊数	隊数	隊数	隊数	隊数		隊数
	県大隊指揮隊	1	1	1	1	2		6
	救助小隊	1	3	1	1			6
	消火小隊	1	2	2	2	1		8
	救急小隊	2	3	2	1			8
	特殊装備小隊（梯子車）					1		1
合計	5	9	6	5	4		29	
<p>《活動概要》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 統括県大隊長 現場指揮本部を設置し、各県大隊及び県内応援隊の活動調整及び指揮系統を明確化した活動を実施 2 消火小隊 中高層火災・街区火災及び狭隘空間救助への適切な対応を実施 3 救助小隊 中高層火災・街区火災及び狭隘空間救助への適切な対応を実施 4 特殊装備小隊（梯子車） 中高層火災における効果的な車両活用を実施 5 救急小隊 要救助者のトリアージ、応急手当、応急救護所の設置及びびを実施 								
指揮支援部隊	岡山市消防局指揮支援隊							

消防学校消防活動訓練棟



消防学校CSR訓練場



【要救助者情報】

消防活動訓練棟

主訓練塔

	要救数	要救情報	付加
屋上	2名	手振り要救 2 (生)② → バイタル等実測	
8階	2名	手振り要救 2 (生)② → バイタル等実測	
7階	2名	手振り要救 1 (生)② → バイタル等実測 重量物下敷 1 (参)② → ダミー活用(空室活用)	重量物除去→救助資機材 活用必要
6階	2名	手振り要救 2 (生)② → バイタル等実測	火災発生(発煙時)
5階	1名	搬送要救(参行不)②(参)② → バイタル等実測	E-目撃者
4階	2名	手振り要救 1 (生)② → バイタル等実測 右下既打撲 1 (参行不)②(参)② → バイタル等実測	
3階	1名	手振り要救 1 (生)② → バイタル等実測	2階から3階への 風外押出実行禁止
2階	3名	手振り要救 1 (生)② → バイタル等実測 くま状 搬送要救 1 (生)② → バイタル等実測 右下既打撲(既打撲)②(参)② → バイタル等実測	E-目撃者 ホコリ吸排気装置不可
1階	2名	搬送要救(既打撲)②(参)② → バイタル等実測 くま状 重量物下敷 1 (参)② → ダミー活用(空室活用)	1階進入理由不可 重量物除去→救助資機材 活用必要
計17名 (生体15、ダミー2)			

補助塔

	要救数	要救情報	付加
屋上	2名	手振り要救 2 (生)② → バイタル等実測	
5階	1名	手振り要救 1 (生)② → バイタル等実測	
4階	1名	重量物下敷 1 (参)② → ダミー活用(空室活用)	重量物除去→救助資機材 活用必要
3階	1名	手振り要救 1 (生)② → バイタル等実測	引換開口部活用不可
2階	1名	搬送要救(参行不)②(参)② → バイタル等実測	
1階	2名	搬送要救(既打撲)②(参)② → バイタル等実測 くま状 搬送要救(参行不)②(参)② → バイタル等実測	1階進入理由不可
計8名 (生体7、ダミー1)			

福富方専用住宅 《建物情報》 耐火 2/0 居住者6名。出火場所は1階居室。

《活動情報》 オール電化住宅、ガス設備なし、建物倒壊危険なし

ドームは隣接工場と仮定する。ドーム内火災等災害なし。関係者等設けず。
出火原因は、鍋をしていたら、地震でカセットコンロが倒れた。

	要救数	要救情報	付加
1階	2 (1)	建物外②×1 ダミー②×1 CPA	開錠は玄関のみ 他は内部から開錠可 居室炎上
2階	3	ダミー②×1 CPA 手振り要救②×2 生体 バイタル等実測	
屋上	1	手振り要救②×1 生体 バイタル等実測	

計6名(生体4、ダミー2)

CSR訓練場

本田方専用住宅 《建物情報》 耐火 1/0 居住者3名。平屋建建物が倒壊。
 《活動情報》 オール電化住宅、ガス設備なし、建物倒壊危険なし
 環境測定値クリア。危険物等漏洩なし。他活動危険なし。

	要救数	要救情報	付加
1階	2 (1)	ダミー①×1 CPA 生体② ×1 建物外③×1	進入は南側○位置のみ
計3名(生体2、ダミー1)			

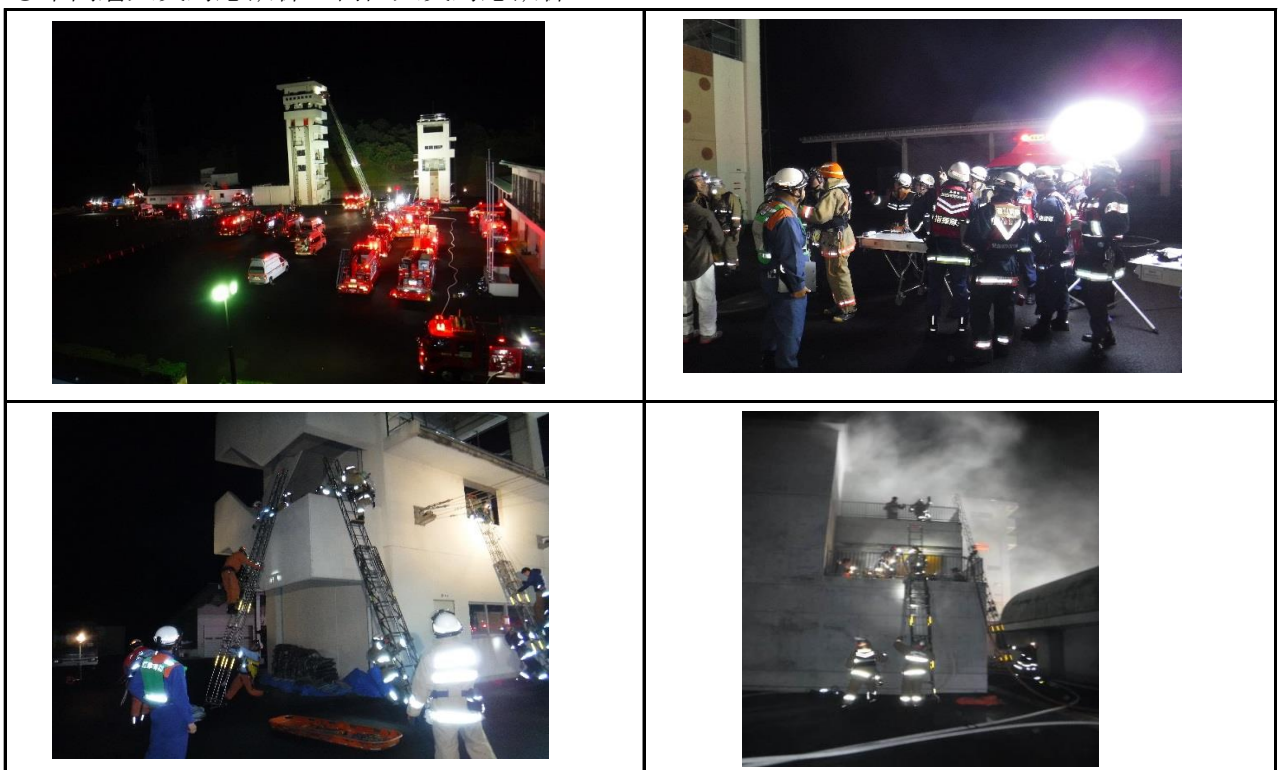
3 訓練評価

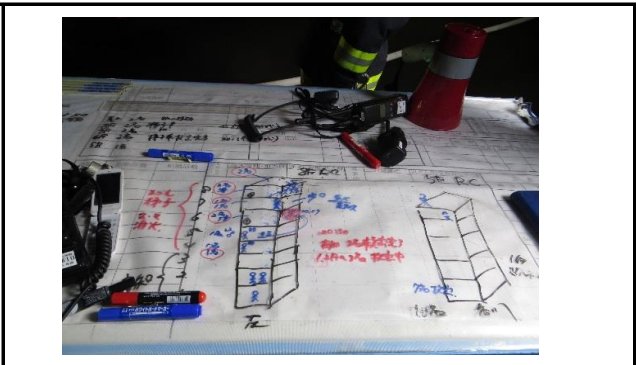
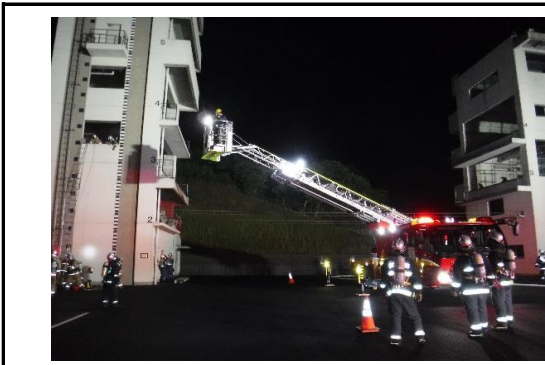
【参加部隊】

- (1) 訓練開始の指示等がコントローラー側と訓練実施側と意思疎通がうまくいかず、少し手間取ってしまう場面があった。訓練開始時間は、野宮訓練場所を出発する時から開始して、順次到着した大隊から訓練に着手しても良いのではないかと感じる。(高知県大隊)
- (2) 実災害を考慮して、指令からの動き出しが同じであれば、遅延した隊があったとしても訓練開始して良いと感じた。また、訓練の進行状況確認及び安全管理を担うスタッフの打ち合わせは重要なので、ミーティングの時間は十分に取って行うべきと考える。(島根県内消防本部)
- (3) 消防学校での訓練は、学生の傷病者役での参加や高層建物を想定した訓練の実施が出来る等のメリットを感じた。(島根県内消防本部)

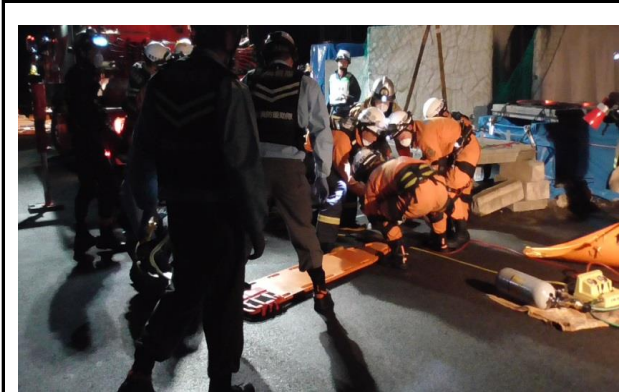
4 活動状況

●中高層火災対応訓練・街区火災対応訓練





● 狹隘空間救助訓練



7 「部隊運用訓練」

【実施状況】

平成29年10月21日（土）9時00分から11時40分

	訓練番号	訓練名称	参加機関
災害対策本部等運営訓練		消防応援活動調整本部	広島市消防局指揮支援隊（部隊長） 松江市消防本部（代表消防機関）
		指揮支援本部・指揮本部	神戸市消防局指揮支援隊 岡山市消防局指揮支援隊 安来市消防本部（被災地消防本部）
部隊運用訓練	1	災害情報収集・情報伝達訓練	災害対策本部等運営訓練参加機関 島根県防災航空隊、各緊急消防援助隊
	2	道路啓開訓練	島根県内消防応援隊指揮隊 陸上自衛隊出雲駐屯地
	3	堤防決壊逃げ遅れ者救出訓練	島根県防災航空隊、海上保安本部
	4	建物等水没孤立者救出訓練	鳥取県大隊、徳島県大隊、岡山県大隊、 島根県内消防応援隊、海上保安本部
	5	土石流生き埋め者救出訓練	岡山県大隊、香川県大隊、島根県内消防 応援隊、島根県警察本部、災害救助犬
	6	橋梁倒壊孤立者救出訓練	高知県大隊、島根県内消防応援隊、海上 保安本部
	7	橋梁倒壊多重事故対応訓練	広島県大隊、愛媛県大隊
	8	倒壊座屈建物救出訓練	山口県大隊、鳥取県大隊、災害救助犬
	9	大規模火災対応訓練	岡山県大隊、安来市消防団、島根県防災 航空隊、島根県生コンクリート工業組合
	10	DMAT 活動及び傷病者対応訓練	DMAT 指定医療機関、島根県内消防応援 隊（救急指揮所）

8 2日目；訓練項目別概要

1 訓練項目別概要票

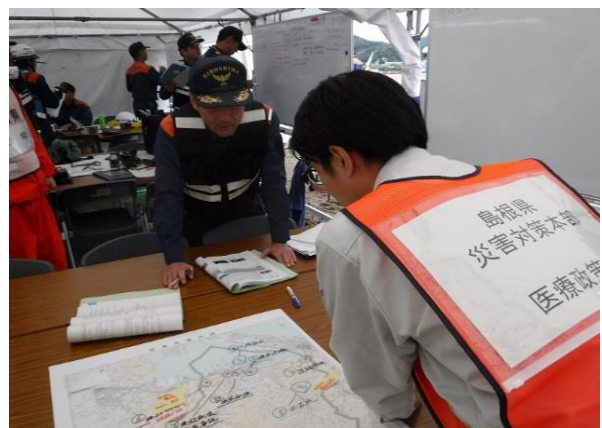
訓練名称		災害対策本部等運営訓練										訓練番号					
訓練時間		訓練所要時間		待機完了		出動		完了									
		160分		8時45分		9時00分		11時40分									
訓練場所		部隊運用訓練会場内															
訓練想定		緊急消防援助隊の迅速かつ的確な活動のため消防応援活動調整本部等を運営し、各関係機関とともに緊急消防援助隊の活動管理を推進し、円滑有効なる災害応急対策を図る。															
		「調整本部」、「指揮支援本部」、「指揮本部」、「航空運用調整班」、「DMAT調整本部」の各本部を設置し、その運営について検証する。 ※島根県災害対策本部及び各市災害対策本部については割愛する。															
参加部隊	隊別	広島市		岡山市		神戸市		島根県		安来市		その他				合計	
	部隊名	隊数	人数	隊数	人数	隊数	人数	隊数	人数	隊数	人数	隊数	人数			隊数	人数
	指揮支援部隊長	1	5													1	5
	調整本部							1	3							1	3
	指揮支援本部			1	4	1	8									2	12
	指揮本部									1	2					1	2
	航空運用調整班							1	2			1	1			2	3
	DMAT調整本部							1	3			1	4			2	7
	合計	1	5	1	4	1	8	3	8	1	2	2	5			9	32
<p>《活動概要》</p> <p>1 調整本部 被害状況等の情報集約により、活動方針の決定等について指揮支援本部との連絡調整を図り、緊急消防援助隊の活動を管理</p> <p>2 指揮支援本部 神戸市消防局指揮支援隊は、活動調整を担当する県大隊の指揮を行うとともに、部隊移動した岡山市消防局指揮支援隊と指揮支援本部において、連携して災害対応を実施 岡山市消防局指揮支援隊は、部隊移動前の担当県大隊を指揮し、神戸市消防局指揮支援隊との災害現場の住み分けを明確化して災害対応を実施 指揮支援本部は、部隊配置に際して統括県大隊長を指名し、現地合同調整所における関係機関連携と情報集約について指示し、指揮系統を確立</p> <p>3 指揮本部 被害情報の調査。市及び県災害対策本部、調整本部、及び指揮支援本部との連携</p> <p>4 航空運用調整班（ヘリベース） 地上部隊との調整及び各航空小隊への指示等の統制</p> <p>5 DMAT調整本部 調整本部、医療政策班との連携調整により、DMAT活動拠点本部の指揮を実施</p>																	
関係機関		県立中央病院															
指揮支援部隊		広島市消防局指揮支援隊、神戸市消防局指揮支援隊、 岡山市消防局指揮支援隊															

2 訓練評価

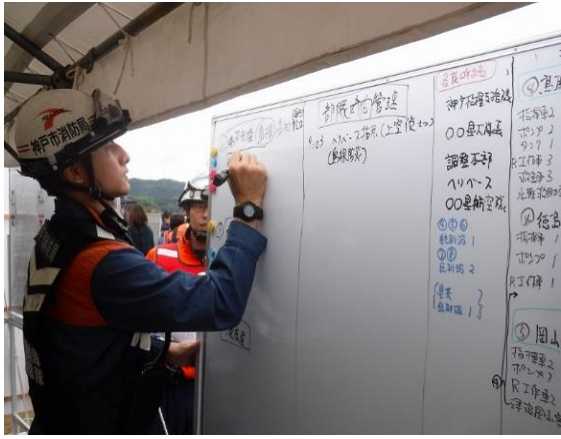
【岡山市消防局検討員】

- (1) 現場⇄指揮支援隊⇄調整本部⇄関係機関の情報連絡、伝達はしっかり行われていた。
- (2) 指揮支援本部から県大隊へ現場写真の送信を指示し、県大隊からも現着時に送信がなされ、指揮支援本部と現場の情報共有が行われ、タブレットの有効性を感じた。
- (3) 航空運用調整班へヘリコプター動態管理システムの持参がなかった。

3 活動状況







1 訓練項目別概要票

訓練名称		災害情報収集・情報伝達訓練							訓練番号	①
訓練時間		訓練所要時間	待機完了	出 動						
		5分	8時45分	9時00分						
訓練場所		部隊運用訓練会場全域								
訓練想定		豪雨と地震により、安来市管内で多くの被害が発生している。								
参加部隊	隊別	広島市	神戸市	岡山市	島根県	安来市	その他			合計
	部隊名	隊数	隊数	隊数	隊数	隊数	隊数			隊数
	指揮支援部隊（長）	1								1
	調整本部				1					1
	指揮支援本部		1							1
	指揮支援隊			1						1
	指揮本部					1				1
	航空運用調整班	島根県防災航空隊				1				1
		海上保安庁					1			1
		合計	1	1	1	2	1	1		
<p>《活動概要》</p> <p>1 指揮支援本部 消防応援活動調整本部に対し、航空隊による水害及び地震の被災地状況確認の出動要請を実施</p> <p>2 調整本部 被災地状況の情報収集の出動指示を行った島根県防災航空隊から、被災地状況報告（訓練会场上空偵察）を受け、指揮支援本部に伝達</p> <p>2 航空小隊（島根県防災航空隊） 画像電送装置等を活用し、航空運用調整班を通じて調整本部へ上空より収集した被害情報を伝達（ヘリテレにより映像を配信） *映像は、消防庁へも配信</p>										
関係機関		第八管区海上保安本部美保航空基地								
指揮支援部隊		広島市消防局指揮支援隊、神戸市消防局指揮支援隊、岡山市消防局指揮支援隊								

2 訓練評価

【広島市消防局検討員】

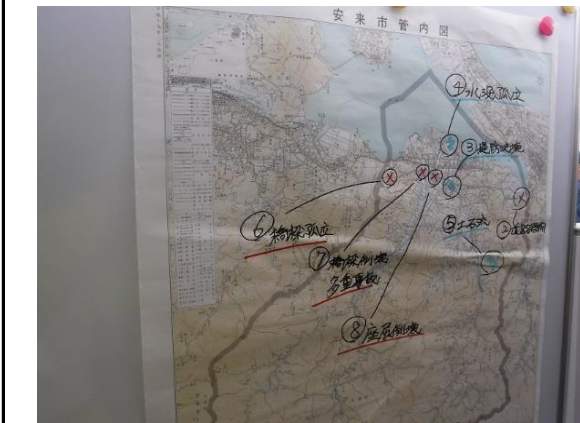
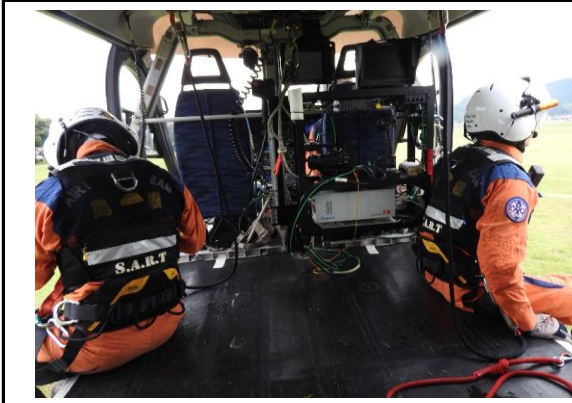
- (1) 関係機関と連携する現場において、現地合同調整所の設置には至らなく、活動協議で終わっていたように思われたが、消防主導で席を構えることが大切である。
- (2) 通信支援小隊による映像配信について、各訓練部署位置において無線通信車は通信できる状態に展開されていた。

【鳥取県中部消防局評価員】

- (1) 無線周波数の指定以外の通信の運用について「重要とされる事項の統制」が必要と感じる。
また、訓練ブースが多くなればなるほど、指揮支援本部との交信が多くなり、訓練規模に応じた指揮支援本部の数を考慮する必要があるのではと考える。
- (2) 陸上部隊からの航空指揮を考えれば、消防、防災ヘリ以外の他機関のヘリの運用の場合、大隊長（現地指揮所）において、運用が難しいことから、現地合同調整所等の設置場所を今後考慮し、実践性のある「合同調整所」を考慮する必要があると思われる。

3 活動状況





1 訓練項目別概要票

訓練名称		道路啓開訓練								訓練番号	②
訓練時間		訓練所要時間	待機完了	出 動	完了						
		15分	9時00分	9時15分	9時30分						
訓練場所		部隊運用訓練会場									
訓練想定		地震により瓦礫、土砂等が道路上に崩落し、緊急車両の進入が困難になっている。									
		<p>訓練趣旨 指揮支援本部は、県内消防応援隊指揮隊に対し、知事の要請により救助活動等を必要とする現場への進入ルートの確保のために派遣された自衛隊の大型重機による道路啓開活動の指揮について指示し、消防と自衛隊の連携を図る。</p>									
参加部隊	隊別	島根県	その他								合計
	部隊名	隊数	隊数								隊数
	県内消防応援隊指揮隊	1									1
	陸上自衛隊		1								1
	合計	1	1								2
<p>《活動概要》</p> <p>◎県内広域消防応援隊指揮隊（松江消防指揮隊） 被災地の進入経路確保について道路啓開を行うため、知事の要請により派遣された自衛隊が土砂及び瓦礫等を保有の重機による除去について、支援を受けるとともに効果的な連携を実施</p>											
関係機関		陸上自衛隊出雲駐屯地									
指揮支援部隊		神戸市消防局指揮支援隊									

2 訓練評価


【島根県評価員】

- (1) 進行・安全管理
訓練車両、進入路、見学者等の動線が交差していた。
- (2) 情報共有・活動調整
自衛隊、消防指揮隊で連携できていた。

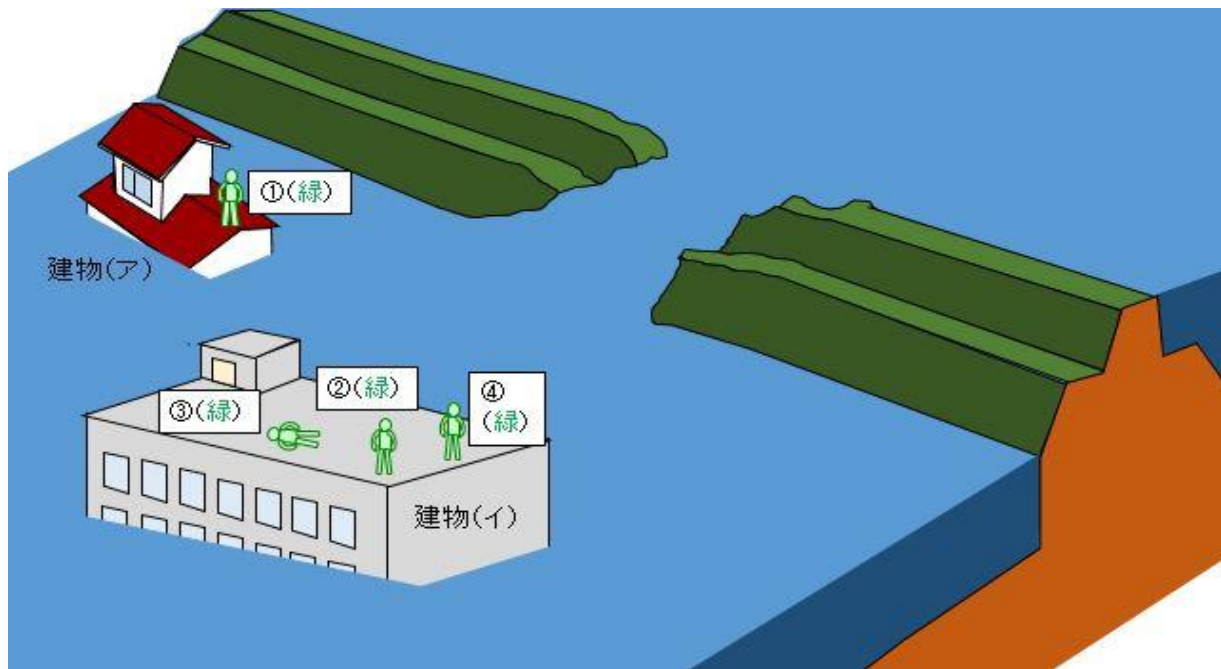
3 活動状況



1 訓練項目別概要票

訓練名称	堤防決壊逃げ遅れ者救出訓練				訓練番号	③				
訓練時間	訓練所要時間	待機完了	出 動	完了						
	60分	8時55分	9時10分	10時10分						
訓練場所	部隊運用訓練会場									
訓練想定	豪雨と地震により、氾濫危険水位に達した堤防が決壊し、家屋の倒壊流失等の危険が切迫しているなか、多数の逃げ遅れ者が発生している。									
		<p>訓練趣旨</p> <p>●鬼怒川水害の事案を教訓として、住宅地直近の堤防が決壊して大規模な洪水が発生し、倒壊の危険が迫る住宅及び多数の要避難支援者が入所する施設等における逃げ遅れ者が存在する現場想定。</p> <p>★被害が拡大し、要救助者に危険が迫る緊急性の高い現場において、消防隊による地上（浸水域）からのアプローチが困難な状況における、防災航空隊等の各防災関係機関相互のヘリコプターの連携による効果的な救助活動を実施。</p>								
参加部隊		隊別	島根県	その他						
	部隊名	隊数	隊数							隊数
	島根県防災航空隊	1								1
	海上保安庁ヘリ		1							1
	合計	1	1							2
<p>《活動概要》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 指揮支援本部 調整本部に対し、防災ヘリコプター等による逃げ遅れ者の救出を要請 2 航空運用調整班 指揮支援本部の要請を受けた調整本部の指示により、防災ヘリ及び海上保安本部ヘリの出動について、調整実施 3 島根県防災航空隊 海上保安本部ヘリと連携し、逃げ遅れ者の救出を実施 4 海上保安庁ヘリ 島根県防災航空隊ヘリと連携し、逃げ遅れ者の救出を実施 										
関係機関	第八管区海上保安本部美保航空基地									
指揮支援部隊	神戸市消防局指揮支援隊									

2 訓練想定・施設



【要救助者状況】

ア	①	住宅（一般木造）の1F屋根上で手振りの要救助者あり。
イ	②～④	老健施設（RC中高層）屋上避難に要救助者（自力歩行不能の高齢入所者、職員）あり。

【傷病程度等】

No	負傷者			配置先	トリアージ		容態変化		負傷箇所	歩行	意識 (JCS)	従命	呼吸数	SpO2 (%)	脈拍数	血圧	備考1
	氏名	関係	性別		START	PAT	有・無	タイミング									
1	香取シンジ	建物住人	男	建物(ア) 1階屋根上	緑		無			可	0	○	24	98	90	100/60	
2	鳥川ジュン	施設職員	男	建物(イ) 屋上避難	緑		無			可	0	○	18	98	95	120/80	
3	香川ツカサ	施設入所者	男	建物(イ) 屋上避難	緑		無			可	0	○	18	98	90	120/90	
4	田中コウキ	施設入所者	男	建物(イ) 屋上避難	緑		無			可	0	○	15	99	90	120/90	

3 訓練評価

【島根県評価員】

(1) 気付いた点

木造建物の要救と、耐火造建物の要救の救出順を上手く行っていたと思う。
1人目の救出時に耐火造の要救に一声掛けて（配慮）いたら良かったと思う。

(2) その他

建物の窓に見立てた張物が、ヘリのダウンウォッシュによって飛散した。（安全ではなかった事項）

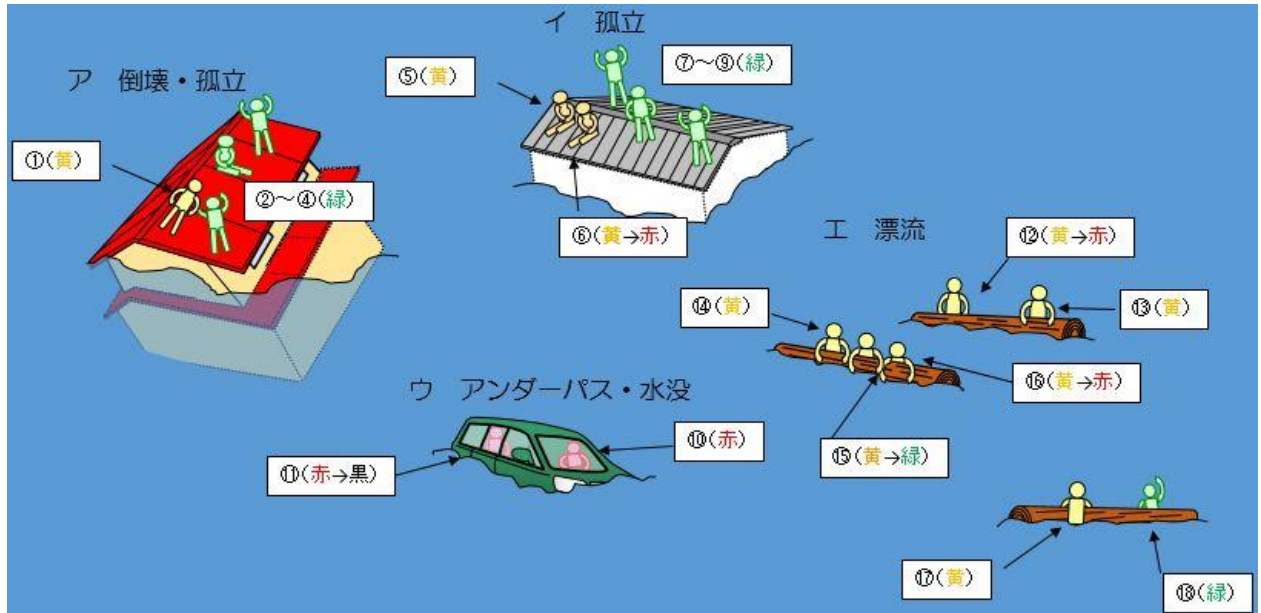
4 活動状況



1 訓練項目別概要票

訓練名称	建物等水没孤立者救出訓練					訓練番号	④
訓練時間	訓練所要時間	待機完了	出動	完了			
	90分	9時55分	10時10分	11時40分			
訓練場所	部隊運用訓練会場						
訓練想定	<p>堤防の決壊により洪水が発生し、住宅や走行車両が被災し、負傷した孤立者及び漂流者が多数発生している。</p> <p>訓練趣旨 ●津波災害等を教訓として、洪水により押し流され倒壊した住宅や、浸水した車両等に取り残され救助を待つ孤立者及び避難中に水害に遭遇し浮遊物等にしがみ付き救助を待つ漂流者が時間経過とともに、低体温症等による状態悪化が迫る現場想定。 ★浸水域における救助活動で優位な装備の水陸両用車（バギー）と救助ボートによる、浸水域での効果的な救助活動を実施。</p>						
参加部隊	隊別	鳥取県	徳島県	岡山県	島根県	その他	合計
	部隊名	隊数	隊数	隊数	隊数	隊数	隊数
	統括県大隊長	1					1
	県大隊指揮隊		1				1
	救助小隊		1				1
	津波・大規模風水害対策車(バギー)			1	1		2
	消火小隊	3	1				4
	救急小隊	3	2				5
	特殊装備小隊(水難救助車)	2			1		3
	その他の隊	1					1
	海上保安庁					1	1
合計	10	5	1	2	1	19	
《活動概要》							
<ol style="list-style-type: none"> 1 統括県大隊長 現地合同調整所を設置し、他機関との連携調整及び指揮系統を明確化した活動を実施 2 県大隊指揮隊 統括県大隊長を補佐・連携し、救助の活動調整を実施 3 救助小隊（水陸両用車バギー） 地上部隊が到達困難な浸水域での救助活動を実施 4 特殊装備小隊（水難救助車・救助ボート） 地上部隊が到達困難な浸水域での救助活動を実施 潜水隊による、海上保安庁所属の救難士との連携での潜水検索を実施 5 救助小隊、及び消火小隊 陸上において、特殊装備小隊等の活動支援及び救急活動支援を実施 6 救急小隊 要救助者のトリアージ、応急手当、応急救護所及び病院への搬送を実施 7 海上保安庁 海上保安庁所属の救難士による、緊急消防援助隊との連携での潜水検索を実施 							
関係機関	第八管区海上保安本部美保航空基地						
指揮支援部隊	神戸市消防局指揮支援隊						

2 訓練想定・施設



【要救助者状況】

ア	①～④	住宅屋根上避難の要救助者4名あり。
イ	⑤～⑨	住宅屋根上避難の要救助者5名あり。
ウ	⑩、⑪	浸水水没車両の閉じ込め要救助者2名あり。
エ	⑫～⑱	漂流物等に孤立する要救助者7名あり。

【傷病程度等】

No	負傷者		性別	配置先	トリアージ		容態変化		負傷箇所	歩行	意識 (JCS)	従命	呼吸数	SpO2 (%)	脈拍数	血圧	備考1
	氏名	関係			START	PAT	有・無	ダイミニング									
1	愛川ヒトシ	漂流者	男	建物(ア)屋根上	黄	赤	有	救出後	右肩挫創	不可	3	有	12	95	60	110/60	低体温症
2	芦田マオ	漂流者	女	建物(ア)屋根上	緑	緑	無		左足挫創	不可	0	有	18	98	100	140/90	
3	鳥越ケンジ	建物住人	男	建物(ア)屋根上	緑	緑	無			可	0	有	24	98	90	120/80	
4	鳥越シンイチ	建物住人	男	建物(ア)屋根上	緑	緑	無			可	0	有	18	98	100	110/70	
5	愛田キンヤ	漂流者(6の夫)	男	建物(イ)屋根上	黄	黄	無			不可	1	有	12	94	80	140/90	
6	愛田ミドリ	漂流者(5の妻)	女	建物(イ)屋根上	黄	赤	有	救出中		不可	3	有	12	93	60	110/60	低体温症
7	鳥井ミユ	建物住人	女	建物(イ)屋根上	緑	緑	無			不可	300	無	6	90	40	測定不能	
8	鳥井マナ	建物住人	女	建物(イ)屋根上	緑	緑	無			可	1	有	24	98	80	120/80	高齢者
9	鳥井ユミ	建物住人	女	建物(イ)屋根上	緑	緑	無			可	0	有	18	98	100	130/90	
10	矢島イテロウ	運転席	男	車両(ウ)閉じ込め有り	赤	赤	無			可	0	有	24	98	110	120/70	子供
11	矢島アツミ	後部座席	女	車両(ウ)閉じ込め有り	赤	黒	有	応急救護所		不可	300	無	12	87	60	100/60	水没車両内 誤嚥
12	北尾マサコ	漂流者(18の妻) 流木2名	女	漂流物(エ)	黄	赤	有	応急救護所		不可	300	無	6	85	60	80/40	水没車両内 CPA
13	北尾マサコ	漂流者(12の夫) 流木2名	男	漂流物(エ)	黄	黄	無		右足打撲	不可	1	有	12	95	70	100/60	低体温症
14	那須タカシ	漂流者 流木3名	男	漂流物(エ)	黄	黄	無		右足骨折	不可	300	無	6	90	50	90/40	
15	島田キンタ	漂流者(18の夫) 流木3名	男	漂流物(エ)	黄	緑	有			不可	0	有	18	99	90	140/90	
16	島田ヒロコ	漂流者(15の妻) 流木3名	女	漂流物(エ)	黄	赤	有	救出後	腰部打撲	可	0	有	18	99	80	120/80	出血性 ショック
17	遠藤カズオ	漂流者 流木2名	男	漂流物(エ)	黄	黄	無			不可	3	有	24	97	100	130/80	
18	福島ヒロミチ	漂流者 流木2名	男	漂流物(エ)	緑	緑	無			不可	100	無	40	88	120	70/30	
										不可	1	有	18	98	100	120/80	
										可能	0	有	24	99	90	140/90	

3 訓練評価

【島根県評価員】

- (1) 航空小隊と陸上隊間の情報共有や活動面において、ヘリとの連携がなかった。
- (2) 通信支援小隊による映像配信について、映像撮影が行われていた。
- (3) 「余震」の想定付与に対し、活動中止の指示が行われた。
- (4) 連携する活動隊の情報共有等の不十分さから、浸水域にバギーが入水した際、先行して入水していた海保のアクアリング隊と接近する場面があった。
- (5) 各隊の連携、適切な資機材・装備部隊（バギー、ボート）の投入により、迅速な救出を実現した。
- (6) その他
 - ・建物中に要救助者の配置・設定があっても良かった。
 - ・要救助者へ救命胴衣の装着がなかった。

4 活動状況

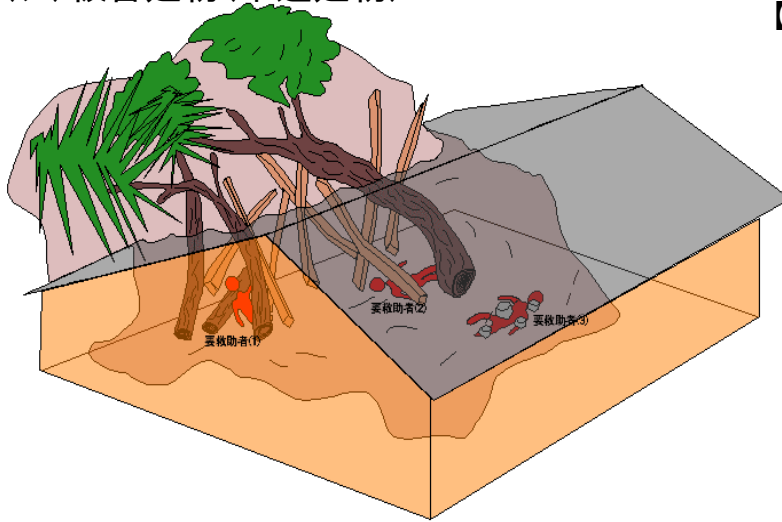


1 訓練項目別概要票

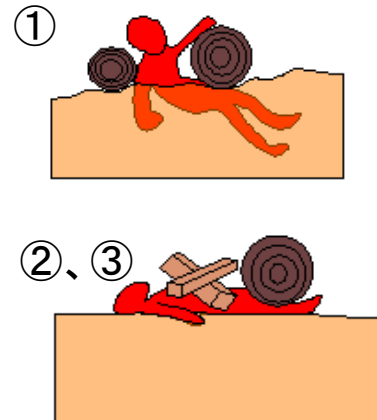
訓練名称	土石流生き埋め者救出訓練				訓練番号	⑤				
訓練時間	訓練所要時間	待機完了	出動	完了						
	135分	9時10分	9時25分	11時40分						
訓練場所	部隊運用訓練会場									
訓練想定	住宅地にて大規模な土石流が発生し、広範囲に住家及び車両が損壊し多数の生き埋め者が発生した。									
	<p>訓練趣旨</p> <p>●広島豪雨災害等を教訓として、記録的な短時間豪雨により、避難準備のいとまがない状況において刹那に発生した大規模広範囲に及ぶ土石流により、住宅及び走行車両が損壊して多数の生き埋め者が発生した現場想定。</p> <p>★活動の長期難航が見込まれる土砂等の除去作業を伴う災害現場における、特殊装備小隊（重機）保有の効率的な技術並びに資機材投入、及び損壊した住宅での救助検索に際して倒壊危険防止の安定化技術を施す等の二次災害防止の安全措置を万全に施し、効果的な救助活動を実施。</p>									
参加部隊	隊別	岡山県	香川県	島根県	その他					合計
	部隊名	隊数	隊数	隊数	隊数					隊数
	統括県大隊長	1								1
	県大隊指揮隊		1							1
	救助小隊	2	3	1						6
	消火小隊	3	2	3						8
	救急小隊	3	4							7
	特殊装備小隊（重機）	1		1						2
	その他の隊	1								1
	島根県警				2					2
	救助犬団体				1					1
	合計	11	10	5	3					29
《活動概要》										
<ol style="list-style-type: none"> 1 統括県大隊長 現地合同調整所を設置し、他機関との連携調整及び指揮系統を明確化した活動を実施 2 県大隊指揮隊 統括県大隊長を補佐・連携し、救助の活動調整を実施 3 特殊装備小隊（重機） 埋没車両等からの救助活動において、性能特性を發揮 4 救助小隊、及び消火小隊 二次災害防止に留意した安全確保の措置について、救助活動着手前に実施 特殊装備小隊等の活動支援及び救急活動支援を実施 5 救急小隊 要救助者のトリアージ、応急手当、応急救護所及び病院への搬送を実施 6 島根県警 県警機動隊及び被災地署員による、徒手による土砂・ガレ等の除去及び屋内検索・救助活動について、緊急消防援助隊との連携を実施 7 救助犬団体 要救助者の検索について、救助活動前における場所特定や、活動後の再検索を実施 										
関係機関	島根県警察本部警備部機動隊、安来警察署、災害救助犬出動団体協議会									
指揮支援部隊	神戸市消防局指揮支援隊									

2 訓練想定・施設

(ア) 被害建物(木造建物)



【要救助者の配置状態】



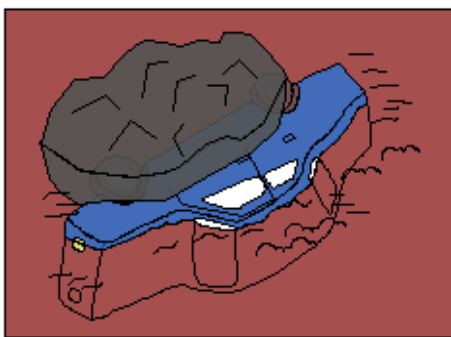
【要救助者状況】

①	倒流木（丸太等）の下敷き、下腿と右腕が埋没している状態。
②、③	倒流木（丸太等）及び多数の柱等の下敷き。隣接棟から流入してきた柱等が複雑に覆いかぶさった状態。

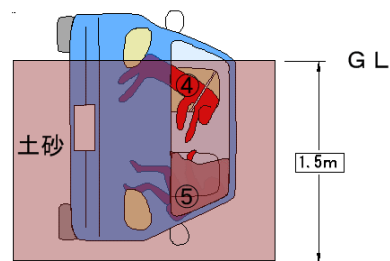
【傷病程度等】

負傷者				配置先	トリアージ		容態変化		負傷箇所	歩行	意識 (JCS)	従命	呼吸数	SPO2 (%)	脈拍数	血圧	備考
No	氏名	関係	性別		START	PAT	有・無	タイミング									
1	片山ミツエ		女	建物 (ア)	赤				両大腿骨折	不可	100	無	86	100	138	80/55	
2	柴田ユウスケ		男	建物 (ア)	赤				多発外傷	不可	100	無	25	95	96	130/75	
3	白井ヤスヒロ		男	建物 (ア)	赤				多発外傷	不可	300	無	86	92	156	90/80	

(イ) 埋没車両(普通乗用車)



【要救助者の配置状態】



【要救助者状況】

④	シートベルトが脇に引っ掛かっている状態で設定。
⑤	車内にも土砂が流入しており、土砂に埋没しているが右手のみは視認できる状態。

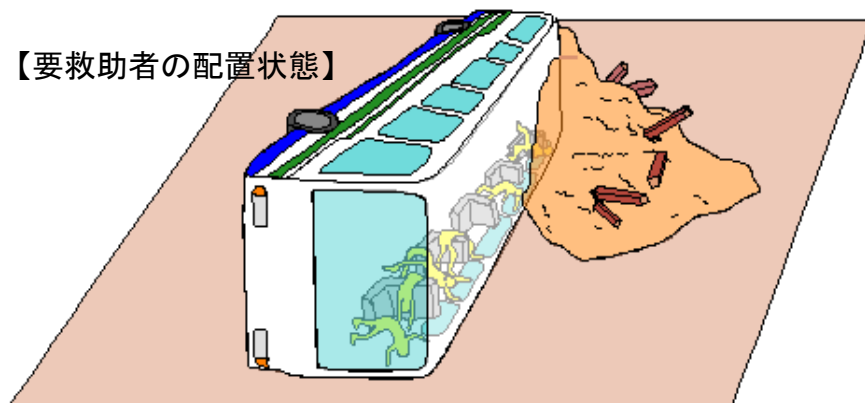
【傷病程度等】

負傷者				配置先	トリアージ		容態変化		負傷箇所	歩行	意識 (JCS)	従命	呼吸数	SPO2 (%)	脈拍数	血圧	備考
No	氏名	関係	性別		START	PAT	有・無	タイミング									
4	杉浦ジュンコ		女	車両内 (イ) (運転席)	黒				なし	不可	300	無	なし	測定不能	なし	測定不能	
5	天野タケシ		男	車両内 (イ) (助手席)	黒				なし	不可	300	無	なし	測定不能	なし	測定不能	

(イ) 被害車両(大型バス)

※実際には、横転させていない状態で訓練実施。

【要救助者の配置状態】



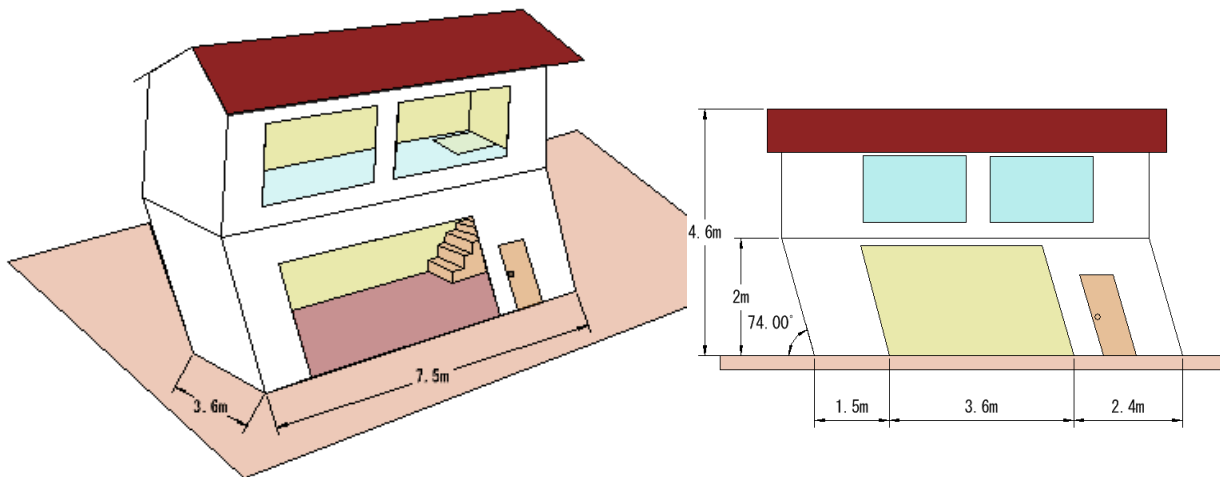
【要救助者状況】

⑥	バスの運転手。シートベルトをしておらず、運転席から乗降口に投げ出された状態。
⑦	車両右側最前列に座っていた乗客。事故の衝撃により、左側の席まで投げ出されたもの。
⑧	車両右側の列に座っていた乗客。事故の衝撃により、左側の席まで投げ出されたもの。
⑨	車両右側の列に座っていた乗客。事故の衝撃により、左側の席まで投げ出されたもの。
⑩	車両左側の席に座っていた乗客。事故の衝撃により窓ガラスで頭を強打。出血あるが止血状態。
⑪	車両左側最後列席に座っていた乗客。事故の衝撃により右腕を負傷。

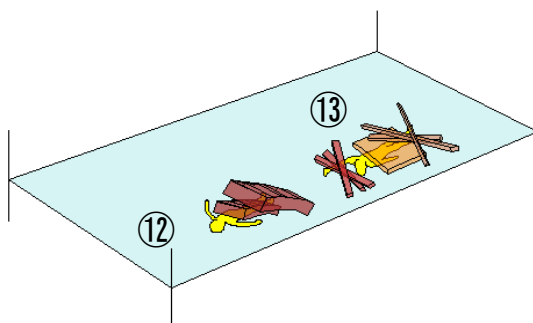
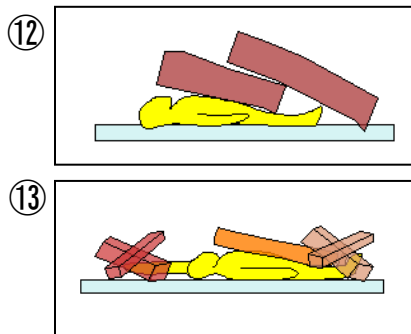
【傷病程度等】

No	負傷者			配置先	トリアージ		容態変化		負傷箇所	歩行	意識 (JCS)	生命	呼吸数	SpO2 (%)	脈拍数	血圧	備考
	氏名	関係	性別		START	PAI	有・無	タイミング									
6	岸辺カズヨシ		男	バス (イ) (車内: 運転手)	黄				右下腿 打撲	不可	0	有	25	98	100	118/65	
7	木村ノゾム		男	バス (イ) (車内: 乗客)	黄				右上腕 打撲	不可	0	有	18	100	85	125/85	
8	寺沢カズナリ		男	バス (イ) (車内: 乗客)	黄				両膝打撲	不可	0	有	20	99	75	110/75	
9	新村タカシ		男	バス (イ) (車内: 乗客)	黄				左下腿 打撲	不可	3	有	25	100	102	130/80	
10	坂本コウジ		男	バス (イ) (車内: 乗客)	黄				左下腿 打撲	不可	0	有	16	100	80	120/85	
11	鈴木タカユキ		男	バス (イ) (車内: 乗客)	黄				頭部痛	不可	0	有	16	99	66	118/65	

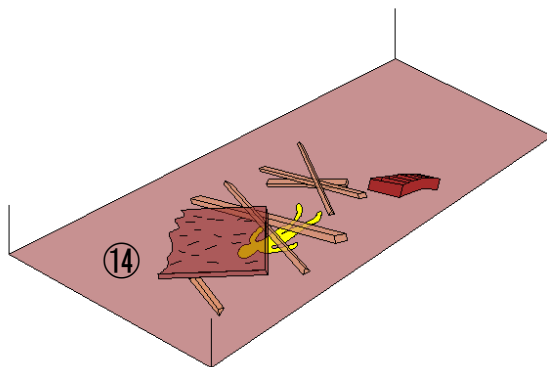
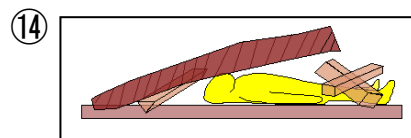
(ウ)被害建物(2階建て木造住宅)



【要救助者の配置状態】 2階



【要救助者の配置状態】 1階



【要救助者状況】

⑫	倒れてきたタンス及び棚の下敷き。
⑬	家財等の下敷きになった状態。
⑭	壁が剥がれ、顔面部に倒れてきて受傷。また、下腿が家財等の下敷き。

【傷病程度等】

No	負傷者			配置先	トリアージ		容態変化		負傷箇所	歩行	意識 (JCS)	従命	呼吸数	SPO2 (<%)	脈拍数	血圧	備考
	氏名	関係	性別		START	PAT	有・無	タイミング									
12	立川アツシ		男	建物 (ウ)	黄				右膝打撲	不可	0	有	18	97	95	125/80	
13	田中アキヒロ		男	建物 (ウ)	黄				左腕打撲 左下腿打撲	不可	0	有	24	99	115	128/84	
14	井口ミツマサ		男	建物 (ウ)	黄				右大腿部 打撲	不可	0	有	18	100	95	124/84	

3 訓練評価 【島根県評価員】

- (1) 多数の傷病者に対し、DMATの派遣要請を行い連携活動を行っていた。
- (2) 「余震」の想定付与に対し、騒音のため全隊への周知が徹底されず、活動継続する隊があった。
- (3) 統一的な活動表示（マーキング）について、随所に使用されており浸透していると感じた。
- (4) 車両集結・停車場所スペースが狭く、渋滞となり手前の訓練ブースの訓練開始に影響があった。
- (5) 大規模土砂災害では消防力だけでは対応できない状況も考えられ、建設業者の重機の活用について検討が必要と考える。
- (6) 関係機関への訓練趣旨（ブラインド訓練）が徹底されていなかったためか、訓練開始前に想定ブースの状況評価（事前確認）が行われていた。

4 活動状況

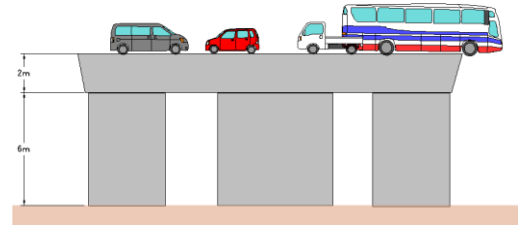
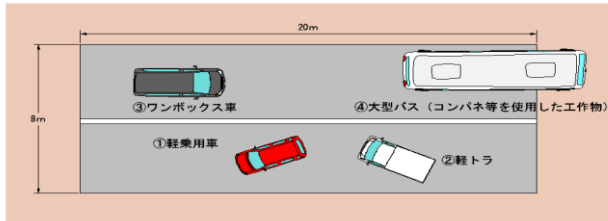
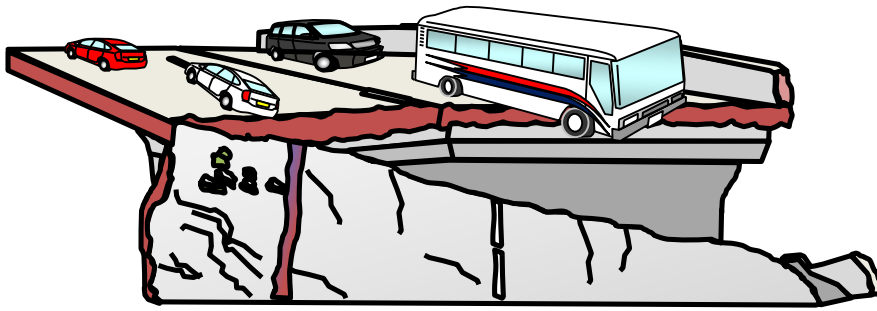




1 訓練項目別概要票

訓練名称	橋梁倒壊孤立者救出訓練				訓練番号	⑥				
訓練時間	訓練所要時間	待機完了	出動	完了						
	125分	9時20分	9時35分	11時40分						
訓練場所	部隊運用訓練会場									
訓練想定	<p>地震により高速道路の一部区間で橋梁が倒壊し、残存する橋梁上に多数の孤立者が発生している。</p> <p>訓練趣旨 ●平成20年岩手・宮城内陸地震での山体崩落による自動車専用道路の橋梁倒壊被害等を踏まえ、地震により高速道路の一部区間で橋梁が倒壊・落下し、残存する橋梁上に多数の孤立者が発生した現場想定。 ★孤立者の救助に際して、防災航空隊はじめ各機関のヘリコプターの現場到着が困難な状況として、地上部隊のロープレスキュー技術を駆使した救助活動とする。なお、陸路の進入ルートは途絶されたものとし、また、はしご車の活用についても、隊員の投入のみとする負荷要素を盛り込む。</p>									
参加部隊	隊別	島根県	高知県	その他						合計
	部隊名	隊数	隊数	隊数						隊数
	統括県大隊長	1								1
	県大隊指揮隊		1							1
	救助小隊	2	1							3
	消火小隊		3							3
	救急小隊	2	1							3
	特殊装備小隊 (はしご車)	1								1
	海上保安庁			1						1
合計	6	6	1						13	
《活動概要》										
<p>1 統括県大隊長 現地合同調整所を設置し、他機関との連携調整及び指揮系統を明確化した活動を実施</p> <p>2 県大隊指揮隊 統括県大隊長を補佐・連携し、救助の活動調整を実施</p> <p>3 特殊装備小隊（はしご車） 救助活動場所（橋梁上）へのアプローチにおいて、性能特性を活かした活動展開実施</p> <p>4 救助小隊 他機関と連携し、活動方針の転換に際しても迅速・的確なる対応を実施</p> <p>5 消火小隊 救助小隊等の活動支援及び救急活動支援を実施</p> <p>6 救急小隊 要救助者のトリアージ、応急手当、応急救護所及び病院への搬送を実施</p> <p>7 海上保安庁 海上保安庁所属の救難士による、緊急消防援助隊との連携での救助活動を実施</p>										
関係機関	第八管区海上保安本部美保航空基地									
指揮支援部隊	神戸市消防局指揮支援隊									

2 訓練想定・施設



【要救助者状況】

車両	乗員数	状況
①軽乗用車	2	地震、及び橋梁倒壊の異変に気づき急ブレーキをかけたところ、後続車両(②軽トラ)に追突され、乗車していた2名が負傷
②軽トラ	1	前方車両(①軽乗用車)の減速に伴いブレーキを掛けるも追突、傷者は車体の変形により下腿部が挟まれ状態。両サイドドアともに変形により用手での開放不可
③ワンボックス車	3	地震、及び橋梁倒壊の異変に気づき停車。乗車していた3名とも車外に出ている。
④大型バス (50人定員)	6名 (車内3名、 車外3名)	異変に気づいた運転手の急ブレーキで前輪が脱輪した状態で停車。乗員の内、窓から自力で車外に出た者が3名いる。

【傷病程度等】

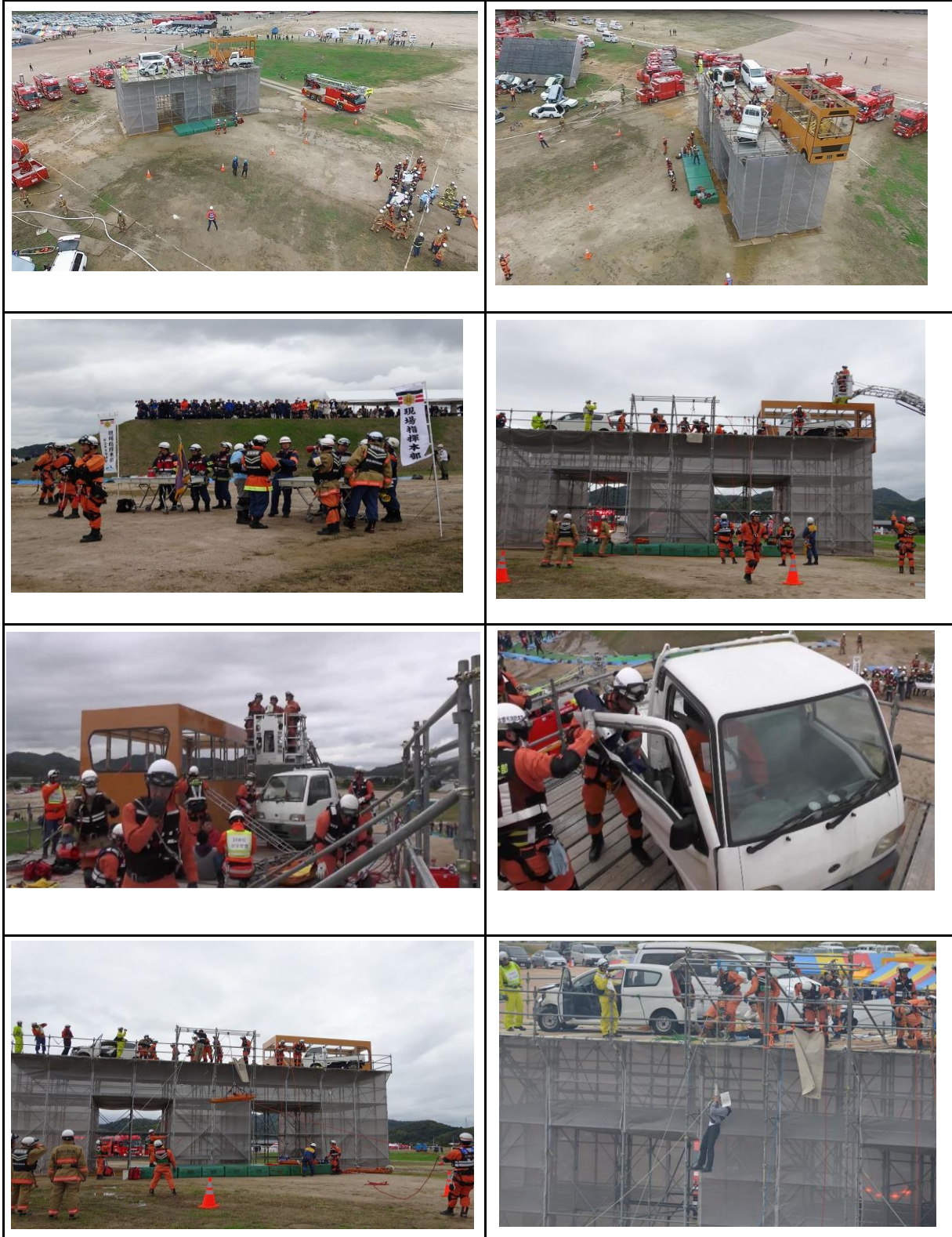
No	負傷者			配置先	トリアージ		容態変化 有・無 ライミング	負傷箇所	歩行	意識(JCS)	瞳孔	呼吸数	SpO2 (%)	脈拍数	血圧	備考1
	氏名	関係	性別		START	PAT										
1	坂本リュウマ	運転手	男	軽乗用車 (運転席)	黄		無	両膝打撲	不可	0	有	18	98	90	120/80	閉じ込め無し
2	坂本リョウコ	助手席	女	軽乗用車 (助手席)	黄		無	頸椎捻挫	不可	0	有	24	98	80	140/80	閉じ込め無し
3	山内ヨウタ	運転手	男	軽トラ	赤		無	胸腹部 下腿部	不可	100	無	42	95	120	90/50	閉じ込め有(両サイド ドア用手での開放不可) ・車体の変形により下腿 部挟まれ有り
4	尼子ツネコ	運転手	女	ワンボックス車外	黄		無	胸部打撲	不可	3	有	24	97	100	120/80	
5	尼子ハルオ	助手席	男	ワンボックス車外	緑		無		可	0	有	18	98	90	110/80	無傷者
6	尼子ヨシオ	後部座席	男	ワンボックス車外	緑		無		可	0	有	18	98	80	120/80	無傷者
7	堀尾タダシ	自力脱出	男	バス車内	緑		無		可	0	有	18	98	80	130/90	無傷者
8	山中シカオ	自力脱出	男	バス車内	緑		無		可	0	有	18	98	100	110/70	無傷者
9	山中マオ	自力脱出	女	バス車内	緑		無		可	0	有	18	98	80	140/90	無傷者
10	松平イチロウ	通路で転倒	男	バス車内	黄		無	左足打撲	不可	1	有	24	97	90	150/90	
11	松平ケンジ	座席	男	バス車内	黄		無	頭部打撲	不可	0	有	24	99	100	130/80	
12	安松ケンタ	座席	男	バス車内	黄		無	両足打撲	不可	1	有	18	97	90	140/80	人工透析
13	浜口コトミ	路上で立位	女	バス車外	緑		無	右手切創	可	0	有	18	98	100	120/90	・自力で車外に出たもの
14	江角マサミ	路上で立位	女	バス車外	緑		無	頭部切創	可	0	有	24	99	90	100/60	・自力で車外に出たもの
15	牧カズオ	路上で座位	男	バス車外	緑		無		可	0	有	18	97	70	140/80	・自力で車外に出たもの

3 訓練評価


【島根県評価員】

- (1) 関係機関との連携など情報共有や活動調整において、現場活動隊と指揮隊の情報共有が出来ていた。
- (2) ハイポイントとなる単管が設定されていたが、上下単管のスペースが狭く、要救助者の振り出し時苦慮していた。また、危険が憂慮させる場所（現場）においては、要救助者へのヘルメット装着等を考慮すること。

4 活動状況

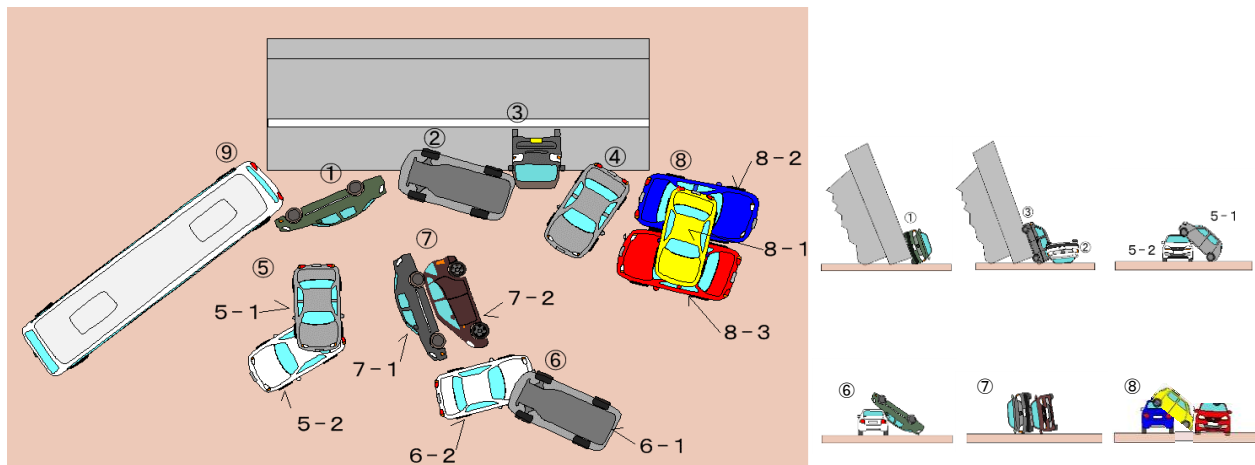
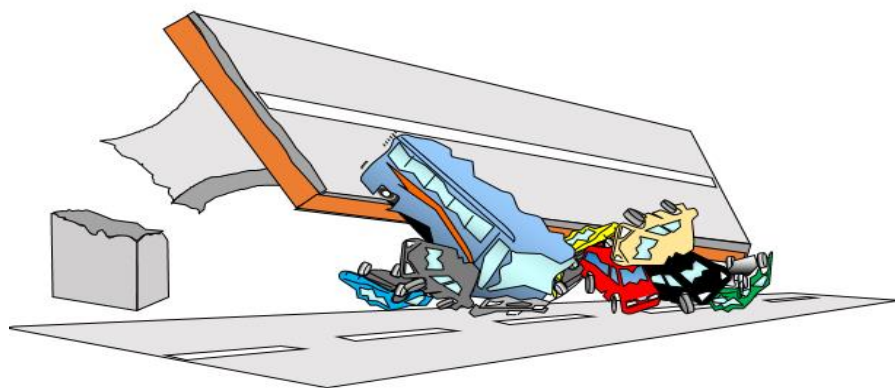


1 訓練項目別概要票

訓練名称	橋梁倒壊多重事故対応訓練				訓練番号	⑦	
訓練時間	訓練所要時間	待機完了	出 動	完了			
	120分	9時25分	9時40分	11時40分			
訓練場所	部隊運用訓練会場						
訓練想定	地震により高速道路の一部区間で橋梁が倒壊崩落し、走行中の多数の車両の墜落事故が発生した。						
	訓練趣旨						
	<p>●阪神淡路大震災を教訓に、高速道路の一部区間で橋梁が倒壊・落下し、走行中の多数の車両の墜落多重事故が発生した現場想定。</p> <p>★大破した多数の車両が上下に折り重なり、活動困難な現場状況。併せてガソリンペーパーが発生し、火災危険の排除が必要な環境条件として、多数の救助隊等の徹底した指揮統制が求められる現場における交通救助活動を実施する。</p>						
参加部隊	隊別	広島県	愛媛県				合計
	部隊名	隊数	隊数				隊数
	統括県大隊長	1					1
	県大隊指揮隊		1				1
	救助小隊	3	1				4
	消火小隊	6	2				8
	救急小隊	3	2				5
	特殊装備小隊 (大型水槽車)	1					1
	特殊装備小隊 (大型プロア-搭載車)	1					1
	その他の隊	1					1
合計	16	6				22	
《活動概要》							
<ol style="list-style-type: none"> 1 統括県大隊長 現地合同調整所を設置し、他機関との連携調整及び指揮系統を明確化した活動を実施 2 県大隊指揮隊 統括県大隊長を補佐・連携し、救助の活動調整を実施 3 特殊装備小隊（大型プロア車・大型水槽車） 多重事故現場の火災危険排除について、相互の性能特性を発揮した連携を実施 4 救助小隊 現場評価等の後、優先順位の判断の基で救助活動を実施 5 消火小隊 救助小隊等の活動支援及び救急活動支援を実施 6 救急小隊 要救助者のトリアージ、応急手当、応急救護所及び病院への搬送を実施 							
関係機関							
指揮支援部隊	岡山市消防局指揮支援隊						

2 訓練想定・施設

- ・倒壊崩落橋梁
- ・多重事故車両



【要救助者状況】

車両	乗員数	状況
車両①	4	一方が壁面に接し、活動域の制限がある状態。ドアの開放はバックドアも含めて全て可能。
車両②	2	仰向けの状態、車両後方が車両③に接しているように設定。
車両③(軽)	1	傾斜面に寄り添った状態であり、不安定状態の訓練想定。
車両④	1	三方が他の車両や壁面に接した状態であり活動域に制限がある設定。
車両⑤-1	2	車両⑤-2に馬乗り状態で重なる2台の事故車両。不安定状態の訓練想定。
車両⑤-2	2	車両⑤-1に覆いかぶさられた状態。用手によるドアの開放不可。
車両⑥-1(軽)	2	仰向けの状態、で車両⑥-2に覆いかぶさった状態。不安定状態の訓練想定。
車両⑥-2	2	車両⑥-1に覆いかぶさられた状態。用手によるドアの開放可能。
車両⑦-1(軽)	1	横倒し状態。車両⑦-2に寄りかかられた状態で不安定。運転席側以外はドアの開放可能。
車両⑦-2	1	横倒し状態。車両⑦-1に寄りかかった状態で不安定。運転席側以外はドアの開放可能。
車両⑧-1	2	車両⑧-2と⑧-3の上に乗った状態。後部座席のみ用手によるドアの開放可能。
車両⑧-2	2	車両⑧-1に覆いかぶされた状態。ドアの開放は不可。
車両⑧-3	2	車両⑧-1に覆いかぶされた状態。ドアの開放は不可。
車両⑨(大型バス)	18	車体の損壊激しく車内の要救は墜落の衝撃により一箇所に要救助者が折り重なった状態。乗車口のドアは閉まったままの状態。

【傷病程度等】

No	負傷者			配置先	トリアージ		容態変化		負傷箇所	歩行	意識 (JCS)	従命	呼吸数	SPO2 (%)	脈拍数	血圧	備考
	氏名	関係	性別		START	PAT	有・無	タイミング									
1	尾方コウジ		男	車両1 運転席	赤		無		胸部打撲	不可	1	無	18	96	120	100/80	
2	尾方カナ		女	車両1 助手席	赤		無		出血性ショック (骨盤骨折)	不可	300	無	18	90	130	70/80	
3	尾方シノブ		女	車両1 後部座席(運)	赤		無		胸部打撲	不可	3	無	42	90	140	120/80	
4	尾方タカシ		男	車両1 後部座席(助)	赤		無			不可	100	無	24	97	120	130/90	
5	前田ケンジ		男	車両2 運転席	赤		無		頭部打撲	不可	300	無	18	98	50	150/100	
6	前田マサヨ		女	車両2 助手席	黒		無			不可	300	無	なし	測定不能	なし	測定不能	
7	別府マナブ		男	車両3 運転席	黄		無			不可	3	有	18	98	60	100/80	
8	立川ヒロシ		男	車両4 運転席	黄		無		両下腿打撲	不可	1	有	18	98	80	120/80	
9	山本コウイチ		男	車両5-1 運転席	赤		無		胸部打撲 緊張性気胸	不可	100	無	36	88	120	80/40	
10	山本ミカ		女	車両5-1 後部座席	黄		無			不可	1	有	24	97	90	150/40	
11	浅井ジロウ		男	車両5-2 運転席	黄		無		両膝打撲	不可	1	有	24	98	100	140/90	
12	浅井マナ		女	車両5-2 助手席	赤		無		頸椎損傷 神経原性ショック	不可	100	無	10	92	40	70/80	
13	早川ケンタ		男	車両6-1 運転席	黒		無		多発外傷	不可	300	無	なし	測定不能	なし	測定不能	
14	早川エリカ		女	車両6-1 助手席	赤		無		骨盤骨折	不可	30	無	24	測定不能	120	60/-	
15	毛利コジロウ		男	車両6-2 運転席	黄		無		頭部外傷	不可	2	有	18	98	80	150/80	
16	毛利モトコ		女	車両6-2 助手席	黄		無		気分不良	不可	0	有	18	98	80	140/90	
17	寺岡マユ		女	車両7-1 運転席	赤		無		肋骨骨折	不可	1	有	42	93	130	140/80	
18	笹岡シヤ		男	車両7-2 運転席	赤		無		肝損傷	不可	10	無	18	90	110	80/40	
19	野村カズヤ		男	車両8-1 運転手	赤		無		頭部外傷	不可	30	無	24	98	110	100/80	
20	野村テツオ		男	車両8-1 後部座席(運)	赤	緑	有		過換気 パニック	不可 可能	1 1	有 有	42 24	100 100	120 90	140/100 140/100	生体
21	大野マコト		男	車両8-2 運転手	赤		無		頭部出血	不可	200	無	24	95	60	150/100	
22	大野ハナコ		女	車両8-2 助手席	赤		無		頸椎損傷	不可	100	無	18	90	50	70/40	
23	津川テルヒコ		男	車両8-3 運転手	黒		無		頭部圧挫	不可	300	無	なし	測定不能	なし	測定不能	
24	津川ミサ		女	車両8-3 助手席	黒		無		全身圧挫	不可	300	無	なし	測定不能	なし	測定不能	
25	徳田サブロウ		男	大型バス 運転手	赤		無			不可	0	無	42	100	110	140/90	
26	大杉ケン		男	大型バス 4列目通路最下	赤		無		圧挫症候群	不可	30	無	36	98	120	80/40	
27	相川ショウタ		男	大型バス 4列目通路中下	赤		無		腰部打撲	不可	1	有	36	96	140	70/-	
28	坂東エイスケ		男	大型バス 4列目通路中	赤		無			不可	20	無	24	98	90	120/80	
29	尾崎ショウジ		男	大型バス 4列目通路中上	赤		無		頸椎損傷	不可	100	無	10	93	50	70/40	
30	川上ケンジ		男	大型バス 4列目通路最上	赤	黄	有		脳振とう	不可 可	100 3	無 有	18 18	98 98	80 80	120/80 120/80	生体
31	馬場ショウイチ		男	大型バス 最後部座席下	黒		無		C P A	不可	300	無	なし	測定不能	なし	測定不能	
32	鶴田ダイスケ		男	大型バス 8列目通路下	赤		無		両大腿骨折 ショック	不可	1	有	42	80	120	90/50	
33	武藤ケイタ		男	大型バス 8列目通路中	赤		無		胸部打撲 血胸	不可	30	無	36	90	130	70/40	
34	佐々木コウヘイ		男	大型バス 8列目通路上	黒		無		C P A	不可	300	無	なし	測定不能	なし	測定不能	
35	橋本シンゴ		男	大型バス 8列目座席	黄		無		背部打撲	不可	0	有	24	98	90	130/90	
36	三沢ミツオ		男	大型バス 1列目	黄	緑	有		吐気	不可 補助可能	0 0	有 有	18 18	98 98	80 80	100/70 120/80	
37	川田トシコ		男	大型バス 1列目	黄	緑	有		気分不良	不可 補助可能	1 0	有 有	18 18	98 98	90 90	120/80 120/80	
38	小橋ケンゾウ		男	大型バス 3列目	黄		無		頭部出血	不可	0	有	18	97	100	130/90	
39	山波タツオ		男	大型バス 3列目	黄		無		左足打撲	不可	0	有	24	99	90	110/80	
40	北田アキラ		女	大型バス 5列目	黄		無		両膝打撲	不可	0	有	18	99	80	140/100	
41	磯野アサリ		女	大型バス 5列目	黄		無		頸椎捻挫	不可	0	有	18	100	100	130/80	
42	有村アケミ		女	大型バス 7列目	黄	黒	有		心室細動	不可 不可	1 300	有 無	24 なし	99 測定不能	90 なし	120/80 測定不能	

3 訓練評価

【島根県評価員】

- (1) 多数傷病者対応にいて、救助統括と救急搬送統括の間で、傷病者数が合わなくなっていた。
複数の部隊が連携する中で、トリアージタグの仕様が本部によって3枚複写を使用するところと、4枚複写のところがあり、搬送時に現場指揮所へ渡すもぎ取った枚数により混乱が生じた可能性がある。
- (2) 「余震」の想定付与に対し、退避について良好であったが、活動再開時に安全確認が不十分な面があった。
- (3) 可燃性ガスの排除に大型ブロー車は有効であると感じた。
- (4) 訓練中、現場指揮本部が設置したテントが風で飛んでしまい、非常に危険であった。杭等による固定が必要。
- (5) その他
会場設定において、車両動線の数が不十分であり、進入車両を渋滞させた。

4 活動状況



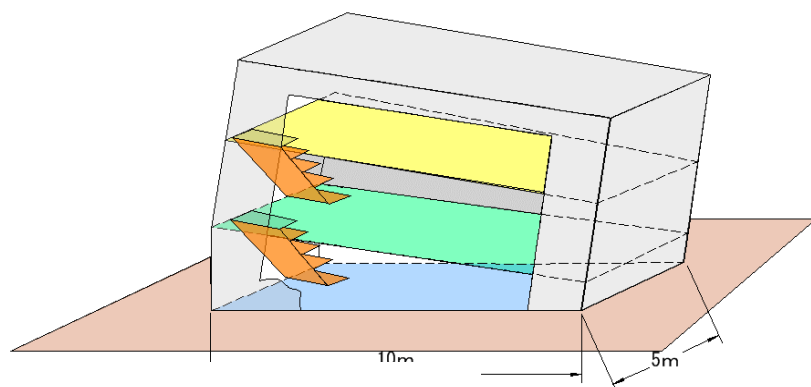
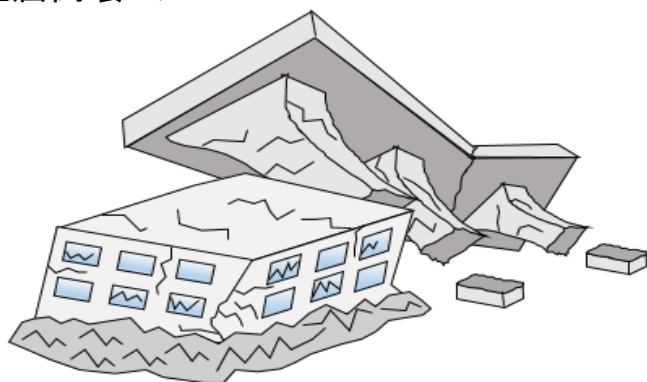


1 訓練項目別概要票

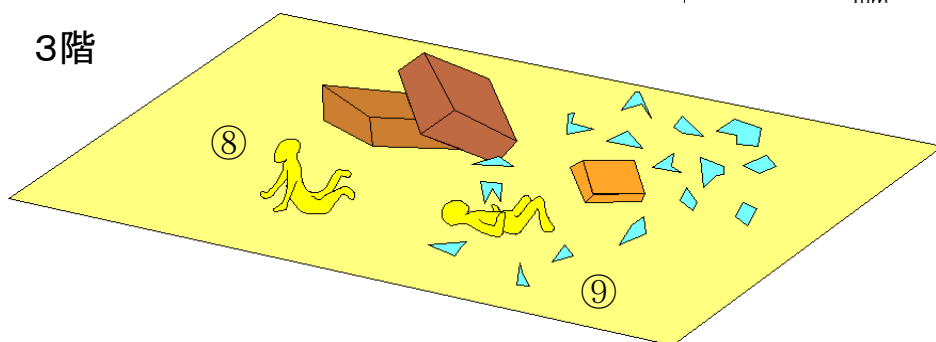
訓練名称	倒壊座屈建物救出訓練				訓練番号	⑧			
訓練時間	訓練所要時間	待機完了	出 動	完了					
	130分	9時15分	9時30分	11時40分					
訓練場所	部隊運用訓練会場								
訓練想定	地震により高速道路の一部区間で橋梁が倒壊崩落し、耐火造建物に直撃大規模損壊により多数の要救助者が発生した。								
	<p>訓練趣旨</p> <p>●地震により高速道路の一部区間で橋梁が倒壊・落下し、座屈倒壊した耐火建物を更に大規模に損壊させ、多数の要救助者が発生した現場想定。</p> <p>★被害建物内への進入に際しては、倒壊危険判定を行い、建物内での活動に際しては建物構造躯体等の安定化を行う。建物内への進入に安全有効な開口部は無く、ブリーチングにより自力設定する必要があるものとし、多数の救助隊等の連携と、余震への警戒態勢を徹底した指揮統制のもとでU S A R技術を効果的に実践。</p>								
	隊別	山口県	鳥取県	その他					
参加部隊	部隊名	隊数	隊数	隊数					隊数
	統括県大隊長	1							1
	救助小隊	2	2						4
	消火小隊	5							5
	救急小隊	2							2
	救助犬団体			1					1
	合計	10	2	1					13
<p>《活動概要》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 統括県大隊長 現地合同調整所を設置し、他機関との連携調整及び指揮系統を明確化した活動を実施 2 救助小隊 現場評価等の後、優先順位の判断の基で救助活動を実施 3 消火小隊 救助小隊の活動支援及び救急活動支援を実施 4 救急小隊 要救助者のトリアージ、応急手当、応急救護所及び病院への搬送を実施 5 救助犬団体 要救助者の検索について、救助活動前における場所特定や、活動後の再検索を実施 									
関係機関	災害救助犬出動団体協議会								
指揮支援部隊	岡山市消防局指揮支援隊								

2 訓練想定・施設

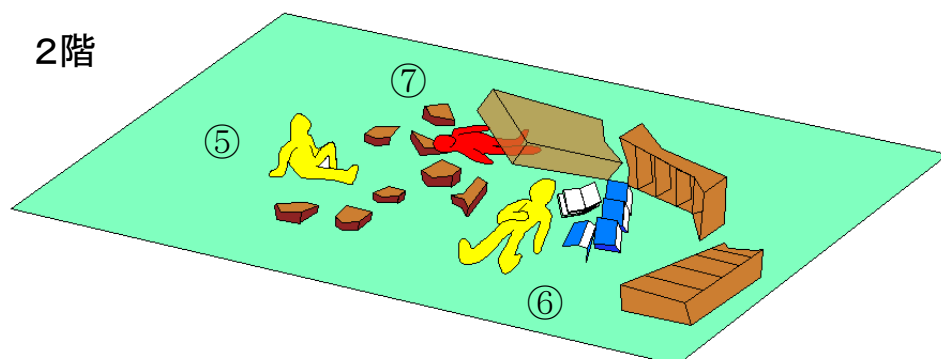
- ・倒壊崩落橋梁
- ・座屈倒壊ビル



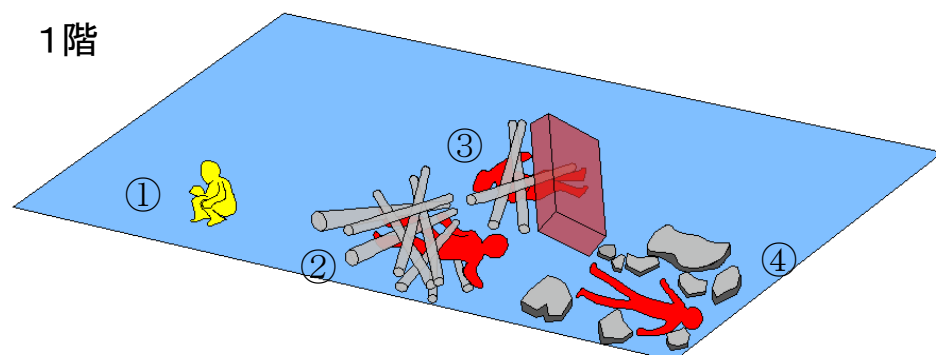
3階



2階



1階



【要救助者状況】

要救助者	階層	状況
①黄	1階	1階の要救助者数、状況について語れるもの。挟まれ等無し。
②赤		立て掛けてあった多数の鋼材の下敷き。
③赤		立て掛けてあった鋼材及び収納棚の下敷き。
④赤		ビル座屈により飛散したコンクリ壁で強打。挟まれ等は無いが、建物が傾斜しているため天井面が近く、ショアリング(スロープドショア)を施さないと救助に着手することが出来ない。
⑤黄	2階	2階の要救助者数、状況について語れるもの。挟まれ等は無し。
⑥黄		収納棚の転倒により、収納物(ファイル等)が高所から頭部に直撃。挟まれ等は無し。
⑦赤		転倒した大型の収納棚の下敷き。
⑧黄	3階	飛散した窓ガラス片で負傷。挟まれ等は無し。
⑨黄		飛散した窓ガラス片で負傷。挟まれ等は無し。

【傷病程度等】

No	負傷者			配置先	トリアージ		容態変化		負傷箇所	歩行	意識(JCS)	従命	呼吸数	SPO2 (%)	脈拍数	血圧	備考1
	氏名	関係	性別		START	PAT	有・無	タイミング									
1	吉田マツコ	会社員	女	1階	黄	緑	有			不可	0	有	18	98	100	120/80	・無傷者、脱水症状 ・1階の要救助者について語れる者
										可	0	有	18	98	90	120/80	
2	高杉シンキチ	会社員	男	1階	赤		無		全身打撲	不可	300	無	42	95	180	80/40	・立て掛けてあった多数の鋼材の下敷き
3	嵯峨タロウ	会社員	男	1階	赤	黒	有	応急救護所	下肢圧挫	不可	2	有	36	97	120	110/80	・立て掛けてあった鋼材、及び収納棚の下敷き
										不可	300	無	なし	測定不能	なし	測定不能	
4	安部シンジ	会社員	男	1階	赤		無		全身打撲	不可	30	無	36	98	110	80/40	・ビルの座屈により、飛散したコンクリ壁で強打 ・この位置の活動に際しては損壊した天井面が近いため、ショアリング(スロープドフロア)を施し救助に着手すること。
5	伊藤ヒロコ	会社員	女	2階	黄	緑	有			不可	0	有	24	98	90	120/80	・無傷者、産靨、脱水
										可	0	有	18	98	90	120/80	
6	長州テカラ	会社員	男	2階	黄		無		顔面挫創	不可	0	有	24	98	100	100/60	・収納棚の転倒により、収納物(ファイル等)が高所から頭部に直撃
7	大村マスオ	会社員	男	2階	赤	黒	有	応急救護所	胸部打撲	不可	300	無	42	90	120	70/30	・転倒した大型の収納棚の下敷き
										不可	300	無	なし	測定不能	なし	測定不能	
8	井上カオリ	会社員	女	3階	黄		無		左足切創	不可	0	有	18	98	90	140/80	・飛散した窓のガラス片で足の裏等を負傷、止血しているが産靨、脱水
9	大内ヨシオ	会社員	男	3階	黄		無		上半身切創	不可	1	有	24	95	100	100/60	・飛散した窓のガラス片で上半身広範囲に受傷、止血しているが産靨、脱水。

3 訓練評価

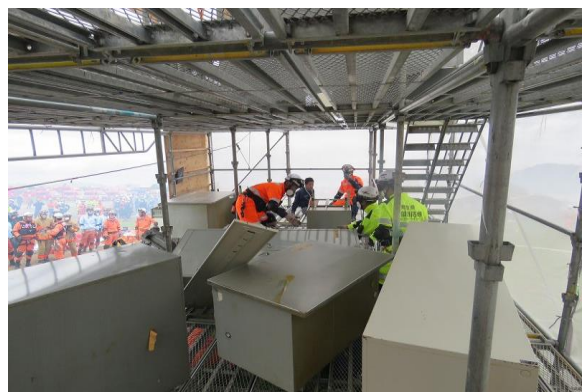
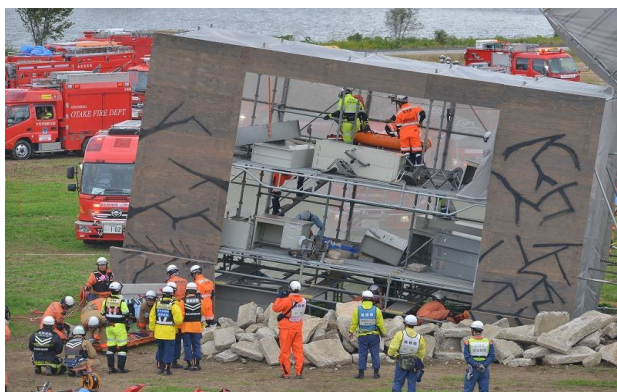
【島根県評価員】

(1) 各隊集結時に、現有資機材の掌握が行われ、連携活動に際し有効であったと考える。

(2) その他


- ・車両動線の確保や誘導スタッフに関し、安全管理が不十分であった。
- ・建物内への進入口の設定として、開口部1箇所は苦しかったと考えられる。
- ・車両停車場所のスペースが少ないと感じた。

4 活動狀況

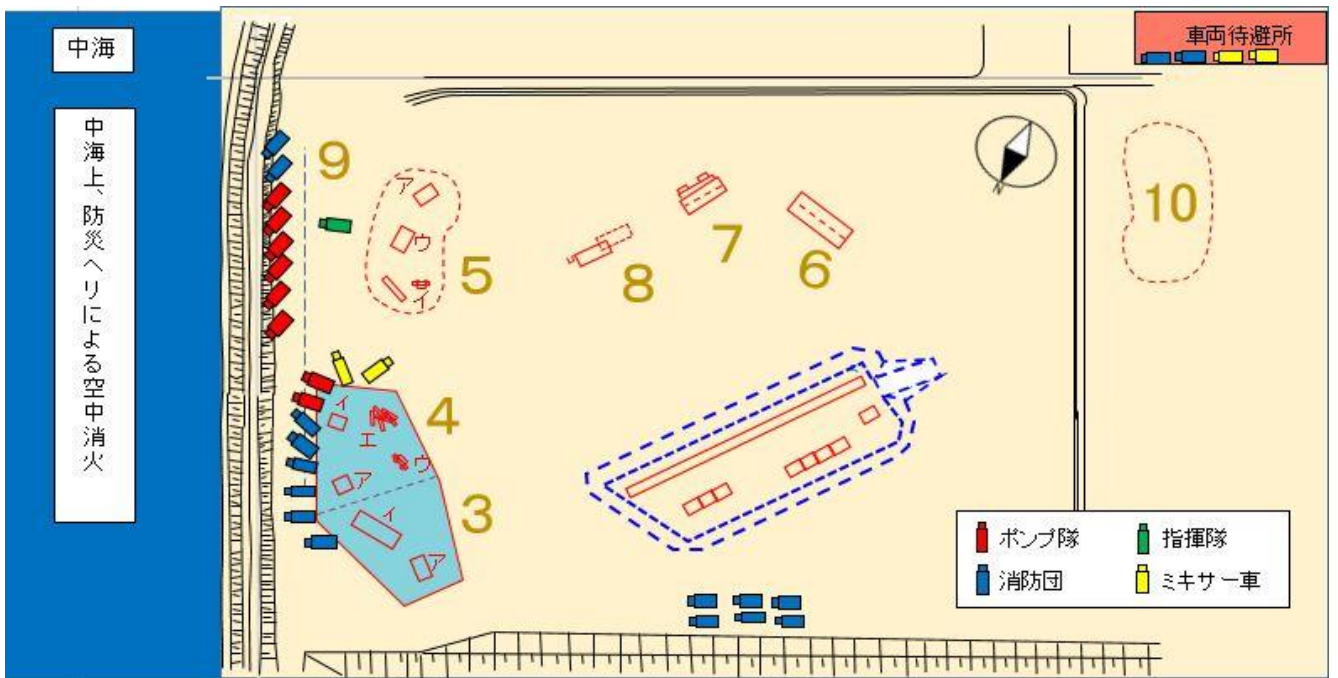
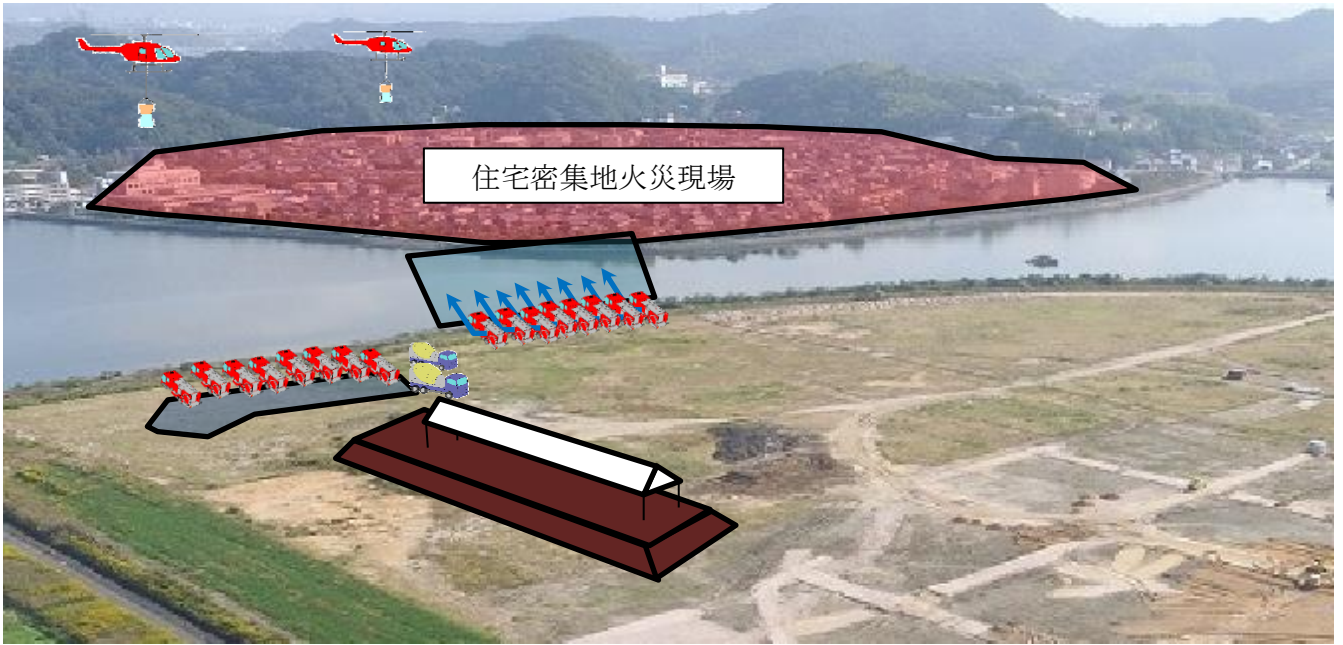




1 訓練項目別概要票

訓練名称	大規模火災対応訓練			訓練番号	⑨					
訓練時間	訓練所要時間	待機完了	出動	完了						
	40分	10時45分	11時00分	11時40分						
訓練場所	部隊運用訓練会場									
訓練想定	地震により住宅密集地で火災が発生し延焼拡大中であり、多数の消防隊を配備し火災戦闘に当たる一方、強風に伴い、救助活動中の住宅密集地への飛び火の危険有り。									
	<p>訓練趣旨</p> <p>●住宅密集地で発生した火災は、強風に煽られ、大規模広範囲に拡大伸展の様相を呈しており、ブロック火災で食い止めるため消防隊は風下に部署し消火活動にあたったが、火勢熾烈により部署移動を余儀なくされ、風横の両側に隊を分かち、両側からの放水により徐々に焼損範囲を挟撃する活動方針に転換させた。また、街区火災への移行が切迫する火災現場から吹き付ける強風により大量大型の火の粉が火災現場と川を挟んだ風下の住宅密集地、及び山林に飛翔しており、更なる拡大危険が懸念される状況においてこの川を防火帯とするとともに、消防隊を河川敷土手に部署させ、風上上空に向けた一斉放水の放水幕による延焼防止を実施する。一方で、火災対応と</p>									
	<p>平行して火災現場付近の住民の避難誘導を実施していたところに、住民避難について連携していた地元自治会長及び県警から指定の避難所において避難完了の確認がとれたとの報告を得たことにより、防災航空隊及び自衛隊ヘリによる空中消火の要請を指揮支援本部に行い、一挙火勢鎮圧を図る。なお、現場周囲に消防警戒区域の設定と空中消火の実施について全活動隊への周知を行い、安全管理を徹底するものとする。</p> <p>★指揮支援本部の指示により、各災害現場から出動可能な指揮隊及び消火小隊を出動させ、土石流災害現場（訓練⑤）の要救助者等を火勢から守るため、当該現場北東側に多数の消防隊を集結。水利は訓練会場内浸水想定池の他、島根県と協定を締結する島根県生コンクリート工業組合に対し、コンクリートミキサー車による給水要請を行い、安来市消防団の先導により火災現場へ誘導し、各隊が連携した活動を実施。</p>									
参加部隊	隊別	岡山県	香川県	航空隊	消防団	その他				合計
	部隊名	隊数	隊数	隊数	隊数	隊数				隊数
	緊急消防援助隊	4	2							6
	島根県防災航空隊			1						1
	安来市消防団				8					8
	島根県生コン組合					1				1
合計	4	2	1	8	1				16	
《活動概要》										
<p>1 指揮支援本部 消火隊及び地元消防団の現場投入について、現地合同調整所及び指揮本部との調整実施 また、防災ヘリコプターによる空中消火の要請を調整本部に実施</p> <p>2 安来市消防団 緊急消防援助隊の先導及び同隊と連携し消火活動を実施</p> <p>3 防災ヘリ 延焼防止の出動要請により、空中消火を実施</p> <p>4 島根県生コンクリート工業組合 消火活動を行う緊急消防援助隊及び安来市消防団に対し、給水支援を実施</p>										
関係機関	島根県生コンクリート工業組合、安来市消防団									
指揮支援部隊	岡山市消防局指揮支援隊									

2 訓練想定・施設



3 訓練評価

【島根県評価員】

- (1) 指揮隊が到着しない間に、放水できる時間があったが、現場最先着部隊である消防団は現場指揮を受けず放水は出来ないとのことであったが、実災害時要領での対応が必要であると思われる。
- (2) 地元消防団との連携活動は、実災害時は地元消防団の情報を十分に収集（活用）することで、消防部隊はより効率的な災害対応が図れる。
- (3) 無線及びトランシーバーの混信があり、活動に支障を来たしたので、訓練ブースごとにトランシーバーのチャンネル枠の設定を設けることを考慮すべき。

4 活動状況



1 訓練項目別概要票

訓練名称	DMAT活動及び傷病者対応訓練				訓練番号	⑩	
訓練時間	訓練所要時間	待機完了	出 動	完了			
	145分	9時00分	9時15分	11時40分			
訓練場所	部隊運用訓練会場						
訓練想定	大規模災害により島根県災害対策本部（医療政策班）が設置され、島根県DMAT及び各県DMATの派遣要請が行われた。						
	<p>訓練趣旨</p> <p>●豪雨と地震により、広範囲に被害が及んで多くの傷病者が発生し、また被災地の病院は機能不全となり、応急救護所の必要が急務である現場想定。</p> <p>★被災地周辺の病院施設は飽和状態となりつつあり、道路は倒壊建物のガレにより幅員減少、路面にクラックや段差の発生など悪路状態であり陸路搬送に長時間を要している。応急救護所の開設について関係部署との調整、救急隊による一次トリアージ、DMATによる二次トリアージ、DMATとの連携に関してDMAT調整本部等との調整、救急隊及び各機関ヘリコプターによる地域医療搬送の実施、及び国への要請・調整によるSCUの設置による広域医療搬送を考慮し、一連の活動を展開。</p>						
参加部隊	隊別	島根県	その他				合計
	部隊名	隊数	隊数				隊数
	島根県内消防応援隊	1					1
	救急小隊	1					1
	島根県DMAT	3					3
	日本赤十字社		2				2
	島根ドクターヘリ	1					1
	合計	6	2				8
<p>《活動概要》</p> <ol style="list-style-type: none"> DMAT調整本部 医療政策班との連携により、DMAT活動拠点本部の指揮、及びEMIS収容可能病院について調整 DMAT活動拠点本部 DMAT調整本部の指揮のもと、DMATの派遣等について調整 各DMAT 応急救護所での現場医療、二次トリアージの実施、及び災害現場にて医療活動の実施 救急指揮所 代表消防機関代行に所属する救急小隊が救急指揮所を開設・運営し、収容可能医療機関の手配について医療政策班と連携を実施 DMAT調整本部との連携により、EMIS情報からの病院選定を実施 ドクターヘリ 被災地県内医療機関への重症者の長距離搬送を実施 							
関係機関	島根県立中央病院、雲南市立病院、松江赤十字病院、益田赤十字病院、島根ドクターヘリ						
備考	救急指揮所（県内消防応援隊）						

2 訓練評価

【島根県評価員】

(1) DMATは有効的な観察、処置をしていたが、救護所内でのひとりひとりのウエイトはかなり大きかったと思う。限られた人員、資器材の中で救護所における赤タグ患者の安定化を最優先とするため、災害現場における医師活動の優先順位は低いと考える。

(2) 訓練中同じ傷病者情報が、DMAT活動拠点病院とDMAT調整本部に一部重複し入ってきた場があり、DMAT活動拠点病院とDMAT調整本部の役割を明確化を図る必要がある。

(3) 応急救護所からの病院選定及び搬送に時間を要した。また、応急救護所が混雑した。軽症者等にあつては、マイクロバスによる搬送も考慮。応急救護所は同じ機能の救護所の増設による分散を考慮しても良いと考える。

3 活動状況





第3 航空部隊訓練実施結果

1 10月20日（金）訓練概要

島根県災害対策本部内に設置した島根県航空運用調整班において、消防防災航空隊等のヘリコプターについて、運用調整を実施した。また、島根県警察航空隊と協力し、中国五県の警察航空隊が参集したという想定で図上訓練を実施した。

出雲空港をヘリベースとし、出雲空港内の島根県防災航空隊に航空隊指揮本部を設置し、指揮支援隊長等の受け入れをはじめ、緊急消防援助隊航空小隊のヘリコプター運用に関する指揮及び活動管理と調整を行った。

各航空小隊は、地震発生直後の被害状況調査及び情報伝達訓練、指揮支援隊輸送訓練、救助訓練等を実施した。

各所地上支援体制の確保として、島根県防災航空隊経験消防職員及び耐空検査中で機体を運用できない航空隊の隊員を有効に活用した。

ア 島根県防災航空隊（自県対応）

豪雨（地震発生前）による被害状況調査のため離陸、活動中に地震発生。基地からの連絡により覚知し、豪雨及び地震による被害状況調査を継続した。

時刻	離陸場所	時刻	着陸場所
8：25	出雲空港	9：24	出雲空港

イ 鳥取県消防防災航空隊（迅速出動／情報収集→救助・救急）

時刻	離陸場所	時刻	着陸場所
9：10	鳥取空港	10：09	出雲空港
14：47	出雲空港	15：25	出雲空港

ウ 岡山市消防航空隊（迅速出動／指揮支援隊輸送）

時刻	離陸場所	時刻	着陸場所
9：20	甲南飛行場	10：03	島根県警察学校

エ 広島県防災航空隊（迅速出動／指揮支援部隊長輸送）

時刻	離陸場所	時刻	着陸場所
9：35	広島空港	10：21	島根県警察学校

オ 愛媛県消防防災航空隊（迅速出動／参集→救助・救急）

時刻	離陸場所	時刻	着陸場所
10：58	松山空港	11：55	出雲空港
14：25	出雲空港	15：06	出雲空港

カ 第八管区海上保安本部海保ヘリ（災害情報収集・伝達訓練）

時刻	離陸場所	時刻	着陸場所
9：30	美保基地	10：10	美保基地

キ 航空自衛隊美保基地第3輸送航空隊（人員輸送・車両搭載卸下訓練）

時刻	離陸場所	時刻	着陸場所
10：30	美保基地	11：35	美保基地

ク 岡山県消防防災航空隊（地上支援活動隊）

陸路により地上支援隊員2名を派遣し、ヘリベース運営の支援を実施した。

(1) 災害即応訓練について

航空運用調整班から災害事案への対応を指示されたヘリベース指揮者は、各航空小隊に対し活動指示書により任務付与を行った。

ア 多重衝突事故対応訓練

多重衝突事故が発生し、ピックアップが必要な要救助者が取り残されているという想定により、鳥取県消防防災航空隊が対応した。

イ 土砂災害救出訓練

土砂災害が発生し、ピックアップが必要な要救助者が取り残されているという想定により愛媛県消防防災航空隊が対応した。

(2) 人員輸送・車両搭載卸下訓練について

島根県内広域消防相互応援に基づく県内消防応援隊の要請により、離島からの車両・人員輸送を想定して航空自衛隊美保基地第3輸送航空隊が、隠岐空港にて車両搭載卸下訓練を実施。隠岐空港から、人員を美保基地まで輸送する。

※神戸市消防航空機動隊と香川県防災航空隊は、当日の気象状況により不参加。

2 10月21日（土）訓練概要

主訓練会場内（中海ふれあい公園）に航空運用調整班とフォワードベースを設置して、航空部隊の運用訓練を実施した。

鳥取県消防防災航空隊と境海上保安部巡視船との連携救急搬送訓練（ヘリ着船、要救助者引継、ヘリ搬送）は、鳥取県消防防災航空隊が自県災害対応のため急きょ中止。また、台風の接近により、参加航空機は島根県防災航空隊、島根県ドクターヘリ、第八管区海上保安本部海保ヘリの3機となった。

(1) 災害情報収集・伝達訓練

航空運用調整班からの要請で、島根県防災航空隊がヘリテレを使用し訓練会場上空の情報収集活動を実施した。

(2) 堤防決壊に伴う建物等孤立者救助訓練

豪雨と地震により、氾濫危険水位に達した堤防が決壊し、家屋の倒壊流出等の危険が切迫しているなか、多数の逃げ遅れ者が孤立しているという想定により、第八管区海上保安本部海保ヘリと島根県防災航空隊が対応した。

(3) ヘリコプター救急搬送訓練

医療機関に搬送された傷病者が処置困難のため、島根県ドクターヘリにて他の医療機関に搬送を行った。

(4) 大規模火災対応訓練

地震により住宅密集地で火災が派生し延焼拡大中であり、多数の消防隊を配置し火災戦術にあたる一方、強風に伴い住宅及び山林に延焼拡大の危険があるという想定により、島根県防災航空隊が対応した。

(5) フォワードベース運営訓練

陸路により島根県防災航空隊員(4名)をフォワードベースの運営にあたらせた。また、同じく陸路により広島市消防航空隊(5名)を派遣していただき、フォワードベース運営の支援を行った。

【訓練成果】

ア 訓練に向けて他機関と調整することが今後の連携活動に繋がると考えます。お互いの活動範囲、連絡体制等組織が違うことで困難な場面も多々あった。

イ 耐空検査中の航空隊員を地上支援要員として活用し、ヘリベースやフォワードベースの運営を支障なく進めることができた。また、安全管理体制が確立された。

ウ 県災害対策本部内に航空運用調整班を設置し、各機関の出来ること、出来ないことの相互理解ができた。

エ 航空運用調整班に派遣される機関については決定権のある人員を派遣してもらう方が良いということが分かった。

オ 自衛隊の災害派遣要請後、陸上自衛隊が航空自衛隊を必要と判断した場合に航空自衛隊が登庁するため、災害派遣要請の段階で、航空自衛隊の必要性を伝えるべきであるということが分かった。

カ 災害発生から航空運用調整班の派遣、ヘリベースを設置・運営するまで、準備に必要な時間や物品、隊員の待機場所等を含め再確認することができた。

キ 昨年度整備したプロジェクター（本庁と航空隊基地をつなぎ、双方向で記入、通信連絡できるもの）が有効活用できた。

【課題・対策】

ア 消防応援活動調整本部に航空隊員は不要である。

イ ドクターヘリの動態の把握が困難であった。大規模災害時に限り、動態管理システムを積載するシステムを作り、位置情報だけでも把握できるようにしていただきたい。

ウ 指揮支援部隊長の輸送について、輸送隊が実災害と重なってしまい、県庁(災害対策本部)への到着が遅れてしまった。訓練の進行上、空輸した想定で事前に陸路移動すればよかった。

エ 航空小隊の任務は多岐にわたるが、「応援要請」「出動準備依頼」「出動の求め又は指示」等の様式には“航空小隊”としか記載がない。装備替えが必要な航空小隊としては、どの装備で応援に行けばいいのか一目でわかるような様式に変更していただきたい。

オ 今回、計画段階で耐空検査中の航空隊員の応援航空機による輸送を計画していたが、諸事情により実施することはかなわなかった。高速道路等、陸路が寸断された場合には大変有効であるので、今後ブロック訓練で行っておくべきと考える。熊本地震、九州北部豪雨でも行われた事案である。

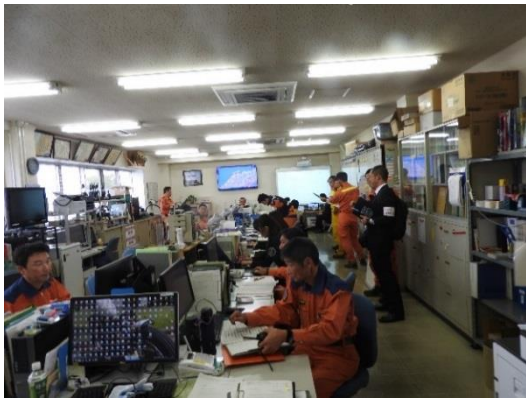
カ 総務省が自衛隊と連携した空中消火（市街地を想定）を重点推進事項としており、自衛隊と防災ヘリの連携空中消火の調整を行っていたが、自衛隊より「市街地への消火は自衛隊の任務外です」との意見があった。市街地の消火活動は防衛省と確実に調整されたものなのか確認いただきたい。

キ 今回の訓練では、電話、FAX、パソコン、プリンターなどすべての電子通信機器が使用できる状況下での訓練であった。地震や津波などでパソコンや電話FAXなどの機器が故障して使用できない状況下での訓練も必要であると感じました。

ク 今回は事前に空港事務所や燃料給油業者とスケジュール調整を行いスムーズなヘリベース運営を行うことができた。しかし、実災害時は防災ヘリ以外の機関のヘリコプターも空港に来ることが予想され、燃料確保、スポット調整等様々な問題が生じるものと予想される。今後さらなる調整が必要不可欠である。

【活動記録】

● 1日目；参集訓練





● 2日目；部隊運用訓練



第4 「解隊式及び訓練終了式」

【実施概要】

(1) 11時50分～12時20分

(2) 参加部隊

中国・四国各県緊急消防援助隊、広島市消防局指揮支援隊、岡山市消防局指揮支援隊
神戸市消防局指揮支援隊、島根県内消防応援隊、訓練参加各機関

●解隊式

ア 活動終了報告 広島市消防局指揮支援部隊長 毛利徹
イ 解隊宣言 実行委員会委員長 島根県防災部長 岸川慎一

●訓練終了式

ア 訓辞 総務省消防庁国民保護・防災部防災課長 田辺康彦
イ あいさつ 島根県知事 溝口善兵衛
安来市長 近藤宏樹
全国消防長会中国支部長 広島市消防局長 山崎昌弘
ウ 講評 全国消防長会四国支部長 徳島市消防局長 小池和成
エ 閉会宣言 次期開催地消防長 宇和島地区広域事務組合消防本部消防長 宮田新介

【実施状況】



第5 「訓練検討会」

【実施概要】

- (1) 12時30分から13時00分
- (2) 参加者

広島市消防局指揮支援隊、岡山市消防局指揮支援隊長、神戸市消防局指揮支援隊長、各県大隊長、広島市消防局訓練検討員、岡山市消防局訓練検討員、訓練評価員（鳥取中部ふるさと広域連合消防局）、実行委員会委員長

【意見等内容】

- (1) 指揮支援部隊

●広島市消防局指揮支援部隊長

指揮支援隊の仕事は、現場活動隊のバックアップである。その中で神戸市消防局、岡山市消防局の指揮支援隊からの情報により、現場のオーダーや動きについてはしっかりと把握できたと思う。緊援隊が有効な活動をしていくのに繋げていく為には、それぞれの機関が連携を深めてニーズに応えられる、或いは協力していく体制が必要だと思う。訓練自体は、指揮支援の中では上手くまわっていたと思う。

●岡山市消防局指揮支援隊長

支援がどこまで出来たか分からないが、実際の緊援隊の活動はもっと大きい枡の中での指揮支援となると思う。集団救急的な部分でさえ、情報の収集が難しかったりするの、そういうところの工夫がより一層必要であると感じた。

●神戸市消防局指揮支援隊長

指揮支援隊としての動きとして、被災地消防本部からのオーダーに対してマネジメントをするのが指揮支援隊の役割。各大隊の資機材、人員、特色ある部隊を100パーセントのパフォーマンスが出せる現場に振り分けるための調整と支援を行った。土地勘がない場所で支援するので、現場から与えられた情報と、それを発信する情報の共有と集約の部分について、如何に県大隊に伝えることが出来るかという点だけを支援隊としてやらせていただいた。

- (2) 各県大隊長

● 今回の緊援隊の訓練は、統括県大隊長という初めての試みを行った訓練であった。それぞれの県隊で指揮隊をもって、それらを統括するという形でやらせていただいた。この体制をとるためには、現場を見る隊と、指揮隊を見る隊の2つの指揮隊ができるので、どのようになるのかなと思っていたが、実際にやってみると比較的現場を取りまとめることが出来たと思う。もしこの体制ができていなければかなり苦しい活動になったのではないかと感じた。

● この度の訓練では、検証を兼ねて進出拠点までのルート新しいルートを使用して進出してきたが、新しいルートも十分活用できるという検証ができた。

● 反省点は想定される必要資機材を積載可能な分だけ積載して来なければならなかったと

ということがある。事前に行われる県内での打ち合わせで、もう少し慎重に検討すべきであったと考え、資機材準備の不足について大きな反省点とし、次回の訓練に活かしていきたい。

- 統制波1波での部隊運用となることから、かなりの無線の錯綜が見られたので、そういった面については今後どのように無線統制等の手立てがされるのか興味を持っている。
- 傷病者が水没者ということでライフジャケットをつけたまま応急救護所に搬送してしまったために、後でライフジャケットを探すということになってしまった。応急救護所に「何番の現場の資機材集積場所」等を設けていただくとありがたい。

(3) 検討員・評価員

● 広島市消防局検討員

県庁、即応訓練、夜間訓練、部隊運用訓練を見させていただいた。訓練会場の設定やコントローラー等、しっかりと整備されていて、活動隊が訓練しやすい状況であったのではないと思う。後方支援会場においても、消防庁から指摘のあった除染やごみの管理等、打ち合わせで出た項目については全てリクエストに応じていた。

● 岡山市消防局検討員

指揮本部においては、現場からの映像を、タブレット等を使用して、現場到着と同時に指揮本部に配信し、指揮本部はそれを見ながら現場をイメージしていくという形になっており、非常に良かった。重要なポイントについても、横の連絡体制がしっかり取れていたのではないと思うので、今後の活動なども含めまして、大変役にたつと思うし、有意義な訓練が出来たのではないと思う。

● 鳥取中部消防局評価員

現地合同調整所は、実災害では必ず設置されると思うが、今回未設置であったのは、やはり「訓練の難しさ」というものがあつたのではないと思う。統括県大隊長から自衛隊や警察に指示が出ていたので、現地合同調整所という名前ではなかったというだけで、現場で調整は十分になされていたと理解している。この度の要請要綱の骨子の部分で「記録の体制」「統括大隊長」「迅速出動準備等」については、各隊で管理が出来ていたと思う。



第6 「事後検証会」

【実施概要】

(1) 平成30年1月22日(月) 14時00分から16時00分

(2) 場所

島根県消防学校 2階講堂

(3) 参加機関

総務省消防庁広域応援室、広島市消防局(訓練検討員)、岡山市消防局(訓練検討員)、安来市消防本部、松江市消防本部、雲南消防本部、出雲市消防本部、大田市消防本部、江津邑智消防組合消防本部、浜田市消防本部、益田広域消防本部、隠岐広域消防本部、島根県防災部消防総務課、同防災危機管理課、同健康福祉部医療政策課、島根県消防学校

【意見等内容】

1. 重点推進事項に関する課題と対策

●調整本部について

【広島市消防局】

- ・部隊長によると、到着時の引継ぎに際して、被害状況の報告や説明に終始し、どのような対応をするかという検討材料の報告が無かった。例えば、消防力をどれだけ注ぎ込んでいて、更にどれだけ必要としているのかが分からない。
- ・実質的なリーダーがいなかったと感じた。ここでも、被害状況の説明ばかりで、どのような方針で対応しようという話がなされていなかった。地図についても、「準備したので、それぞれ見て下さい。」ではなく、全員を集めて周知する必要があるのではないかと考える。
- ・部隊長到着までに、県内応援であるとか、緊援隊が到着した場合の部隊投入について検討されると思うが、訓練では消極的であったと見えた。

【県防災危機管理課】

- ・県対策本部の各班の指揮監督という立ち位置で訓練に臨んだ。実時間で進行する訓練の中で、発災後にヘリからの目視情報という細部が分からない形で災害状況を現示して行った。関係機関との協議では、とにかく早く被害の大きな地域に消防・自衛隊・警察を投入して行こうという流れで訓練が進行して行った。
- ・ボードや地図による情報共有は当然のことで、関係機関を集めて顔合わせや重要情報を共有し、指揮支援部隊長の到着までに認識の統一を図ることを、その都度しっかりとやって行かなければならなかったと思う。

【広島市消防局】

- ・各ブース(各班)では、それぞれボード等を利用しているのは分かったが、統一感がなかった。例えば、原発の情報等の重要事項は、防災課長等が代表者を集めて周知することが必要ではないか。それにより、関係機関からの意見も出てくると思う。
- ・訓練では指揮支援部隊の到着が遅れたが、調整本部は電話連絡により部隊長と情報共有することで、より早く活動方針の決定に繋がるものと思う。
- ・県対策本部の各ブースの横の繋がりができれば、より良い災害対応になると感じた。それを

まとめるのは、やはり防災課長が良いのではないか。

- ・応援の手配、手順にとられすぎて横の繋がりが少なかったのではないか。

●即応訓練・夜間訓練について

【広島市消防局】

- ・安全管理員等の配置は適切であったと思う。
- ・2県大隊が入る想定の際に、それぞれの大隊が救護指揮、救助指揮を実施していた。同じ区域で活動するのであれば、どちらかの県隊が救助指揮、どちらかが救護指揮をしたほうが情報の錯綜が無く、より良い指揮活動となったのではないか。
- ・切迫した手振り要救助者があるにも関わらず、指揮板に集結し活動方針を統一する姿が見られた。即応すべき事案には対応しつつ方針決定するべきであると感じた。

●後方支援活動について

【広島市消防局】

- ・消防庁より提案されていた除染活動や、ゴミ量調査についても、計画段階から取り入れ実施していた。

●部隊運用訓練について

【広島市消防局】

- ・訓練会場としては、高台から見学できる工夫等があった。また、コントローラーや安全管理員も適度に配置されており良かった。訓練時間も長く設定されており、ブラインド訓練において県大隊長が活動方針等を示していくための十分な時間があったと思う。
- ・出動車両が数珠つなぎになってしまったことが、課題の一つであったと思う。
- ・各機関との合同指揮所を設置している大隊が少なかったように見受けられた。合同指揮所を設置し、即座に関係機関からの意見を聴取できる体制が必要である。

○質疑及びコメント

【県消防総務課】

- ・図上訓練において、必要な車両数等の情報がまとまっていなかったとの反省があるが、県庁の事務職員が被害状況を聞いても必要部隊数は判断できないと思うが消防本部としてはどのような認識かご見解を伺いたい。

【広島市消防局】

- ・基本的には、消防本部が必要な部隊数等について、緊援隊はこっちのブース（現場）、県内応援隊はこっちのブースなどと報告するべきであるが、連絡がなければ県庁からも情報収集する必要があるのではないか。

【安来市消防本部】

- ・被災地消防本部が情報精査し発信することが必要であるが、本訓練において安来消防指揮本部から十分な情報発信が出来なかった。緊援隊に係る要請は、電話連絡による一報に次いで、必要な隊種別・規模等を書面での連絡が必要であることを、県と消防本部が認識を持った上で、相互に確認することが重要であると感じた。

●指揮本部・指揮支援本部について

【岡山市消防本部】

・指揮支援隊長によると、松江消防到着時、実災害の様に慌しい状況であり、災害状況把握に苦慮した。図面の提供を受けたが、全体地図と詳細地図が土地勘のない者からすると整合性が乏しかったように感じた、とのことであった。

・安来消防においても、指揮支援隊用のテーブルが用意されており、全体地図は掲示されていたが、指揮支援隊が利用する白地図の提供がなかった。また、指揮支援隊への説明担当職員の配置があれば指揮支援隊も理解しやすかったのではないかと感じた。

・安来消防では、通常の事務所を指揮本部として使用したが、フロア全てを利用しスペースのある指揮本部が設置できたのではないかと感じた。重要事項はトラメガ利用により職員周知がなされており良かった。事務所を指揮本部へ変更するのは難しいかもしれないが、普段から意識を持つ必要があると感じた。

●即応訓練・夜間訓練について

【岡山市消防局】

・即応訓練の東部分署において、見学者スペースと訓練場所が近すぎ、また、見学と活動隊との動線の区分けがはっきりしていなかった。

・夜間訓練時、参加部隊の遅延もあったようだが、訓練開始等がメリハリに欠ける部分があった。

●部隊運用訓練について

【岡山市消防局】

・訓練会場としては、全体が見渡せ良かったが、見学者の子供がどんどん前へ出ていたので、落下防止等の措置があった方が良かったのではないかと感じた。

・訓練としては、iPad を利用した指揮支援隊への報告が逐次あったので良かったと思う。それをプリントアウトし情報共有も図られていたので、実災害の様に有効活用ができていたと感じた。

○質疑及びコメント

【松江市消防本部】

・指揮支援隊到着時の図面の不備、情報伝達不備について、受援本部として指揮支援隊を迎えるイメージを持ち訓練を迎えたが、内部的な訓練に終始し指揮支援隊への配慮が足りなかったという反省があり、今後に活かしたい。

・東部分署では、当初、見学者は活動禁止区域に配置すれば良いと安易に考えていたが、結果として近くなってしまった。緊援隊訓練開催について事前に周辺に情報提供したところ 200 名以上の見学があった。今後しっかり見学スペース等を検討したい。

・夜間訓練について、県大隊の到着遅れや車両待機スペースが狭く、訓練開始がごたごたしてしまった。

・訓練を終え感じたことであるが、各訓練については十分に計画したが、全体を通じてのコントローラーが必要であったと感じている。

【安来市消防本部】

・指揮支援隊への災害状況の伝達について、ホワイトボードを使い時系列で災害概況を説明

し、次いで災害状況を大型地図で説明を実施した。その後、指揮支援隊からの要請により、白地図の提供及び、その地図への書き込み等を実施する指揮本部職員を配置した。

- ・2日目の訓練会場の安全管理について、高台からの視認性を重視し柵等の設置や警戒要員の配置をしなかったが、安全管理面で配慮が足りなかったと感じた。

- ・出勤車両の動線には会場の状況からして苦慮した。会場手配・整備等に掛る負担は大きく、今後の緊援隊の訓練規模の見直しの余地について検討して頂きたい、提言させて頂く。

【広島市消防局】

- ・本来であればブラインド訓練ではあるが、事前に出動隊の部署位置を指定するという考えはなかったか？

【安来市消防本部】

- ・前日の活動ミーティングにおいて、大まかな活動区域、会場条件による通行不能箇所等は伝達していたが、部署位置の指定はしていなかった。

【広島市消防局】

- ・動線が1つしか設定出来ない様な会場では、渋滞の可能性を伝えると共に、事前に部署位置の指定をしておき、現場到着後からブラインドが始まるというのも手法の一つである。広大な訓練会場が準備できれば良いが、訓練会場にはどこも苦慮しているので、全てブラインドでやるのは無理があると感じた。

2. 島根県内消防本部の参加隊・評価員による意見等

● 出動時の資機材搬送について

【大田市消防本部】

- ・大田消防は、県内応援隊の消火小隊として訓練参加したが、宿営資機材等を消防車に積載して出動するにあたり、通常消防車に積載している資機材を降ろしたという経緯があった。他本部の後方支援隊と資機材の共有や運搬の協力をして行くということを県の応援計画の中で役務を事前に決めておけば出動がスムーズになるのではないかと思い提言させて頂いた。

○ 見解・コメント

【松江市消防本部】

- ・柔軟に対応する必要がある。過去の実績においても、資器材の運搬等について事前に調整して出動した経緯もあるので、計画や要綱等に載せるべきであると考えます。また、受援側が求める規模や宿営地の状況も様々であるので、都度調整は必要になってくると思う。

● DMA Tについて

【出雲市消防本部】

- ・DMA Tについて、救護所内で一人が抱えるウエイトがかなり大きかったのではないかと感じた。その状況で、災害現場での活動の優先順位は低いと考える。また、それに関連してDMA T調整本部と活動拠点病院との繋がりが少なかったと感じた。訓練のボリュームは多々であったが人数を増やす等で若干対応が出来たのかもしれない。

○ 見解・コメント

【県医療政策課】

- ・開催説明に際し、訓練で現場救護を実施する機会が少ないため、DMA Tチームから現場救

護に入りたいとの要望があった。また、前週にも中国五県の訓練があり2週連続でのDMAT派遣となると各病院においても派遣が厳しく、県内チームの集まりが悪かったと思う。もう少し早めに医療側と日程調整が出来ると良かったと思う。

・DMATでの反省においても、DMAT活動拠点本部に十分な人員配置が出来ず、情報伝達がスムーズに行かなかったとの意見があった。これも参加病院が少なかったことに起因するかもしれない。今後、事前調整も含めて、医師会、歯科医師会等の関係団体の救護班も含めて広く声掛けが必要と感じた。

3. 訓練全般をとおしての意見等

●後方支援について

【消防庁広域応援室】

・人員輸送は県が観光バス等をチャーターし人員輸送が出来るのと同じく、資機材搬送も同様に対応できる可能性が高いと捉えて頂きたい。全ての資機材を松江消防に預けるのではなくそういった手段も検討してみてはどうか。

●消防応援の要請基準について

【消防庁広域応援室】

・各本部内で、どの程度の災害規模であれば近隣応援を呼んで、県内応援を呼んで、緊援隊を要請するのか基準を定めている本部はあるか。

【益田広域消防本部】

・まずは、近隣応援、次に県内応援、そして緊援隊要請という指針はあるが、ではどの程度の災害規模かという所は定まっておらず、基準を定めるにあたり苦慮している。

【浜田市消防本部】

・昨年、保有ポンプ車9台中8台が出動する火災事案があった。結局、要請には至らなかったが基本的には現有消防力の7割が投入される災害時に隣接応援を要請すると決めている。結果として7割を超えたが要請しなかった。また、昨年の九州北部豪雨の前日、全職員・全団員を招集して対応した水害事案の際には、松江消防からいつでも応援出動可能であるとの連絡があり、ありがたかった。しかし、これも要請には至っていない。

【消防庁広域応援室】

・なかなか被災している消防本部は事案に全力投球すると、応援要請を検討する余裕がないということを知っている。正解はないと思うが、現有消防力の7割が出動するとか、119番が多数入電するとか、何らかの基準を決めておいた方がよい。今後、検討頂きたい。

【県防災危機管理課】

・県としては、災害救助法が適用される災害に拡大するのかが目安にあるのかなと考えている。それを超えると見込まれる場合には、空振りでも良いので広域応援を要請する必要があると考えている。

●県内消防応援隊の体制について

【松江市消防本部】

・県内応援隊は当初、様々な場所で活動をしているが、緊援隊が入ってきた際にどのタイミン

グで県内隊を1つにして、どこの指揮支援隊の指揮下に置くか、またはそのまま緊援隊と連携させるか、どうあるべきか意見を伺いたい。

【広島市消防局】

・一概には言えないが、緊援隊が来るにはやはり時間がかかる。即応できる県内隊は、宿営等は考慮せず直ちに応援出動し、必要に応じ翌朝に交代要員を派遣する体制であるべきと考える。応援出動している県内隊は地元が手薄になっているので、緊援隊到着後は指揮支援隊等と協議し、撤退か、必要に応じて交代しながら継続するものであるべきと考える。

【岡山市消防局】

・九州北部豪雨に指揮支援隊として出動した際には、緊援隊到着までは当然のことながら県内隊が災害対応していた。緊援隊到着後も県内隊と活動を共にすることはなかった。県内隊は、日替わりで通常勤務の中での派遣となるかもしれないが、この災害では、局所的な災害であり県内の他地域に被害はなく、緊援隊よりも長期的な活動となった。決まりは無いが、災害の状況により異なるのではないか。

●地図による情報共有の手法について

【消防庁広域応援室】

・松江消防の評価に入ったが、地図について、大きな地図はあったが手交する地図というものがなかった。県外から来る者としては、この地図を見て下さいだけでは、その地図と持参した地図が更新の相違により、情報が錯綜する可能性がある。収集した情報のコピーを渡すこと、または持参して来た地図に情報を落とししてもらい、最終的に大判の地図に集約し、情報を共有するという手法を検討して欲しい。

・指揮支援隊が来て引継ぎする際に、一度に大量の情報を伝えるだけでは把握しきれない。しかし、情報を落とし込んだコピーを渡すと見直すことができる。自分が引き継がれた場合の事を考え準備する必要があるのではないか。

・2日目の部隊運用訓練で、車が1台スタックし、かなり傾いていた。実災害でも地盤が悪い事はある。訓練においても状況把握、判断しながら実施することには変わりはない。スタックするのは仕方ないが、傾くまでタイヤを回しては事故に繋がる可能性があった。緊援隊は、その場で終わりではなく転進する可能性もある。事故になれば、その隊又は大隊が動けなくなる可能性もあるので大隊長等はきちんと管理する必要がある。

・浜田消防が代表消防機関代行としての訓練実施となったが、「情報がない、情報がない」ではなく、被災地側には「情報を送る余裕がない」のだと判断し、情報を取りに行かなくては行けない。被災している本部は手一杯なので、周りがフォローするというのが、県内応援体制と思う。必要な台数の報告は現場では厳しいのが実情で、県内応援側が「これだけの隊数が応援出動可能だが、どのくらい必要か？」と幅を持った選択肢を提供する。そこが、横の繋がりが強い県内応援の良い所だと思う。それを取りまとめるのが、今回であれば浜田消防であったと思う。

・後方支援車は、基本的には県に一台しか配置できない。県大隊で使用する車両なので、県一括で後方支援を実施して欲しい。また、各本部にどういう資機材があるのかリストアップし、規模によって選定して行く必要があるのではないか。様々な可能性を考慮し、事前計画を立てることにより出動は容易になる。今回の訓練を基に、意見を出し合い応援計画に反映させて

行くことが重要である。それが出来てこそ、訓練をやって頂いた甲斐がある。実災害時に役立つはずなので、訓練担当した松江消防・安来消防が中心となって取りまとめて頂ければと考える。

4. 総括

【消防庁広域応援室】

・様々な意見、課題が出ているということは非常に良い訓練であったと思う。担当者の異動はつきものであるが、この案件を引き継ぐことは出来るので、継続的に様々な意見を出し合って、より良い計画を作成して欲しい。

・重点推進事項を熟慮の上、PDCAサイクルを重視して欲しい。訓練をやって終わりではなく、改善に取り組んで欲しい。緊援隊制度・諸計画の見識を深めることは消防職員であるならば当然のことと捉え、訓練の課題、奏功事例を踏まえて、より良い受援体制が構築出来るように取り組んで頂きたい。

●事後検証会 開催風景



第7 訓練企画運営

1 企画運営体制

島根県並びに県内9消防本部をもって組織する「平成29年度中国・四国ブロック緊急消防援助隊合同訓練実行委員会」（以下「実行委員会」という。）及び実行委員会の下部組織として、「作業部会」を平成28年度に設立し、訓練の企画立案及び運営を行った。

(1) 実行委員会

区 分	所 属	役 職
委 員 長	島根県防災部	部 長
副 委 員 長	安来市消防本部（開催地消防本部）	消 防 長
副 委 員 長	松江市消防本部（代表消防機関）	消 防 長
副 委 員 長	浜田市消防本部（代表消防機関代行）	消 防 長
委 員	島根県防災部消防総務課	課 長
委 員	島根県防災航空管理所	所 長
委 員	出雲市消防本部	消 防 長
委 員	益田広域消防本部	消 防 長
委 員	大田市消防本部	消 防 長
委 員	江津邑智消防組合消防本部	消 防 長
委 員	雲南広域連合雲南消防本部	消 防 長
委 員	隠岐広域連合消防本部	消 防 長
監 事	島根県防災部消防総務課	消 防 G L
監 事	松江市消防本部	消防総務課長
事 務 局	安来市消防本部消防総務課	

(2) 作業部会

区 分		所 属	役 職・階 級
部 会 長		安来市消防本部	消防次長
副 部 会 長		松江市消防本部	消防次長
		安来市消防本部	警防課長
		島根県防災航空管理所	防災航空隊長
訓 練 班	班 長	松江市消防本部	警防課長補佐
	副 班 長	安来市消防本部	警防課主査
		松江市消防本部	警防救助係長
	班 員	安来市消防本部	警防課主幹
			警防課主幹
			警防課主幹
			警防課主任
			通信指令課主幹
		松江市消防本部	警防救助主査
			特殊災害対策主査
			通信主査
		島根県防災部消防総務課	主任主事
		島根県健康福祉部医療政策課	主任主事
		島根県立中央病院	主任
		島根県防災航空管理所	防災航空隊副隊長
		出雲市消防本部	救急第2係長
		浜田市消防本部	警防係長
	益田広域消防本部	救助係長心得	
	大田市消防本部	副署長	
	江津邑智消防組合消防本部	警防課長補佐	
雲南広域連合雲南消防本部	救助係長		
隠岐広域連合消防本部	警防係長		
運 営 班	班 長	安来市消防本部	消防総務課主査
	副 班 長	松江市消防本部	消防総務課長補佐
		島根県防災部消防総務課	企画員 S L
	班 員	安来市消防本部	消防総務課主幹
			消防総務課主幹
消防総務課主任			

運 營 班	班 員	松江市消防本部	消防総務課主幹
			消防総務課総務主査
		出雲市消防本部	救助第2係長
		浜田市消防本部	救急救助係長
		益田広域消防本部	消防係長
		大田市消防本部	消防係長
		江津邑智消防組合川本消防署	消防第1係長
		雲南広域連合雲南消防本部	警防係長
	隠岐広域連合消防本部	主任	
会 場 班	班 長	安来市消防本部	予防課長
	副班長	松江市消防本部	予防課長補佐
		島根県防災部消防総務課	主任
	班 員	安来市消防本部	予防主査
			予防課主幹
			予防課主幹
		松江市消防本部	予防主査
			危険物保安主査
			予防課主任
		島根県防災部消防総務課	主任
		出雲市消防本部	救急救助係長
		浜田市消防本部	消防団係長
		大田市消防本部	消防係主任
江津邑智消防組合江津消防署	予防係長		
雲南広域連合雲南消防本部	予防係長		
隠岐広域連合消防本部	消防士長		
事務局	松江市消防本部警防課		

2 会議の開催状況

開催日	会議名	開催場所	議題等
H28. 4. 7	第1回実行委員会	松江市消防本部	<ul style="list-style-type: none"> ・実施方針 ・実行委員会設置要綱 ・作業部会設置要綱 ・実行委員会事務局規程
H28. 11. 11	第1回作業部会	安来市消防本部	<ul style="list-style-type: none"> ・訓練各実施場所（案） ・訓練趣旨、概要（案） ・訓練実施項目（案） ・各班任務概要（案） ・会場視察
H29. 2. 8	消防庁ヒアリング	総務省消防庁	<ul style="list-style-type: none"> ・訓練概要説明
H29. 4. 11	第2回実行委員会	松江市消防本部	<ul style="list-style-type: none"> ・実行委員会設置要綱（改正案） ・作業部会設置要綱（改正案） ・事務局規程（改正案） ・進捗状況報告
H29. 5. 23	事前調整会議	総務省消防庁	<ul style="list-style-type: none"> ・消防庁担当者への訓練企画説明
H29. 5. 26	第2回作業部会	島根県消防学校	<ul style="list-style-type: none"> ・進捗状況について ・今後のスケジュールについて
H29. 7. 11	第3回作業部会	書面会議	<ul style="list-style-type: none"> ・合同訓練実施計画 (内容確認、意見集約)
H29. 7. 25	全体会議	安来市学習センター	訓練参加消防機関及び関係機関等（広域応援室含む） <ul style="list-style-type: none"> ・訓練実施計画説明 ・訓練会場視察
H29. 7. 26	事前連絡会議	松江市消防本部	<ul style="list-style-type: none"> ・次期開催地への事務要領等説明
H29. 8. 29～30	第4回作業部会	県内各消防本部 (松・安・隠除く)	<ul style="list-style-type: none"> ・訓練支援員への役務説明
H29. 10. 11	第5回作業部会	安来市消防本部 中海ふれあい公園	<ul style="list-style-type: none"> ・訓練進行要領説明
H30. 1. 22	事後検証会	島根県消防学校	<ul style="list-style-type: none"> ・重点推進事項に関する課題と対策等
H30. 2. 2	第3回実行委員会	島根県消防学校	<ul style="list-style-type: none"> ・訓練実施結果報告 ・監査報告 ・実行委員会要綱廃止

参加部隊一覧表

資料(1)

1. 指揮支援部隊

隊名	部隊種別	消防本部名	車両種別	人員	備考
広島市消防局 指揮支援隊	指揮支援隊	広島市消防局	ヘリ輸送	5	広島県防災ヘリ
岡山市消防局 指揮支援隊	指揮支援隊	岡山市消防局	ヘリ輸送	4	
神戸市消防局 指揮支援隊	指揮支援隊	神戸市消防局	指揮車	8	神消中央75

2. 県内消防応援隊

隊名	部隊種別	消防本部名	車両種別	人員	備考
島根県内 消防応援隊	県内消防 応援隊指揮隊	浜田市消防本部	指揮車	4	
		松江市消防本部	指揮車	4	消防庁無償使用
	消火小隊	大田市消防本部	ポンプ車	5	
		雲南消防本部	水槽付消防ポンプ自動車	5	
		隠岐広域連合消防本部	化学消防ポンプ自動車	5	
	救助小隊	出雲市消防本部	救助工作車Ⅱ型	5	
		江津邑智消防組合消防本部	津波大規模風水害対策車両	5	消防庁無償使用
		江津邑智消防組合消防本部	救助工作車Ⅱ型	5	
	救急小隊	浜田市消防本部	高規格救急車	4	
		出雲市消防本部	高規格救急車	4	
		益田広域消防本部	救急車	3	
		雲南消防本部	高規格救急自動車	3	
	後方支援小隊	出雲市消防本部	燃料補給車	3	消防庁無償使用
		益田広域消防本部	人員輸送車	2	消防庁無償使用
		益田広域消防本部	通信支援車	2	ボート搬送用車両
		松江市消防本部	支援車	3	
		出雲市消防本部	資機材搬送車	2	消防庁無償使用
		安来市消防本部	資機材搬送車	5	
	特殊装備小隊	松江市消防本部	梯子車	5	
		松江市消防本部	重機	3	消防庁無償使用

※黄色の網掛けは、統合機動部隊として出動

3. 各県大隊・統合機動部隊(中国地区)

県隊名	部隊種別	消防本部名	車両種別	人員	備考
鳥取県大隊	県大隊指揮隊	鳥取県西部広域行政管理組合消防局	指揮車	4	
	消火小隊	鳥取県東部広域行政管理組合消防局	タンク車	5	
		鳥取中部ふるさと広域連合消防局	ポンプ車	5	
		鳥取県西部広域行政管理組合消防局	米子3号車	2	
		鳥取県西部広域行政管理組合消防局	米子搬送車	2	
	救助小隊	鳥取県東部広域行政管理組合消防局	救助工作車Ⅲ型	5	
		鳥取中部ふるさと広域連合消防局	救助工作車Ⅱ型	5	
		鳥取県西部広域行政管理組合消防局	救助工作車	5	
	救急小隊	鳥取県東部広域行政管理組合消防局	救急車	3	
		鳥取中部ふるさと広域連合消防局	救急車	3	
		鳥取県西部広域行政管理組合消防局	救急車	3	
	通信支援小隊	鳥取県東部広域行政管理組合消防局	指揮車	3	消防庁無償使用
	後方支援小隊	鳥取県東部広域行政管理組合消防局	資機材搬送車	2	
		鳥取県東部広域行政管理組合消防局	燃料補給車	2	消防庁無償使用
		鳥取中部ふるさと広域連合消防局	指揮車	2	
		鳥取中部ふるさと広域連合消防局	資機材搬送車	2	
		鳥取県西部広域行政管理組合消防局	支援車	2	消防庁無償使用
		鳥取県西部広域行政管理組合消防局	機動連絡車	2	消防庁無償使用
特殊装備小隊	鳥取県西部広域行政管理組合消防局	水難支援車	4		

県隊名	部隊種別	消防本部名	車両種別	人員	備考
岡山県大隊	県大隊指揮隊	岡山市消防局	指揮車	4	消防庁無償使用
		倉敷市消防局	指揮車	4	
	消火小隊	真庭市消防本部	ポンプ車	5	
		赤磐市消防本部	ポンプ車	5	
		東備消防組合	ポンプ車	5	
	救助小隊	岡山市消防局	救助工作車Ⅲ型	5	
		笠岡地区消防組合消防本部	救助工作車Ⅱ型	5	
		岡山市消防局	津波・大規模風水害対策車	5	消防庁無償使用
	救急小隊	高梁市消防本部	高規格救急車	3	
		新見市消防本部	高規格救急車	3	
		総社市消防本部	高規格救急車	3	
	後方支援小隊	岡山市消防局	拠点機能形成車	2	消防庁無償使用
		津山圏域消防組合	支援車Ⅰ型	4	消防庁無償使用
		美作市消防本部		1	
		岡山市消防局	指揮車	2	
		岡山市消防局	燃料補給車	2	消防庁無償使用
特殊装備小隊	岡山市消防局	重機	3	消防庁無償使用	
ヘリコプター	岡山市消防局	BK117C-2	5		

県隊名	部隊種別	消防本部名	車両種別	人員	備考
広島県大隊	県指揮隊	広島市消防局	指揮車	5	消防庁無償使用
	消火小隊	三原市消防本部	ポンプ車	4	
		大竹市消防本部	タンク車(CAFS)	3	
		府中町消防本部	消防ポンプ自動車	3	
		江田島市消防本部	化学消防ポンプ自動車	4	
		安芸高田市消防本部	水槽付消防ポンプ自動車	5	
		北広島町消防本部	ポンプ車	5	
	救助小隊	福山地区消防組合消防局	救助工作車Ⅲ型	5	
		呉市消防局	救助工作車Ⅲ型	5	
		備北地区消防組合消防本部	救助工作車Ⅱ型	4	
	救急小隊	尾道市消防局	高規格救急車	3	
		東広島市消防局	高規格救急車	3	
		備北地区消防組合消防本部	高規格救急車	3	
	通信支援小隊	福山地区消防組合消防局	無線中継車	3	消防庁無償使用
	後方支援小隊	広島市消防局	機動連絡車	4	消防庁無償使用
		広島市消防局	支援車Ⅰ型	6	消防庁無償使用
		広島市消防局	燃料補給車	2	消防庁無償使用
		広島市消防局	資器材搬送車	2	
		広島市消防局	予防1	5	航空支援(航空隊員)
		福山地区消防組合消防局	支援車Ⅰ型	4	消防庁無償使用
		呉市消防局	輸送車	2	
		尾道市消防局	資器材搬送車	2	
		三原市消防本部	支援車(ワンボックス)	2	救急支援車
		大竹市消防本部	資機材搬送車	2	
		東広島市消防局	資機材輸送車	2	
		備北地区消防組合消防本部	資機材搬送車	2	
		廿日市市消防本部	資機材搬送車	3	消防庁無償使用
		府中町消防本部	資機材搬送車	2	
		江田島市消防本部	資機材搬送車	2	
		安芸高田市消防本部	資機材搬送車	2	
北広島町消防本部		輸送車	1		
特殊装備小隊	広島市消防局	特別高度工作車	3	消防庁無償使用	
	廿日市市消防本部	大型水槽車	2		

県隊名	部隊種別	消防本部名	車両種別	人員	備考
山口県大隊	県大隊指揮隊	下関市消防局	指揮車	5	消防庁無償使用
	消火小隊	山口市消防本部	化学消防ポンプ自動車	5	
		長門市消防本部	消防ポンプ自動車	5	
		宇部・山陽小野田消防局	水槽付消防ポンプ自動車	5	
	救助小隊	周南市消防本部	救助工作車Ⅱ型	5	
		下関市消防局	救助工作車Ⅲ型	5	
	救急小隊	防府市消防本部	高規格救急車	3	
		周南市消防本部	高規格救急車	3	
	後方支援小隊	下関市消防局	支援車Ⅰ型	7	
		下関市消防局	燃料補給車	不参加	消防庁無償使用
		周南市消防本部	支援車Ⅰ型	6	消防庁無償使用
		萩市消防本部	指揮車	3	
		岩国地区消防組合消防本部	資機材搬送車	3	
		長門市消防本部	資機材搬送車		消火小隊で運用
	宇部・山陽小野田消防局	資機材搬送車		消火小隊で運用	
備考	※燃料補給車は不具合により不参加。				

4. 各県大隊(四国地区)

県隊名	部隊種別	消防本部名	車両種別	人員	備考
香川県大隊	県大隊指揮隊	高松市消防局	指揮隊車	4	消防庁無償使用
	消火小隊	丸亀市消防本部	ポンプ車	5	
		大川広域消防本部	タンク車	5	
	救助小隊	高松市消防局	救助工作車Ⅲ	5	
		三観広域行政組合消防本部	救助工作車Ⅱ	5	
		善通寺市消防本部	救助工作車Ⅱ	5	
	救急小隊	高松市消防局	救急車	3	
		坂出市消防本部	救急車	3	
		仲多度南部消防組合消防本部	救急車	3	
		小豆地区消防本部	救急車	3	
	後方支援小隊	高松市消防局	支援車Ⅰ	8	消防庁無償使用
		高松市消防局	資機材搬送車	2	消防庁無償使用
		丸亀市消防本部	燃料補給車	2	消防庁無償使用
三観広域行政組合消防本部		資機材搬送車	2		

徳島県大隊	県大隊指揮隊	徳島市消防局	指揮車	4	消防庁無償使用
		徳島中央広域連合消防本部		1	
	消火小隊	美馬市消防本部	ポンプ車	5	
	救助小隊	鳴門市消防本部	救助工作車Ⅱ型	5	
	救急小隊	板野東部消防組合消防本部	高規格救急車	3	
		海部消防組合消防本部	高規格救急車	3	
	後方支援小隊	徳島市消防局	支援車Ⅰ型	4	消防庁無償使用
徳島市消防局		資機材搬送車	2	消防庁無償使用	
みよし広域連合消防本部		資機材搬送車	3		

愛媛県大隊	県大隊指揮隊	松山市消防局	指揮車	5	消防庁無償使用
	消火小隊	八幡浜地区施設事務組合消防本部	水槽付消防ポンプ自動車	5	
		四国中央市消防本部	水槽付消防ポンプ自動車	5	
	救助小隊	松山市消防局	救助工作車Ⅱ型	5	
	救急小隊	西予市消防本部	高規格救急車	3	
		東温市消防本部	高規格救急車	5	
	後方支援小隊	松山市消防局	拠点機能形成車	2	消防庁無償使用
		松山市消防局	燃料補給車	2	消防庁無償使用
八幡浜地区施設事務組合消防本部		支援車Ⅰ型	3	消防庁無償使用	
		今治市消防本部	資機材搬送車	2	

高知県大隊	県大隊指揮隊	高知市消防局	指揮車	3	消防庁無償使用
		仁淀消防組合消防本部		1	—
	消火小隊	南国市消防本部	タンク車	3	—
		香美市消防本部		2	—
		高幡消防組合消防本部	タンク車	3	—
		高吾北広域町村事務組合消防本部		2	—
			高知市消防局	タンク車	5
	救助小隊	高知市消防局	救助工作車Ⅲ型	5	
	救急小隊	嶺北広域行政事務組合消防本部	高規格救急車	2	—
		仁淀消防組合消防本部		1	—
	通信支援小隊	高知市消防局	無線中継車	3	消防庁無償使用
	後方支援小隊	香南市消防本部	資器材搬送車	2	消防庁無償使用
		高知市消防局	燃料補給車	2	消防庁無償使用
高知市消防局		支援車Ⅰ型	3	消防庁無償使用	
土佐市消防本部			2	—	

鳥取県

	小隊等種別	隊数	装備車両	消防庁無償使用
統合機動部隊	統合機動部隊指揮隊	2隊	指揮車	○
	消火小隊	3隊	タンク車・ポンプ車	×
	救助小隊	3隊	救助工作車	×
	救急小隊	3隊	高規格救急車	×
	後方支援小隊	3隊	後方支援車	○
	通信支援小隊	1隊	指揮広報車	×
県大隊	県大隊指揮隊	3隊	指揮車	○
	消火小隊	17隊	ポンプ車 タンク車 化学車	×
	救助小隊	3隊	救助工作車	×
	救急小隊	7隊	高規格救急車	×
	後方支援小隊	7隊	支援車 搬送車 燃料補給車	○
	通信支援小隊	1隊	指揮広報車	×
	特殊災害小隊	3隊	毒劇物対応車	×
	特殊装備小隊	3隊	水難救助車×1 はしご車×2	×

岡山県

	小隊等種別	隊数	装備車両	消防庁無償使用
統合機動部隊	統合機動部隊指揮隊	1隊	指揮車	○
	消火小隊	3隊	水槽付ポンプ自動車(2,000L) 2台 CD1 1台	×
	救助小隊	2隊	救助工作車Ⅲ型2台	×
	救急小隊	3隊	高規格救急車3台	×
	後方支援小隊	1隊	支援Ⅰ型	×
	通信支援小隊	1隊	無線中継車	○
県大隊	県大隊指揮隊	3隊	指揮車	×
	消火小隊	29隊	CD1など	×
	救助小隊	10隊	津波・大規模風水害車など	○
	救急小隊	21隊	高規格救急車	×
	後方支援小隊	12隊	拠点機能形成車 支援車Ⅰ型 燃料補給車 大型除染システム搭載車 空気充填車 人員輸送車(21人)など	○ ○ ○ ○ ○ ○
	特殊災害小隊	3隊	特殊災害対応車(ハズマツ)など	○
	特殊装備小隊	9隊	大型ブローカー車 大型水槽車 重機・重機搬送車 梯子車 梯子車(屈折25m)など	○ × ○ × ×

広島県

	小隊等種別	隊数	装備車両	消防庁無償使用
統合機動部隊	統合機動部隊指揮隊	1隊	指揮車	○
	消火小隊	3隊	水槽付消防ポンプ自動車 消防ポンプ自動車	×
	救助小隊	4隊	救助工作車	×
	救急小隊	3隊	救急車	×
	後方支援小隊	4隊	支援車2台、燃料補給車 資器材搬送車	○ ×
	通信支援小隊	1隊	無線中継車	○
県大隊	県大隊指揮隊		(統合機動部隊指揮隊)	
	消火小隊	10隊	水槽付消防ポンプ自動車 消防ポンプ自動車 化学消防ポンプ自動車 など	×
	救助小隊	3隊	救助工作車	×
	救急小隊	6隊	救急車	×
	後方支援小隊	12隊	資器材搬送車	1台○
	特殊災害小隊		必要な場合に派遣	
	特殊装備小隊		必要な場合に派遣	

消防庁 無償使用	機動連絡車
	特別高度工作車
	大型除染システム搭載車(平成30年3月配備予定)

山口県

	小隊等種別	隊数	装備車両	消防庁無償使用
統合機動部隊	統合機動部隊指揮隊	1隊	指揮車 1台	×
	消火小隊	2隊	消防ポンプ自動車 1台 化学消防ポンプ自動車 1台	×
	救助小隊	2隊	救助工作車Ⅲ型 2台	×
	救急小隊	2隊	高規格救急車 2台	×
	後方支援小隊	1隊	支援車Ⅰ型 1台	○
	備考	※被災県によって統合機動部隊の編成が変わる。 上記は島根県が被災した際の編成。		
県大隊	県大隊指揮隊	2隊	指揮車 2台	指揮車1台無償使用
	消火小隊	27隊	消防ポンプ自動車 14台 水槽付消防ポンプ自動車 9台 化学消防ポンプ自動車 4台	×
	救助小隊	7隊	救助工作車Ⅱ型 4台 救助工作車Ⅲ型 3台	×
	救急小隊	19隊	高規格救急車 19台	×
	後方支援小隊	11隊	支援車Ⅰ型 2台 燃料補給車 1台 資器材搬送車 5台 人員輸送車 2台 起動連絡車 1台	支援車Ⅰ型1台無償使用 燃料補給車1台無償使用 資器材搬送車1台無償使用 人員輸送車1台無償使用
	特殊災害小隊	2隊	その他の車両 2台	×
	特殊装備小隊	水難救助小隊 2隊	その他の車両 2台	×
その他の特殊な装備を用いて消防活動を行う小隊 4隊		はしご自動車 2台 屈折はしご自動車 1台 大型水槽車 1台	×	

兵庫県

	小隊等種別	隊数	装備車両	消防庁無償使用
統合機動部隊	統合機動部隊指揮隊	1隊	指揮車	○
	消火小隊	2隊	消防ポンプ自動車	×
	救助小隊	2隊	救助工作車Ⅱ型 資機材搬送車	×
	救急小隊	2隊	高規格救急車	×
	後方支援小隊	1隊	支援車Ⅰ型	○
	通信支援小隊	1隊	無線中継車	○
県大隊	県大隊指揮隊	4隊	指揮車	
	消火小隊	21隊	消防ポンプ自動車 化学消防ポンプ自動車	
	救助小隊	11隊	救助工作車Ⅱ型など	
	救急小隊	16隊	高規格救急車	
	後方支援小隊	21隊	支援車Ⅰ型など	
	通信支援小隊	2隊	無線中継車	
	特殊災害小隊	7隊	大型化学高所放水塔車 遠距離送水用大型ポンプ車など	
	特殊装備小隊	13隊	ホース延長車など	

おわりに

この度の合同訓練を企画するにあたり、山口県、岡山県、徳島県、香川県、鳥取県、そして長崎県の各消防本部からご指導・ご助言を頂き、効率的に進めることができ、感謝を申し上げます。また、被災地としての緊急消防援助隊との連携及び受援体制に係る検証と貴重な経験を積むことができ、大変有意義な訓練となりました。

最後に、この実施結果報告書の作成にあたり、多大なご支援ご協力を頂きました中国四国各県代表消防機関、並びに広島市、岡山市、神戸市の各消防局の皆様に感謝を申し上げます。

平成29年度中国・四国ブロック
緊急消防援助隊合同訓練実行委員会事務局

平成 29 年度中国・四国ブロック緊急消防援助隊
合同訓練実行委員会



【問い合わせ】

島根県防災部消防総務課 TEL 0852-22-5884/6260 FAX0852-22-5930

Email : shobo-somu@pref.shimane.lg.jp

松江市消防本部（警防課）TEL : 0852-32-9131 FAX : 0852-22-9876

Email : fdpt-keiboh@city.matsue.lg.jp

安来市消防本部（警防課）TEL : 0854-23-3431 FAX : 0854-23-1987

Email : syoubou-k@city.yasugi.shimane.jp